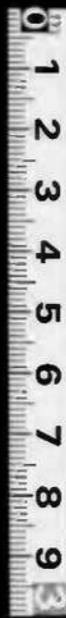


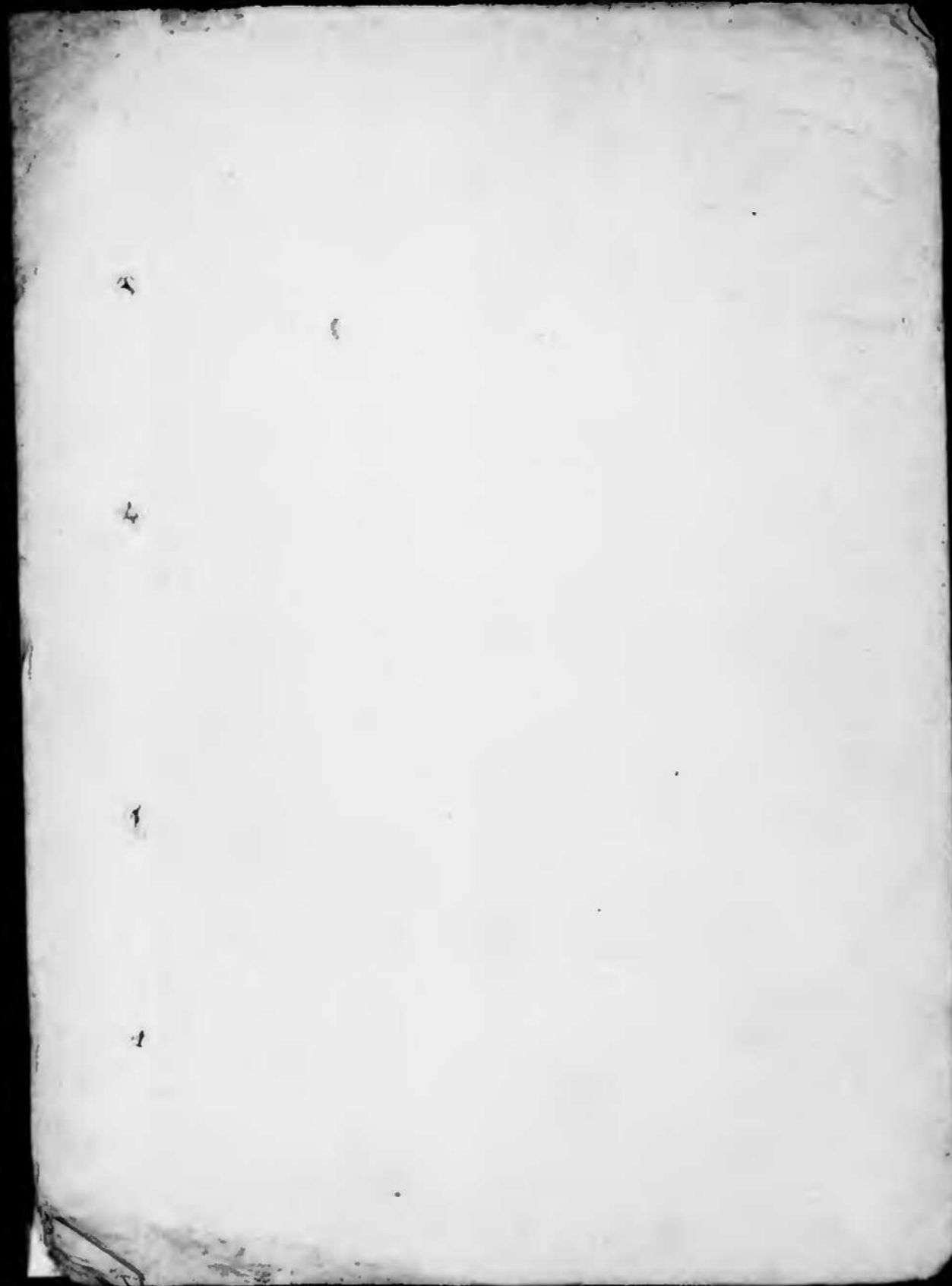
三五

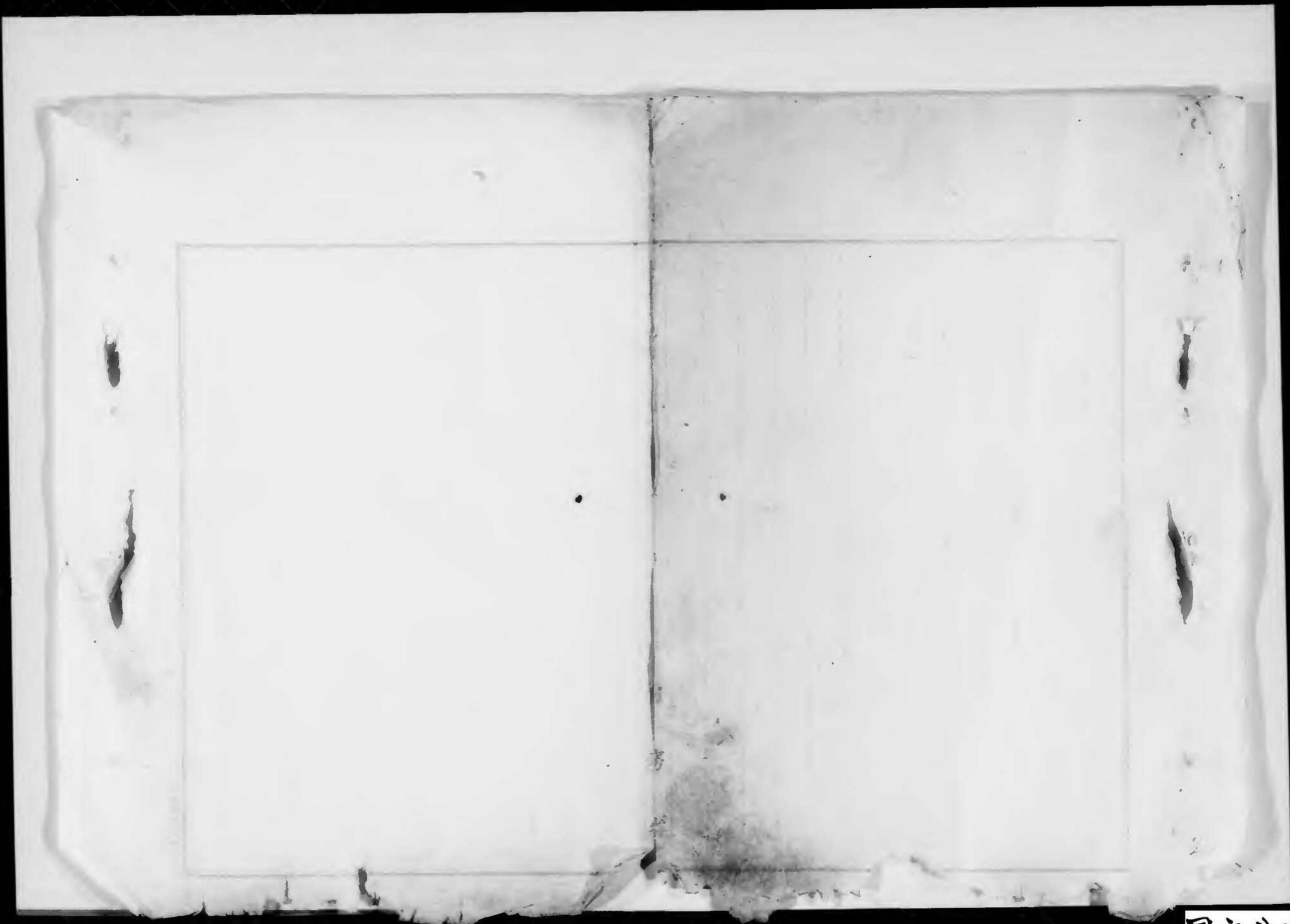
大正七年
伺照會

市町村課

国立公文書館
自治省
48
3 A
13-7
13







番號

目次

名

一	府縣稅徵收ニ関スル件 回答	府縣
二	登録稅免除ニ関スル件 通牒	高知
三	河川改修費分担金ニ依リ資金供給ノ件	鳥取
四	區有佛像負擔件贈與ニ関スル報告	富山
五	長崎港灣海陸聯絡ニ関スル意見	奈良
六	地方公共團體ノ起債ニ関スル件 通牒	長崎
七	結果社ノ件ニ関シ通牒	大藏省
八	直接稅指定ノ件	京都
九	農業倉庫法施行ニ関スル件 回答	香川
一〇	地方稅制限ニ関スル法律中改正	宮崎
一	件請願	高知
二	村境界變更並財產処分ノ件 依 余通牒	福島
三	不動産登記簿閲覧手数料 ノ件 依余通牒	新潟
四	徵收處分委託金送付費用ノ件 通牒	地方官
五	都市ノ經營ニ関スル件 上申	東京
六	内地ニ居住スル朝鮮人名簿人 ノ氏名確ニ関スル件 決定	新潟
七	制限外課稅ノ件 回答	福島
八	災害復舊費貸附規程報告件 通牒	新潟
九	市制第百二十六條第二号ニ依ル特別 稅改正ニ関スル件	栃木

起債借付文
令

- 一九 村長選挙の場合指名推選の方法
關之件 回答 岩手
- 二〇 収入税賠償責任に關之件 回答 静岡
- 二一 所得税附加税賦課率決定
町村會 町村會議員補充に關之
件 回答 東京
- 二二 耕地整理債引継に關之件 回答 岡山
- 二三 及通牒 各地方
- 二四 起債借付に依る通牒 長官
- 二五 令 中形
- 二六 令 官崎
- 二七 令 千葉
- 二八 町々幾し市外に置キタルトキ條例

- 二九 規則、効力に關之件 回答 收年
- 三〇 市町村義務教育費國庫負担
法に關之件 回答 文部省
- 三一 市町村豫算式に關之件 通牒 地方長官
- 三二 市町村義務教育費國庫負担法
に依る通牒 令上
- 三三 市町村組合に關之件 令上
- 三四 市町村義務教育費國庫負担
法に關之件 回答 官成
- 三五 横濱新港利用に件、配當金
に關之件 令上
- 三六 中郡峰山町外に村境変更件 京都

市町村義務教育費國庫負担法

三六 國道及假定縣道ノ維持修繕費
ヲ大阪市ニ移スノ件 回答

三七 市豫算ノ件 通牒
長崎

三八 不動産取得税許可ノ件
三重

三九 制限外課税ノ件 通牒
合上

四〇 市町村ニ於テ附加税ヲ賦課スル
合上

四一 所得稅歩合ノ件
合上

四二 制限外課税ノ件 通牒
長崎

四三 市會議員選舉ニ關スル罰則
長崎

四四 所得稅附加税賦課歩合ノ件
山梨

四五 上申書ニ關スル件 通牒
山梨

四六 火葬場使用料ノ件 通牒
廣島

四七 國事業ニ對スル寄附件 回答
三重

四八 犯罪者通知取扱ノ件 通牒
司省

四九 水道給水條例ノ件 通牒
長崎

五〇 郡市役所巡視報告ノ件 照會
群馬

五一 衆議院議員選舉法第百一條ノ
長崎

五二 市會議員補充方法ノ件 回答
長崎

五三 町村境界變更ノ件 通牒
福岡

五四 市豫算ノ件 通牒
廣島

五五 市豫算ノ件 通牒
福岡

五五 市決算ノ件 通牒
香川

漢字改定
考下改へ

五六 及別割條例ニ関スル件 照會 高知

五七 公園使用料ノ契約依リ差支ルニ付然ル件 福島

五八 市役所等執務時間ノ件 回答 神奈川

五九 電氣使用料條例申料金ノ範圍程度ニ條 岐阜

六〇 神社ノ修費補助ノ件 依命通牒 各地方

六一 共通法施行ノ件 通牒 今上

六二 市豫算ノ件 通牒 岡山

六三 禁治産准禁治産宣告等通知其他件 栃木

六四 市財政及市區改正ニ関スル事務取扱方 發議

六五 英國勲章贈与ノ件 通牒 神奈川

六六 任期計算ノ件 回答 大阪

六七 義務教育費國庫負担法ニ依ル文件

全ニ關スル件

市ノ議員普級選舉ノ表ニ付申 中形

六八 市決算ノ件 通牒 高知

六九 境界變更ノ件ノ財産処分件 通牒 新学

七〇 名古屋市外債買入銷却ノ能否ニ 愛知

關スル件 (大藏省發議) 宮城

七一 縣稅免除ニ關スル件 岐阜

七二 市町村行政事務監督ニ關スル 中形

七三 諸規程改正ノ件 報告 岐阜

七四 島尾郡大東島ニ於ケル所得稅 附加稅徵收ニ關スル件 (大藏省發議) 中形

七五 縣稅賦課細目議決委任ニ關スル 中形

七六 京都市特別税家屋税ヲ直接
税ニ指定ノ件 福島

七七 段別割、不均一賦課ニ関スル件照會 京都

七八 行政訴訟ニ関スル證據調ノ件 長野

七九 村會吏更ニ申シテ財産処分ノ件 熊本

八〇 町村費リク次ニ米等ヲナル場合、
以民権ニ関スル件 回答至通牒 山形

八一 市町村ノ設置命令等ノ場合選舉
人名簿調製方ノ件 回答 京都

八二 戦死病没軍人ノ葬儀ヲ以テ葬
トスルノ件 回答 山口

八三 今上ノ件並出征軍人遺族救護ノ
件 回答 山口

八四 小學校教科書中自治ニ関スル件 大分

八五 豫算並決算會議決ニ関スル件 文部省

八六 市町村役手教科書ノ件依命通牒 千葉

八七 福島病院組合費ノ賦課徴收ニ
関スル件 福島

八八 市町村吏員給料手當ニ関スル件 照會 地方長官

八九 徴兵旅費支給方件 回答 奈良

九〇 市監督ニ関スル件 (市會議件未了ニ
關シテ) 通牒 廣島

九一 市區町村吏員給與ノ件 通牒 地方長官

九二 課税及特別税率條例裁令書
式決定

岐阜

九三 軍人後援事業費補助件回答
九四 産海使用料條例等之六款割賦
課等級ノ標準ノ多寡差ノ
級之不可然件照會

廣島
長崎

九五 水道條例適用ノ旨ニ付回答
九六 滞納者訂立不明ノ故ノ以テ直ニ賦
徴起分トシテ不可然件通牒

青森
廣島

九七 市制第十八條ノ所謂請員ノ件
回答
九八 島嶼町村ノ財務ニ関シ規程許
可

東京

九九 市長候補者推薦ノ件（従前
犯罪アリタル者）

岡山

一〇〇 道路ニ関スル條例中町村ニ屬スル
事務ノ一部住民ニ負担セシムルハ
適法ノ件通牒

味田

一〇一 戦時利得税附加税ニ関スル件
通牒

山口
地方
長官

一〇二 鐵道乗車証明書ノ件通牒
一〇三 公設市場敷地ノ多寡有地無地
ノ件通牒

津奈川

一〇四 國ノ事業ニ對シ公共團休ノ寄
附ニ關スル件

福島
山口

一〇五 水利組合制限外課税ニ關スル件

一〇六 機關器機等ニ付ニ課税ノ件
永命通牒
地方長官

一〇七 申請書意見書等ノ監督官
審判官
音川重雄
高知

一〇八 基本財産造成費ノ財源ヲ國
稅徵收交付金ニ求ルルニ付然
件 照會
福岡

一〇九 及別割課税ニ均衡ヲ得ルニ付
件 依命通牒
北海道

一一〇 特別稅建物の割ニ同一方法ノ下ニ
規定賦課セラルル件 依命通牒
全

一一一 低利資金支出ニ關スル農工銀行同
盟會決議陳情要領

一一二 市力聯合會ニ付ニ祝賀文ノ發

一一三 三重縣令印鑑規則ノ件
佐賀

一一四 設別割賦課ノ年度及課率ノ
條例ニ於テ確定シ居ル場合ニ付
議決ヲ要スル件 通牒
福岡

一一五 市町事務整理改善件 通牒
佐賀

一一六 國ノ事業ニ對シル寄附金ノ件
遮信者
石川

一一七 不動産取得稅件 通牒
新澤
四方長

一一八 村會議員定數條例ノ件 通牒
新澤
四方長

一一九 町村吏員給與規程件 照會
新澤
四方長

一二〇 日用品市場使用料條例中ニ付
委託

品、危険物且、南に規定ありし(中)件
依命通牒
一三二 敦賀港若揚場使用許り(中)依
命通牒

大分

福井

六
地方
渡邊
府縣課長 潮
市町村課長 田子
七年

源
参事官 山縣 前田 堀切

大藏大臣
次官 市来
主税局長 松本

府縣稅徵収ニ関スル件
案

高知縣知事 花
地方局長

府縣稅徵収ニ関スル件 回答
標記、件、本年三月二日發第一九八号照
會ノ趣、案右納期前、徵收スル場合告知
ヲ為シ、其、指定期日内、税金ヲ完納セザルキ
ハ直ニ主税滯納者ノ例、依リ、處分ヲナレ
得ル義ト存ス、尚右ノ指定期日、府縣稅生收
ニ関スル規定、所謂納期、該當不致又知
件ノ場合、主税生收、等、ナシ、ナリ、之、準
用ス、キ、元ノ、旨、之、共

府縣稅徵收ニ関スル勅令第六條ハ府縣稅ヲ納期内ニ完納セサル者ニ對スル一般的规定ナルニ依リ國稅徵收法第九條但書ノ如キ特別ノ例外規定ナキ以上第九條ハ納期前徵收ノ場合ニ適用セラルヘキモノナリ從テ解釈論トシテ第八條ノ場合ニ於テ督促狀ヲ發布スヘキモノト解スルノ外ナキモノト被認

但シ第九條ノ納期前徵收ノ場合ハ納稅者ヲシテ納期ノ利益ヲ失ハシムルモノナルニ依リ以テ之ヲ督促狀ヲ發スルハ無用ノ手續ヲ重ヌルニ過ヤス明ニ之レヲ不備ナラシメテ府縣稅徵收ノ間ニ勅令ヲ改正シ國稅徵收法第九條但書ノ通リ如キ規定ヲ設クヘキモノト信ス

右同意

守屋 參事官
志他 參事官

第六條ハ納期内ニ完納セサル者ニ關スル規定ニシテ第九條ノ場合ヲ包含セズ故ニ第九條ノ可トス

堀切 參事官

六^三九^三三
地方

係田

市町村課長

録

通照案

鳥取縣知事宛

地方局長

二
大正六年七月二十四日
登録税免除之件
通照
案第三二七号ヲ以テ

即由出相成ノハ町村ニ於テ種管スル温泉療
養所敷地ノ所有權登記ニ關スル標記ノ件
ニ就テハ過般未引法省法務局長ト協議
度今因別紙寫入通照回答有之茲ハ付右様
申了知相成度

庚申二地五三身

本年九月六日鳥地九三身ヲ以テ印帳簿
取込賣所村ヲ於テ經營スル温泉療養
所賣地買収ニ因ル所権取得登記ノ
登録視ニ關スル件ハ同年十月三日鳥地九
九三身所回答ノ如キ事ナルニ於テハ
又登録視法第九條第三号ニ該當スル
モノトシテ取扱フ事ヲ得ルト思考致共
此般及回答ニ付

大正六年十月二十一日
司法省法律局長法律部何五此高車通

地方官長清白書付後

七 一 十五
地方

海

有縣課長
市町村課長

源

河川改修費負担金ニ低利資金
供給件

三
市町村に付てハ農ニ地方長官會議ニ於テ又
之カ供給方希望ノ意見アリ大抵省々
對シ再應交渉ヲ重クシタルニ議纏ラスレテ
今日及ハルモノナルカ低利資金供給費目
就テハ相当地範圍ヲ擴張セラレ可ク然トモ

ニ付進テ別業ヲ具シ大抵省々一收綴スル
トレ市町村ハ亦各散此位高覧ニ供シ

地九二号

地方低利資金供給ノ件申請

大正七年一月九日 富山縣知事井上孝哉

内務大臣官署後藤新平殿

大臣 大目 傍白主計局

昨冬臨時縣會ニ於テ神通川改修ニ事ニ對スルニ於テ
担金支弁ノ爲メ金百七十六万三千圓起債ノ供決議ヲ經
目下許可申請中ノ要石ニ昨年五月二十四日內務省
發地弁一〇九号地方官長理財官長連名依命通牒ニ係ル
標記資金供給條件中一項ハ五年ノ依ル水害豫防
費トシテ當然低利資金ノ供給ヲ得ルニキリ候レ
辰リ災得共仄聞スル所ノ依ルハ右改修ニ事ハ別直接

ノ事業ニテハハルヲ以テ在否相全ノ間ニテハ低利ノ供給ヲ求
ヤニ云々之れ等毎甲ハマテニナリ改修ニ事ノ目的ハ全ク水害
豫防ノ爲ニ外ナラザルハ故カ有之怪ラ要後縣會トシテ施
行スル場合ニ於テハ當然水害豫防費トシテ低利資金ノ
供給ヲ得ラズキスルニ備ニ主務大臣ニ於テ指示セラル
ルカ爲メ全出同一性質ノ費用ナルニ係ラス所ノ分担金ノ
所スルノ故ヲ以テ之カ供給ヲ求ケ得ラレサルカ如キハ
稍ニ整理ニ悖ルル如クニ被存候辭テ一面縣財政ノ
状況ヲ見ルニ七年初メ此ケル田縣債現在高率
百三十九万六千圓ニ上リ更ニ前叙新債ヲ加フルハ之ノ債
還ハ大正三十四年及ニ毎年前叙新債元利實ニ四十
万円以上五十四万円内外ニ漲ルノ状況ニテ地租附加税ハ大
正七年及ノ如キ制限外倍額以上ノ六十兆ヲ財課シテ

數別又一戸百三十第六重ノ高率ヲ課シ縣民ノ負担
實ニ輕カキル現況ニ有之タ得ハ今若シ今回ノ起債ニ
於テ高率ノ起債ヲ爲スル如キニ至ラハ益ニ困難ノ
次第ニ有之タ糸事柄中洞察ノ上是非低利
次ノ金供給方措ニ即註意相仰方以爲豫メ
及申請也

庶第 三三六九号

客年三月二十九日内務省奈地第四二号ノヲ以テ管下
磯城郡城島村忍阪區有佛像處分ノ義御許可
相成テ處分並管理方法報告書當該村長
ヨリ別紙ノ通差出候ニ付及進達也

追テ五百匁ヲ先ニ賣却契約シタル上田藤五郎
ニ支拂テ為スハ地方慣行ニ依ル手附金令セト称スル
モノ、實行ニシテ事情已ムヲ得サル点有之踐金
ノ管理及堂宇ノ修理等ニ関シテハ更ニ吏員ヲ派
シ事實ヲ監査シ經費ヲ節シ得ルノ余地アラハ之カ
儉省ヲ計リ且基金ノ管理ニ関シテハ可成公債
証書ニ換ヘ利殖セシムル見込ニ有之候ニ付申候
也

大正七年一月十七日

原良助 木田川在土彦

内務省地方局長 樋田 敬一 中 敬

庚第五二八号

區有佛体員担付贈與ニ對スル取得金處分報告

大正六年十一月二十四日

奈良縣磯城郡城島村長岡村赤井中

内務大臣男爵後免新平殿

本年三月二十九日付内務省五奈地第四二号ヲ以テ市村大字忍坂区有佛体員處分ノ件許可書ニ於テ貴處本件ニ對スル取得金ノ處分方法左記ノ通り區會ノ決議ヲ經テ裁決及報告セヨ

左記

一 金六千圓

區有佛体員担付贈與ニ對スル取得金

内

一 金五百圓

先キニ本村大字忍坂上田藤五郎ニ對シ金四千圓ヲ以テ佛体員全部二十俣ノ賣買契約ヲナシタルニ止當ノ手續ヲ經サルモノナリレヨリ不履行ノ止キニ至リタリ故、區民ヨリ買主ニ對シ進テ相當手續ヲ許可ノ上ハ通知照會ストノ契約書ヲ差入レテハ件ハ適當ニ解決シ置カサレハ他日紛争ノ因ナレト大字間ノ平和ヲ壞ルニ至ルヲ以テ賣買交渉中諸方ノ費用ヲ要セシ補足トシテ本金ヲ交付シ禍根ヲ絶滅スルニテ尤モ本件ノ方法ニヨリ双方共ニ憂モ異議ナク因滿ニ解決終了ヲ告グルモノナリ

一 金壹千五百圓

本懸算ヲ以テ目下頗ル荒廢セル元堂宇及其ノ

境内ノ應急修理ヲ施シ可及限リ旧態ノ壞滅ヲ防キ以テ石造ニ佛ヲ保管セシトス尚文字ヲ佛作保管中ノ費用ヲ要求シテ之ノ處公セシトス

一 金四千円

本金ハ永久ニ基金トシテ保管増殖ノ目的ヲ以テ信用アル銀行ニ定期^{預金}ト爲スカシテ若クハ公債^{高利}ニ貯入ル等^ニ確實ナル管理方法ヲ講シ元金ハ一切使用セズ其収入ヲ以テ必要欠リハカラサル用途ニ支出セル残金ハ毎年基金ニ組入レ増殖ヲ圖ルモノトス

發士才二号

七年一月二十日決刊

大正六年十二月廿四日

土木局長

技官中野

河港課長 池田
調査課長 不立
技術課長 近江

乙 大臣
次官岡了

地方局長 佈田

次官 佐工

長崎港灣海陸聯絡に關スル意見

長崎縣長崎市會
長崎勸業協會

右意見ノ要旨タル長崎港ハ先年其浚渫ト相俟テ九州鐵道ヲ出島、延長レ棧橋ヲ架設シテ海陸運輸ノ便ヲ計ラントシタルモ浚渫工事ヲ施行

五

ニタル外出島延長線ニ要スル敷地ヲ九州鐵道ニ賣却シタルニ止マリ棧橋ノ架設ハ市ノ財政ノ都合上之方遂行ヲ見合セ今日ニ及ヒタリ然ルニ偶々長崎稅關當局者ハ九州鐵道時代ニ出島延長線ノ終点ト豫定シタル出島仮置場構内ニ繫船壁ヲ築造セトスル計畫アリ之レ市民多年ノ宿望ニシテ長崎市ハ之カ爲メ新生面ヲ拓キ東洋南洋ノ交通ニ其使命ヲ完フスルヲ得ニ政府ハ長崎港ノ位置穩一市民ノ宿願ヲ酌ニ長崎稅關當局ノ計畫ヲ容シ一日モ早ク海陸連続ノ設備ヲ完フセラレ度ト云フニ在リ依テ案スルニ長崎港ハ曩ニ港灣調査會ニ於テ決定シタル重要港灣ノ一ニシテ之レカ施設計畫ニ關シテハ土木局

ニ於テ調査ヲ遂ケ港内調査會ノ審裁ヲ經
テ決定セラルルニ付右調査ノ際併テ
取調ハテ可然哉
仰 有 裁

意見 異々

六月七日

藏地 参

七 一 十二

地方

津邊 係田

市町村課長 沼田
市縣課長 森

水野

地方公共団体ノ起債ノ関スル件通牒案

年月日

大藏次官宛 (初稿)

内務次官

地方公共団体ノ起債ノ関スル通牒ノ義
ニ付通牒

六

地方公共団体ノ起債ノ関スル通牒案 叢令
議相成案ニ付右ノ通牒ノ必要ヲ認メサル旨有答
本年十二月二十日花第7号ヲ以テ及而昭議案
本年一月七日往第2号ヲ以テ該件ニ関シ地方
長官ニ通牒ヲ發セラレタル趣通牒ノ接シ次
然ルニ地方ノ財政ノ関シ本件ノ如ク貴省單獨ニ
地方長官ニ通牒ヲ發セラルニ於テハ監督ノ統
一ヲ期スル上ニ付遺憾ナルノミナラス地方公共団体
ニ對シ一般監督權ヲ有スル當者ノ関與ヲ為サ
サルカ如キ地方制及ノ趣旨ニ無之ト存セラレ莫
付將來此ノ如キト無之標篤ト申留意ヲ煩ハシ
度

徑中二号

地方公共團體起債之實況に注意を方別
として、通商各地方長官、通商各地方
為市長、各地方長官、通商各地方

大正七年一月七日

大藏省理財局長 神野清之助

内務省地方官長 添田教一 氏

往茅二號

時局ノ重大ナルニ鑑ミ我國經濟上施設ヲ要スヘキ事業一ニシテ足ラスト雖就中生産事業ハ其最ニ急務トスル所ニシテ力メテ其進歩發達ヲ企圖セサルヘカラズ地方公共團體ノ起債ノ関シテ亦此趣旨ニ依リ取捨其宜キヲ制スヘキハ勿論ノ儀有之候處迄般來財界ノ好況ナリレニ伴ヒ動ニスレハ事業ノ緩急ヲ視ミサル傾向ヲ生スルコトナキヲ保シ難ク候ニ付事業ノ性質必要ノ程度等ハ勿論其施行ノ時期ニ付テモ特ニ注意ヲ加ヘラレ度殊ニ鉄類其他材料ノ缺乏價格ノ騰貴甚シキ并柄是等多額ノ材料ヲ要スル各種ノ事業ハ戦時及戦後ノ情勢ヲ達觀シ計畫上選算ナキニ極

慎重ナル考慮ヲ加ヘ國家ノ資本勞力ヲ奪ケテ可成之ヲ直接生産ニ充當シ以テ時局ノ急務ニ應スル様致度右ノ豫テ内務省ヨリノ注意ニ依リ實情相成居候様及開居候得共尚ホ爲念依命以

安及直保修也

大正七年一月七日

大和者社社長神野徳之助

心海通産長官
為府知事 宛

乙

幕地
六
七
十二
十五

地方
通

12
20
市町村長
府縣長

録

左ノ通附等ヲ附シ大藏省ニ賜議可然乎

記

内務省

大藏省御中

地方公共団体、起債、付了、從來者地方長官、於了本案、如幸注意、併、居、義、有之、改、メ、通、謀、必要無之、ト存、矣、

大藏省ヲ了、係、係、セ、ル、案、前、記、通、謀、ト、同、一、分、野、之、

公秋三九号

大正七年一月十七日

一月二十八日施行

主任 親泊朝輝

地方局長 添田

市町村課長 次田

府縣課長 潮

警保局長 永田

京都府通謀案

年月日

地方局長

京都府知事 尾

結社ノ件ニ関シ通謀

本月四日高秋第六号ヲ以テ標記ノ件報告相

七

成実殿右ニ添付セル木津川治水會規約第六條ノ顧問又ハ委員ハ存會役員又ハ町村長ノ職ニアルモノニ属スルモノナリ可者之ト存案（共若シ規約ヨリテ存會役員又ハ町村長ヲシテ顧問又ハ委員トラシムルノ趣旨ナリトセハ不可然裁ニ有之又同第十條ノ関係所村ノ分館舎ハ所村長ヨリ文筆セシムルモノトセハ適當ナラスト被存案条中取調ノ上相書
持出ル所ナリ

木津川治水會規約 (草案)

第六條 顧問ハ府會議員トシ委員ハ町村長ヲ以テ

之ニ充テ幹事會計ハ委員互選トシ常任幹事ハ

幹事會中ヨリ互選スルモノトス

第十條 本會ノ經費ハ總テ沿岸ノ年附金又ハ關係

町村ノ公賦金ヲ以テ之ニ充ツ

但シ公賦金ハ委員會ノ決議ニヨル

施行一月二十九日

主査市町村課長 取田

地方局長 藤田

香地第一二七号
大正七年一月八日

甲

大臣 刻了

次官 録

参事官 赤池 潮山 露 前田 塚 守 登

大務大臣

次官 市来

主税局長 松本

国税課長 晴

直接税指定ノ件

九

指令案

香川縣知事

大正六年十二月二十四日六乙地第三一七八号
ノ一稟申香川縣香川郡栗林村特別税
建家税ノ直接税ト爲スノ件 稟申ノ通
年月日

函 大臣

理由

本村ノ建家税ハ元来直接税タル戸数割附加税
ニ代ハ設ケタルモノナリ以テ之ヲ直接税ト為ス又
別ニ不都合ノ義無之ト認メ本案相伺ニ矣

参照

一 建家税ハ明治三十七年七月二十日下第五号
法律ニ依リ施行年分無期限

一 明治四十四年三月十日官地第五二六号改正法律
明治四十五年五月内務省告示第四三三号按察
但シ府縣市町村ニ於テ特ニ徴收スルモノハ府
縣知事ノ稟申シ以テ之ヲ定メ其ノ直接
税ト為ス(キモハ府縣知事ヲシテ告示也)

之ム

古上地第百七十八号二

稟申

大正六年三月十四日

香川知事坂田幹大

内務大臣男爵後藤新平殿

縣下香川郡栗林村特別稅建家稅ノ義ハ明治
三十七年七月二十二日附許可ヲ得尔未施行
致后候原本稅ハ元未直接稅タルハ戶數割
附加稅ニ代ハ稅ケタル稅目ニテ之ニ直接稅
ト為ス上香川村會報員選挙上關係不
斷其条由接稅ニ編入右年世孫致云

明治四十五年附有告示第百四三年但告示
依此般重由也

官号四号

地十三
六十二
二五

地方 添田

七年
二四
市町村課長次田

録

参事官 赤池 山縣 潮 前田 坂切 守屋

回答案

年月日

局長

宮崎縣知事宛

農業倉庫業法施行ニ関スル件回答

九年
本年十一月十九日付ヲ以テ標記ノ件即照會
相成矣 延右ハ即見込ノ通ニテ差支無之候

一ト云 町村ヲシテ法第二條第四号又ハ第五号ノ
貸付ヲ為サシムル場合ノ貸付財源ヲ課税又ハ起
債ニ求ムルカ如キハ不可然義ト存矣

追而町村カ本件事業ヲ為サントシ認可ヲ請フトキハ
本年十月四日答地中ニヨリ通牒第一項ノ趣上右ニ
基キ認可ヲ為スニ付深甚ナル注意ヲ加ヘテラレシ

理由

一 町村ニ於テ事業ヲ為スニ当リ營利自体ヲ目的トス
ルカ如キハ不当ナルヲ免レサルヘシト虽本件ノ事業
ニ付テハ法ニ農業倉庫業者ハ凡テ營利ヲ目
的トスルヲ得サル旨ヲ規定セルヲ以テ此ノ稟ニ於テ
別ニ支障ナリ且倉庫証書ヲ担保トスル貸付ハ

比較的確實ニシテ危険ノ虞少キノミナラス元來農
家ノ金融ニ便スル公差上ノ目的ニ出ワルモノナルカ
故ニ町村ノ事業トシテ穩當ヲ欠クカ如キコトナキ
モノト存案唯貸付財源ヲ基本財産ノ繰入ニ
亦ルカ如キハ格別課税又ハ起債ニ依ルカ如キハ
妥當ナラサルモノト存案

一 照會等ニ項ノ賠償義務ハ恊ノ規定ニ依リ當然
町村ニ於テ負フべき處ニ屬シ論議ノ余地ナクモト
存案

地第 一九一三号

回 答

大正六年十二月二十一日

宮崎縣知事

内務省地方局長殿

本月五日局第 四第ヲ以テ農業倉庫業法施行ニ関スル件 御照會相成候處 右ハ貸付財源ヲ一般村費又ハ基本財産繰入金ニ求ムル義ニ有之候
 追而財源ヲ起債ニ求ムルモノ、如キハ許可セザル見込ニ有之候

乃
六^四土^四先

道

土^五
大連 属

市町村保長次田

伝友

照會案

年月日

局長

宮城縣知事 花

農業倉庫業法施行三箇スル件
標記ノ件即照會ノ處町村ヲシテ法第ニ条
第四年第五年ノ貸付ヲ為サシムル場合ノ貸
付資金ハ如何ナル財源ニ求ムル義ニ責カ兼

知致度

地第 一九一三号

照會

大正六年十一月十九日

宮崎縣知事 堀内秀太郎

内務省地方局長 渡邊晴三郎 啟

農業倉庫業法施行ニ就テハ町村ノ農業
倉庫業者タル場合ノ取扱ニ関シ左ノ点ニ
省振養知致度

記

一 町村ヲシテ法第ニ條第四号ノ才五号ノ
貸付ヲ為シタルモ差支無之ヤ

二 町村ヲシテ才五号ノ才五号ノ
才五号ノ差支無之ヤ

高地拾 二 七

地方 七 添田

市町村課長次田

鍊

町村特別税賦課ニ付建議ノ件

建議者

青森縣北佐郡下知町長添田俊次

建議ノ趣旨ハ採納ノ限ニ在ラスト認ム

地方税制限ニ関スル法律中改正ノ義ニ付
請願ノ件

請願者 同人

請願ノ趣旨ハ採納ノ限ニ在ラスト認ム

一 右建議ノ趣旨ハ本省カ從來町村特別税設定ノ許可
ヲ為スニ當リ種々ノ制限条件ヲ付シ其設定ノ困難
ナラシムルハ町村自治ノ鞏固ト發展ト阻害スル所以ニ在ラ
サルヲ以テ此ノ種ノ制限条件ヲ撤去セラレタレト云フニ在ルニ
町村ノ現状ニ未タ此ノ種ノ監督ヲ撤スル程亦ニ在ラズ
ト認ム

二 請願ノ趣旨ハ市町村於テ台般ノ有利ナル事業ヲ施行
スル為メ附加税ニ財源ヲ求メトスルニ當リ国税附加税ノ制
限外課税ニ付テハ許可ノ範圍狹少ナルヲ以テ不便少カラズ
依テ地方税制限ニ關スル法律第五條二項中ノ水利ノ為メ
費用ヲ要スルトキニ代テ「治水及水利又ハ道路港湾ノ

改修工事、多ク、其、要スルトキ、以テ、其、事、ヲ、行フ、ル、ニ、由リ、
在リ、該、法律、ハ、既、現、在、ノ、法、制、ヲ、防、止、ス、ル、ノ、意、ヲ、出、
シ、ル、ニ、由リ、必、ズ、モ、地、方、同、僚、ノ、利、益、ヲ、考、テ、論、議、ス、ル、ノ、許、
サ、ズ、又、水、利、ノ、費、用、ノ、如、キ、直、接、ノ、税、源、ニ、依、リ、テ、他、
ノ、事、業、ニ、其、費、用、ト、同、視、ス、ル、ヲ、得、サ、ル、ト、認、ム、
右、件、書、類、ハ、洋、文、ヲ、以、テ、由、リ、道、ト、可、見、手

六年
七九七
地方六

通謀案

通謀案

年月日

局長

市町村課長名田

村境界變更並財產廢分件依命通謀
貴縣河沼郡新館村及同郡廣瀨村標記一件新
可相成貴縣河沼郡廣瀨村會村境界變更
三關スル答申ハ貴官ノ諮問前ニ於テ豫メ議決

シタルモノノ趣ナルモ右ハ將來ハ諮問ヲ俟テ議決
候標措置セシメラレ度

大正七年二月十三日
地方局長
府縣課長
市町村課長

大臣
次官
新

大正七年 日 日

新瀉縣知事 宛
地方局長

不動産登記簿閲覧手数料ハ件
依ル中下直牒

客年十二月廿二日付地裁方三六号ヲ以テ標記ハ件
ニ對シテ手数料免除改正方牒一上申相成

其次之有之司法者ニ交渉改メ右登記
事務トシ及ホス早業御首等ニ付意トモ考慮ヲ
要スル上其有之令候ニ改正手續致スルニ涉
申如ク租税賦課ノ為登記ハ及財庫ノ整理
ノ完備ヲ請求セラルル場合ハ申請書ニ各不動産
ノ表示ヲ為スコトヲ要ス早業村名ヲ記載スルハ
是ルク又申請ノ目的ヲ達スル迄ハ一箇ノ申請書ニ
依リテ之ヲ閲覧セシメ差支有先例ナルヲ以テ改正
ハ大ナル支障ヲ生スルコトヲカルヘキ者全者ヨリ回答
有之ハ付以テ知相成度

司法省 民第三五二号

府縣郡市町村等公営團體ノ利益ノ厚ニシテ不動産
登記簿ノ閲覧ニ材料免除方改正ノ件ニ関シ新潟
縣知事ヨリ上申アリタル趣ヲ以テ其ノ寫相添へ本月五日
新地才六号ヲ以テ御照會ノ趣了承右ノ其ノ登記事務
上及ホハ影御有等ニ付爲ト考慮ヲ要スル矣ニ有之云々
付今俄ク改正ニ手續致兼候 尤ニ新潟縣知事上申
書ニ掲クル目的ノ爲メ登記簿及附属書類ノ閲覧ヲ
請求スル場合ハ申請書ニ各不動産表示ヲ爲スコトヲ要ス
單ニ町名ヲ記載スルハ足ルヘク又申請ノ目的ヲ達スル迄ハ箇
ノ申請書ニ依リテノ閲覧セシム差支トシテ先例ニ相成居云々付改
正ヲ爲ラサレズ大ナル支障ナカレシト思考云々付其ノ七日同知事
通牒相成云々様致度御回答旁此段申進云々也

大正七年二月九日

司法省法學博士鈴木壹郎

内務次官法學博士水野鍊太郎殿

乙

明治

大正七年一月十一日

地方局長

参事 友

大臣

次官

大正七年 月 日

司法次官 宛

府縣課長
市町村課長

不動産登記簿閲覧料

不動産登記簿閲覧料 二并、三六明治三

云々 市令 第一〇号 第六条 規定ニ依リ、臣等又
又、公吏カ政府ノ利益ヲ為シ、其ノ職務ヲ以テ登記
簿ノ閲覧ヲ請求スル場合ニ限リ、手取料 徴セ
其明文有キニテ、其処 府令 都庁 所存ノ、公典 同件
利益ノ有ニテ、登記簿ノ閲覧ニ、不動産 價格ヲ知ル為
登記簿ノ閲覧ヲ、要スル場合ニ、斯ニ付テ、右
条ノ精神ニ、基テ、府令 其他ニ、共同件ノ
利益、為ニ、閲覧ノ手取料 要セザルコトニ、改
正セラレ、度旨 新潟 県知事、ヨリ、別紙 寫ノ、通リ
上申 有キニ、相当理由 有ルニ、ト、被存 案ニ、付テ、至
急ニ、改正 相成 案 様 致 度

明治三十二年五月司法省令第十四号

登録法 不動産登記法第二十一条、規定ニ依リ登記簿
又ハ其附屬書類ノ閲覧ヲ請求スル者ハ手数料
五十五元ヲ納ムルニシ

第二十一条 本条乃至第二十三条、規定ハ官吏又ハ吏カ政府
ノ利益ヲ為シ、賤格ヲ以テ請求シ、為シ、地方ニ
之ヲ適用スル

法中第二十一条 何人トモニ手数料ヲ納付シテ登記簿、
帳本又ハ抄本ノ交付ヲ請求シ、又、利息ノ計算、
係ル部分ニ限リ、之ニ記録又ハ其附屬書類、
ノ閲覧ヲ請求スルコトヲ得

登録税法

第十九条 左に掲クルモノハ登録税ヲ課ス

- 一 政府自己ノ為ニシテ登記簿又ハ其記録
- 一 府縣知事町村其ノ他公共団体ニ於テ
以テ、借入、不動産ノ登記又ハ其記録

地籍才三五六号

大正六年十二月二十日

新潟縣知事 渡辺信三郎

内務大臣男爵後藤新太郎殿

不動産登記簿閲覧料ニ关シ意見見申

不動産登記簿閲覧料ニ关シ其ノ明法ニ依リ
五年司法省令第二十号ニ依リ規定ニ依リ官吏又ハ
公吏ノ返附利益ノ爲メ其ノ残務ヲ以テ不動産登記
簿閲覧ヲ請求スル場合ニ限リ手数料ニ要セ
ル事明文存シ其ノ爲メ其ノ他ノ共同體ノ利
益ノ爲メ其ノ残務ヲ以テ閲覧ヲ請求スル場合亦不

少額ニ付テハ右ノ条ノ精神ニ依リ其ノ他
公共團體ノ爲メ閲覧ノ返附手数料
要セサルコトニ取上セラルベキ事ニ依リ之ニ依テ之

司法省ハ交渉相以テ其ノ爲メ之ニ依リ之ニ依テ
進テ不文取上テ其ノ理由ハ其ノ於テ明シ
トシ其ノ取上セザル不動産取上税ノ賦課ヲ爲スル
場合ニ於テ之ヲ経テ不初度ノ價格ノ課税標

準トシ夫ノ爲メ其ノ取上セザル事ニ依リ
閲覧ノ爲メ其ノ法ヲ以テ御合ニ相成度此
申 係云也

七
一八
二
十五

地方

市町村課長

田

田

小景

通牒案

年月日

地方局長

北海道廳長官
各府縣知事 宛

徵收處分囑託金送付費用關スル件通牒

明治四十年法律第三十四號、依ル祖稅具、他、收入徵收處分

一三

囑託金關スル事務取扱並送金費用、總テ受託廳ノ負担トスルコトニ今年六月十日地甲第二十九號ヲ以テ及通牒置矣。又朝鮮總督府管內ノ内地市町村、對シ囑託ヲ為シタル場合、於テ今尚土往々徵收金中、爲替料郵便料等ヲ控除シ送金スル向有之趣、付此際右通牒ノ趣旨充分ニ徹底ニ様御取計相成度

才二案

年月日

地方局長

朝鮮總督府度支部長官宛

徵收處分囑託金送付費用關スル件回答

一月十五日祝第百七號ヲ以テ兩照會相成美標記ノ件ニ付テハ

右ノ趣旨各地方長官ニ付シ通牒致置候

級第一〇七號

大正七年一月十五日

朝鮮總督府度支部長官

内務省地方局長 啟

徵收處公屬託金送付費用ニ関スル件
 明治四十年法律第三十四號ニ依ル租稅其他ノ收入
 金徵收處公屬託金ノ送付費用ハ總テ受託官公
 公署ニ於テ負擔スニキ取扱ト相成居候處内地市町
 村ニ對シ屬託ヲ為シタル場合ニ於テ往々徵收金ノ内
 為替料又ハ郵便料ヲ扣除シ送付シ来ル向有之候趣ニ
 付送付費用ハ受託廳ノ負擔タルニキ旨一般市町村ニ

徹底方取付相煩度及申照會矣也

甲

大正七年二月二十日

查

市町村課長
府縣課長
潮

大臣

次官

土木局長

衛生局長

警務局長

地理課長

都市ノ經營ニ関スル件内申

東京府知事

都市ノ經營ニ関シ 調査提案方別紙ノ

二四

通東京府知事ヨリ内申ヨリ修案ノ件

ニ關シテハ慎重ニ調査ヲ進メルノ要アリト

存所ニ更ニ意見見リ其ノ旨ノ可相問答

ハ不取敢候高見候

午鹿發第四三號

大都市ノ事業ニ付テハ多大ノ御同情ニ有之候如右ノ單ニ道路改正ノ事ノミナラス番ノ都市ノ全作ノ經營ニ且ルハキ最大切ノ問題ニ有之候得共今日、旭東京市、之ノ獨力ニ以テ解決ノ道甚覺未候又本府、未年度、交通調査費ヲ新設シ先以テ市郡連絡ノ道路橋梁、河川等調査實行ニ取係リ候モ、高市ノ事業トシテハ目下下水、市場、墓地、如キ要急ノ事業類モ有之見上府ノ事業トシテハ、且、下水、郡市連絡、為道路ヲ設テントスルニ際シ、必要ノ家屋制限法等多ク御實行ノ艱度候有之候

ニ付テハ從來、市以改正ニ委員會、規模ヲ擴張シ、業得ルレハ、國費ヲ又多シク特ニ、事務官及技師ヲ設置シ、専門ニ調査スレ、之ヲ以テ市、命令令ニ施行セシムルハ、無之今、儘、市、市以改正ニ委員會ニ推委シ、事務ヲ決定スルノ運、至ラズ、委員會、市ノ經費總額ヲ顧慮シ、何等組織、又進歩、多ク調査、ニ着手セラル、エトナク明白ナル書、任者ナク、レ、歳、月、ノ送ル、ニ至ル、甚ク遺憾ニ候向、速ニ之等、事項、ニ付調査セシメ、候上、適當、御提案、相成候様、致度、此段、申候也

大正七年一月二十六日

東条府學博士井上友一
内務大臣爵後藤新平殿

裏面白紙

洪覽

地方局長
海

市町村長
田

次官
録

乙

第五
章

内地ニ居住スル朝鮮人其臺灣人ノ民権ニ
關スル件

通ニ聽ク府縣ニ於テ取扱實例アリ如シ

一 治安案件ノ具備スル場合ニ民権アリ

トシテ取扱ヘルモノ

山口縣 裁判所ノ許可ヲ得テノ就籍ニシテ

朝鮮人ニ對シ附與スル例アリ

東京府 取扱一定ニシルニ東京市及脚区ニ於テ

臺灣人ニ對シ附與スル例アリ

二 合上ノ民権ヲシテ取扱ヘルモノ

和歌山縣

沖繩縣

東京府 祇布区ニ於テハ民権ヲシテ取扱

扱アリ

三 並海邊及其他ノ府縣ニ於テハ事ヲ異ナシ

丙

差甲

七

六

地方

七

添田

二九

市町村課長 當

照會 按

年月日

各府縣知事 宛

北海官廳長官 宛

内地ニ居住スル朝鮮人及台湾人ノ義權

ニ關スル件ニ付照會

朝鮮人及台湾人ニ付内地ニ住所ヲ有スル者法

定、要件ヲ具備スル場合ニ於テモ、其民權

ヲ有スル義トシテ存候得共、貴官ニ付テハ

ル實際、取扱派ニ至ル事、知教度、言不電

報ヲ以テ、申回報相成度

理由

本件、市町村課長、於テ、覽問アリ、タレ、以テ、答

年上、必要、不、依、ル

町判別
九十七号

丙

七
七
二五
二五

地方 十五

市町村課長

受了

主任 屬 今野 菊江

田 答案

年月日

新厚縣知事 宛

地方局長

一六號

制限外課税ニ関スル件 田答
本月二日地收第三。號ヲ以テ標記ノ件ニ於テ會相成候處
ハ傳染病予防費所要額ヨリ縣補助額ニ相当スル金額ヲ扣
除シタシ傳染病豫防費ニ對シテノ制限外課税ヲ為レ得

ル義ト申了知相成度

地收第三〇號

大正七年二月九日

新潟縣知事

内務省地方局長殿

制限外課税ニ関スル件有疑

縣下西蒲原郡卷町制限外課税ノ件ニ関シ各
月三十日付新地第二五號ヲ以テ由照會ノ次第モ有
之矣得共左記疑議ニ亘リ茲條御指示相煩度此致
及照會矣也

記

一本縣ノ市町村傳染病豫防費補助規程ニ依レハ補

助ノ申請ヲ為スハ當該年度經過後六ヶ月以内ト規定
シアルヲ以テ補助金ハ常ニ事件發生ノ翌年度ノ收入ト
ナサレハカラス故ニ前年度ニ於テ傳染病ノ發生ナキトキ
ハ本年度豫算ニ於テ傳染病予防費ノ支出ヲ掲上スト
強モ補助金ノ收入ハ計上セリルヲ相當ト存テ而シテ前年
度ニ於テ其支出アリシカ為本年度ニ於テ相當ノカ補助
金ノ交付ヲ計上シタルニ當リ更ニ本年度傳染病豫防費
ノ為メ制限外課税ノ稟請ヲ為ス場合ニ於テ制限外賦課得
ヘキ額ハ傳染病豫防費ヲ右補助額ヲ控除シタル殘額ニ止ム
ヘキコトハ明治四十二年十月二十日新甲第三九九號及明治四
十三年一月十三日四二新甲第三九九號御通牒ノ次第モ有
之以來爾ク取扱去處今回御通牒ニ依レハ後年度收入
スヘキ交付金ノ見込額ヲモ本年度ノ豫防費ヲ控除ス

ヘシトノコトニ有之斯クテハ一ノ補助金ヲ二重ニ計算セラルカ如
キコトト相成矣如何處理致シ可然哉

福地 二六

地方 二六

市町村課長 次田

永井 属

通県案

年月日 地方局長

福島縣知事宛

災害復舊費貸付規程報告一件

通詳

本月十六日七官第一六二号より以て標記

一七

件報告相成候也第ニ條第一項ハ費
用ニシテノ許可セラル、之ノ如ク相見ニ候
得果急施シ要スル災害復舊工事費
外ハ内務大臣蔵書ノ許可ヲ要スル次
第ニ件在籍申事知相成度

参照

第ニ條 災害復舊費ノ貸付ヲ受ケラトスルトキハ

本年三月十日迄ニ起債ノ申請ヲ為シ許可

ヲ受クヘシ

甲

七 一六 二六 三九

七方 添田

市町村課長 當

務

當

市制第百六十二号之依ル村家税

改正ニヨリタル件

全國市町村協議會ノ決議ニ依リ市郡官
市長ヨリ市町村家税ノ増額変更ニ關スル許
可權ハ府縣知事ニ委任相成度旨東條ノ
受談特別税ノ税率ハ許可ハ然ニ付ル重案
事項ナルニ其増額又ハ変更ニ關スル許可確

八

府縣知事ノ許可範圍ニ移テ下適當ナ
ク依テ此供出高見

裏面白紙

建議書

市制第一〇二條第三項ニ依リ特例税ノ
増額又ハ変更ニ關スル許可權ヲ府縣知
事ノ許可範圍ニ移コレトス
府及建議候也

大正七年一月二日

第十七回全國市町區聯合協議會
宇都宮市市長 谷 誠 之

乙

老六
七
一〇
三

地方
添田

三六
市町村課長
留

参事官

山縣潮前
切

回答案

年月日

岩手縣知事宛

地方局長

村長選舉場合指名推選ノ
方法ニ関スル件 回答

一九〇九

大正六年十二月一日岩手縣議決案第一三六五号ノ以テ
テ標記ノ件ニ於テ議決相成候處右ハ法律ニ無之ト存候

理由

町村制第五十一條末項ニ所謂指名推選ノ法トハ如何ナル方法ヲ謂フモノナルカ其内容ニ関シ現行法令中何等規定シタルモノナシ行政實例トシテハ「議決又ハ議員ニ於テ被選舉人ヲ指名シ之ヲ會議ニ諮ヒ過半數ノ賛成ヲ得タルトキハ當選者ト為ル之所謂指名推選ノ方法ナリト雖モ法令ニ根據ナキ以上唯一ノ方法ナリト謂フラ得ザルベシ本件事例ノ如キ「指名權ヲ議長ニ任スルト同時ニ議長ノ指名スル被

指名者ニ對シテハ異議ナシト事前同意ノ議決ヲ為ス
コトモ之又指名推選ノ一方法ニシテ此ノ場合ニ於テハ議長
ヨリ指名セラレタル者ハ直ニ當選者タルニキハ疑ラ容ル、餘
地ナシ從テ之ニ基キ行ヒタル指名推選ハ他ニ手續上瑕疵
ナキ以上適法ナリト認メ本案相伺候

老成次第三五五號

大正六年十二月壹日

岩手縣知事 大津麟平

内務省地方局長 渡邊勝三郎 殿

村長選舉ニ指名推選ノ方法ニ

関スル疑議ノ件

村令ニ於テ村長ヲ選舉スルニ方リ制第五十一條末項ニ
依リ議長ノ指名推選ヲ任ヒ尙其指名推選ニ對シ異
議ナク承認ストノ動議成立シ之ニ基キ行ヒタル選舉
ハ指名推選ノ方法ノ變態ニシテ行政實例等ニ示ス該
方法ノ趣旨及法ノ本旨ニ副ハサル不法ノ執行方法ト

被存候得共聊カ疑議ヲ生シ候條其意見承知致度
會議録写相添ヘ右及稟議候也

六年
静岡第五号

乙

七

二
十九
地方

添田

三六
市町村課長寄

参事官 山縣朝前田堀切

田答案

年月日

局長

静岡縣知事宛

收入役賠償責任ニ関スル件 田答

大正六年十一月十九日地秘第三一六号ヲ以テ標記件
市照會相成候處右ハ收入役ヲ賠償ラ命セララル以

前ニ死シタル場合ハ勿論、賠償ラ命セラレタル後死
セシタル場合トモ相續人ラシテ賠償セシムルコトヲ得サ
ル義ト存一矣

理由

市町村吏員ノ賠償義務ハ公法上ノ義務ニシテ賠償
ヲ命セラレタル後發生スルモノナリ
公法上ノ義務ハ明文アラハ格別然ラサレハ私法上ノ債
務ト異リ当然ニハ相續セラルモノニ非ス從テ收入役死亡後
其相續人ニ賠償責任アリト謂フコトヲ得ス

二〇

地秘第三一六号

大正六年十二月十九日

静岡岡縣知事

内務省地方局長殿

収入役ノ賠償責任ニ関スル件

収入役其管掌ニ屬スル公金ヲ亡失シテ賠償責任アル場
合ニ於テ賠償ヲ命セラレル以前又ハ賠償ヲ命セラレモ其ノ
徴收前ニ於テ死亡シタル場合ニ於テモ相續人ニ對シ賠償ヲ
命シ若ハ相續人ヨリ徴收シ得ヘキモノト被存矣(共市町村
吏員賠償責任ニ関スル勅令第五條ハ單ニ賠償金ノ徴
收ニ付町村制第百土條ノ例ニ依ラシムルニ止マレ町村稅徴

收ニ関スル勅令ノ如キ相續人ヨリ徴收スル者ノ規定ナキニ鑑
ミ相續人ニ對シテハ賠償ヲ命シ又ハ相續人ヲ徴收スヘキコト
ヲ得サルモノト被存疑義ニ涉リ矣至急何分ノ御意
見承知致シ度尚本件ハ差髣クシテ事件有之候ニ付
急速御示相煩度此致及照會矣也

乙

全五
東地 七八八
七 一七八

地方 一七三

添田

市町村課長 次田
三十二

參事官 花押
志朝山縣前 須知守屋

大藏大臣

次官 市來

主稅局長 俣

國稅課長 勝

黒田

所得稅附加稅賦課步合決定件

二一

甲案

東京府東京市長

明治四十五年 月ヨリ大正元年一月至五
ニ於ケル株式會社北海道拓殖銀行、所得
稅ニ對シ賦課スルハキ市區町村所得稅附加
稅賦課ニ關スル本稅額、步合在、適定ハ
年月日 兩大臣

託

一分、 六、八九九
一分、 六三五五
一分、 八一五
一分、 四四七

北海道札幌區
北海道小樽區
北海道函館區
東京府東京市(見橋區)

一百分、一〇三四

北海道旭川區

乙案

年月日

地方局長
主税局長

北海道廳長官宛

所得税附加税賦課歩合、件依余通牒、
 貴省下札幌區ニ本店ヲ有スル株式会社北
 海道拓殖銀行ニ對スル所得税附加税賦
 課歩合ニ關シ東京府東京市長ノ稟請
 ニ依リ左ノ通指令相成候條關係區へ
 御示達相成度
 (左ノ通ニ申案指令全文ヲ謄寫シテ添付ス)

起案理由

一 本件ハ北海道札幌區ニ本店ヲ有スル株式会社
 北海道拓殖銀行ノ所得税附加税賦課ノ本税
 歩合ニ付日本橋區長ハ本店所在旭川區札幌
 區長ニ協議セシメ合ニ長ハ其ノ提案ニ同意セズ
 札幌區長ハ別ニ關係市長ニ提案協議セシメ
 函館區長小樽區長旭川區長ハ之ニ同意セルモ
 東京市長ハ日本橋區長ニ同意セラルニ依リ東京市長ハ
 西大臣ニ之ヲ決定方ヲ稟請セルモノニ付三候
 日本橋區長ノ提案
 銀行ノ所得税額ヲ各營業所ニ於テ總收入
 額ニ按分シテ附加税歩合ヲ定ムトスルモノ

・札幌区長提案

各営業所別、會社所得金額ヲ按分シテ附加
税歩合ヲ定メントスルモノ
双方意見ノ一致セラル理由

札幌区長、主張「各営業所別ニ損益ヲ区
分レ得ル以上、其ノ損益額ヲ標準トシテ附
加税歩合ヲ定ムルヲ適當ト謂フニ在リ
日本橋区長、主張「銀行ノ所得ハ不可分ナリ各
営業所別ノ損益ハ單ニ收支ノ計算ヲ示シテ
シテノニシテ之ヲ以テ各営業所ノ真ノ損益ヲ示
スルニハキズノニテ不隨テ之ニ依リテ附加税、歩合
ヲ定ムルトスルハ不當ナリ 故ニ本税額、各営業所ノ
収入額ヲ以テ按分シテ定ムルヲ適當ト謂フニ在リ

相互主張、結果ヨリ見レハ札幌区長ノ提案ニ依
ルニ其ノ所得ニ於テ損失ヲ示ス東京支店所在地
(東京市日本橋区)ニ對シテハ附加税賦課歩合
ノ配當ナシ日本橋区長、提案ニ依リテ之ニ依
テ歩合、配當ナシトシテ結果他ノ区、歩合ニシテ
スルニト、アルモノニ在リ候

勅令第二〇四上号ハ關係市町村ノ協定ニ任
カシ其標準ニ付キ示ス所ナキヲ以テ關係市町
村ノ協定標準ニテハ之ニ依リ然ラザレハ比較的衡
平ナルト認めハキ方法ニ依リ決定セサルハカラス
按スルニ札幌区長ノ提案及日本橋区長ノ提案
ハ所得額或ハ総収入額ヲ根據トスル單ナル比例
ニ求メテ歩合ヲ定メントスルモノニシテ其銀行業

体ヲ見テ何レモ適切衡平ナル方法ナリト断シ難シ
從來各件ノ如キ場合ハ本支店ニ於ケル總收入ノ所
得額、建物賃賃價額、従業員ノ各段分
ニ以テ賦課歩合ヲ算出シタルモ右ニテハ東京市
（日本橋区）ノ歩合ハ其希望以上ニ着シテ増加シ（第二
歩合査定表参照）從テ他各区ノ歩合又ニ減少
シ來スハ妥當ナラズト認メラル、以テ所得歩
合ヲ以テ五分トシ總收入高、建物賃賃價格及
従業員ノ以テ五分トシ算出（第一歩合表参照）スル
トキハ東京市ノ提案、稍近キ歩合トナリ且所得ニ
重クハ至當ト認メラレ候奈本件ハ本案ノ如ク
定ムラレリ然ト存ス

興行ノ入札ノ下
認

69

裏面白紙

町村
三三三

丙

五城地 三三三
七 三三三
地方 六
市町村課長 三九
府縣課長 潮

通牒 案
年月日 地方局長
府縣知事 (宣讀) 除ノ一先

耕地整理債引継ニ関スル件依命通牒
耕地整理法第三十八條ノ規定ニ依リ耕地
整理組合又ハ共同施業者ノ事務ヲ

第三三三

町村ニ引継カントスルニ當リ未償還ノ負債
アル場合其負債ヲ事業ト共ニ町村ニ引
継キ得ルヤ否官賦縣知事問合ニ對シ
右耕地整理ノ負債ハ耕地整理ノ事業
ト共ニ當然町村ニ引継得ヘキモノニ無
クシ町村ニ於テ之カ負擔ヲ為サントスル
於テハ起債トシテ町村制ノ規定ニ依リ許
可稟請ノ手續ヲ要スル旨内務省地方
大藏省理財・農商務省農務三局長ヲ
及回答候ニ付右ノ趣旨ニ依リ御取扱相
成度

地第五〇三六号

大正四年八月十二日

宮城縣知事 依 孫一

内務省地方局長 渡邊 勝三郎 殿

耕地整理法第三十八條ノ規定ニ據リ耕地整理組
合又ハ共同施行者カ事務ヲ町村ニ引継カントスルニ當
リ未タ還了セサル組合債アル場合ト雖之ヲ其事
業ト共ニ引継キ得ルヤ否ヤ同法第五十三條ニヨレハ
組合ハ左ノ事由ニテ解散ス但第三号ノ場合ニ於テ
還了セサル組合債アル時ハ此限ニテラストノ規定アルヲ
以テ全條第五号ノ場合ニ未タ還了セサル組合債アル
ルモ之ヲ事業ト共ニ引継得ヘキモノト扱存候一トモ果シテ
然リトモ其引継ラ受ケケル町村ハ更ニ一ノ債務ヲ負
擔セサルヘカラサレトモ斯ノ如キ債務ノ引受ハ町村制第
百四十六條ノ所謂起債ト爲リテ監督官廳ノ許可
ヲ受クヘキモノナリヤ否ヤ解釋上耶疑義有之候條
何分ノ御回答相煩度此致及照會候也

乙

四八十三
九十三
地方 渡
三四
市町村課長
府縣課長

參事官 山田

農商務大臣 次官 丸

農務局長 大書課長 中井

大藏大臣 次官 市来 理財局長 神野

宮城縣知事 回答案

年月日
地方局長
農務局長
理財局長

知事宛

耕地整理法第十八條ニ関スル疑義ノ件回答

大正四年八月十二日地第五三六号ヲ以テ標記ノ件御照會ノ趣了承右
耕地整理組合債ハ耕地整理ノ事業ト共ニ當然町村ニ引
継クモモニ無之若シ町村ニ於テ之カ負擔ヲ為サムトスルニ於テハ
起債トシテ許可稟請ノ手續ヲ要スヘキ義ト存候

起業理由

一 知事照會ノ主旨ト回答

(1) 問題ノ範圍ヲ限局セムトス

知事ノ照會ニ耕地整理組合スハ共同施行者カ事務ヲ町村ニ引継カムトスニ當リ云々トアルモ共同施行者ノ場合ニ於テハ所謂組合債ナシモノ有ラレラ以テ本問題ノ範圍ハ之ヲ耕地整理組合ガ其事業ヲ町村ニ引継カムトスニ場合ニ限局シテ回答セムト欲ス

二 回答ノ要旨

知事ノ照會ニ組合債アル場合之ヲ事業ト共ニ町村ニ引継キ得ヘキヤ否ヤトアルモ其主旨カ耕地整理事業ヲ町村ニ引継ク行政処分ヲ以テ未還了ノ組合債ヲ町村ノ負担ニ移シ得ヘキヤ否ヤト云フニ在リヤ將又事業ノ引継ニ行政処分ト離レテ別ニ組合

債ヲ町村ノ負担ニ移シ得ヘキヤ否ヤト為スニ在リヤ聊カ明瞭ヲ欲クテ以テ本回答ニ於テハ先ツ組合債ハ事業ト共ニ行政処分ヲ以テ當然町村ニ引継カヘキモノニ非ルヲ示シ次ニ若シ町村ガ任意ニ組合債ハラ自己ノ負担ニ移サムトスニ於テハ町村制第四百十六條ニ依リ起債許可稟請ノ手續ヲ履マシムヘキモノナレトヲ明セリ

三 回答理由

(1) 組合債ハ行政処分ヲ以テ事業ト共ニ町村ニ引継カルヘキモノニ非ス

(1) 組合債ノ引受ハ事業ノ引継ト全然別箇ノ觀念ナリ
抑モ耕地整理組合法ニ依リ町村ニ引継クヘキモノハ耕地整理ノ事業ナリ(法第三十八條)然レテ耕地整理事業ノ如何ナルモノナルカハ耕地整立法第一條(後略)明ニ之ヲ示セリ之ニ就テ見レハ本件組合債ノ如キハ耕地整理事業ノ施行上生シタムモノナレシ

ト雖モ耕地整理事業其モノニ非ルコト明ナリ既ニ事業ト組合
債トハ如斯ク全然別箇ノ觀念ナリ然ラハ事業ノ引継ト組合
債ノ引受トカ全然別箇ノ觀念タムコト知ルヘキノミ

四組合債ノ引受ハ事業ノ引受ニ必然伴フヘキモノニ非ス
組合債ハ上述ノ如ク事業其モノニ非ルト共ニ又事業ト不可
分ナル權利義務ニモアラスヨシ事業其モノニ非ストモ若シ組合債
ニシテ事業ト不可分ノモノナリセハ其ハ事業ト共ニ必然町村ニ引継
カシテ然レトモ事業施行ノ為メ生シタル債務カ事業其モノト可
分ナコトハ一般法律常識上ヨリ明ナリミナラス又耕地整理法
法ノ規定之ヲ証シテ餘アリ即チ耕地整理法第五十三條第
六十條(及第八十條)及「耕地整理事業ノ引継及耕地整理組合
ノ変更ニ関スル制」(四二年勅令第三一三號)第一條及第五條ノ規定ニ
就テ之ヲ見ルニ耕地整理ノ事業ハ組合債ト全然獨立シテ地

方長官ノ認可(制第一條)又ハ命令(制第五條)ニ依テ町村ニ引継
カレ事業ノ引継ト共ニ組合ハ解散シ(法第五十三條)組合債ハ解
散後清算ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存続セシモノト看做サレタル組合
ニ於テ之ヲ辨済スヘク(法第六十條)若シ組合ニシテ其債務ヲ先済ス
ルコト能ハサルトキハ組合員之カ辨済ノ責任セザルヘカラス(法第八十條)ト
テ即チ知ル組合債ハ事業ト共ニ町村ニ引継ヘキモノニ非スシテ事業ハ
全然組合債ト融レテ清算ニ先ケテ町村ニ引継カレ組合債ハ事業
引継組合解散後清算ノ範圍内ニ於テノミ仍存続スルモノト
看做サレタル組合ニ於テ之ヲ辨済スヘキモノナラコトヲ
人或ハ制第一條(第一項第三號)ニ引継カトスル事業ニ関スル權利
義務ノ明細ヲ記載シタル書面ヲ差出シ地方長官ノ認可ヲ受ス
テ事業ノ引継アヘキ旨ヲ規定スルヲ引用シテ組合債ヲ「事業
ニ関スル權利義務」トシ更ニ進シテ本條ハ組合債ト事業ト共ニ

町村ニ引継カレキモノナラコトヲ明ニセシモノナリトス而レトモ其誤レシモノナ
ルコトハ上述ニ如ク耕地整理組合法(第五十三條第六十條第八十條)制第
一條等ノ解釈ニテ知リ得ヘク更ニ又組合債力論者ノ如ク所謂事
業ニ関スル權利義務ナリトナスモ制第一條ノ規定ヲ以テ直々ニ事
業ニ関スル權利義務ハ凡テ事業ト共ニ町村ニ引継カレキモノ
ナラコトヲ規定スモノトナスハ早計タムラ免レシ何トナレハ制第一條
ハ單ニ事業引継ノ認可ヲ申請スルニ際シテ地方長官ノ参考
ニ資セムタメニ第一号乃至第四号ノ書面ヲ差出スヘント為ス止リ
其書面ノ内容ヲ認可ノ客體ト為シタルモノト見ル得ル此意味ニ於
テ第三号ノ書面ハ他ノ各号ノ書面ト等シキ價値ヲ有スルモノ
ナリト言フヲ得ヘシ。元々耕地整理法第一條ニ所謂耕地整
理ノ事業ト不可分ナル權利義務ノ事業ニ伴ヒテ町村ニ引
継カレキコトヲ否定セリハ前記ノ如シ

(乙) 町村カ組合債ヲ自己ノ負担ニ帰セシムトスルニ於テハ起債トシテ

許可稟請ノ手續ヲ要ス(組合債ノ町村ノ負担ニ移スコトハ町村ノ起債ナラズ(意義))
向不付組合債ノ町村ニ引継ガレシメテ町村ノ起債トシテ町村制第百一十條
ノ旨ヲ有スルニ至ラズヤハ第一號ノ同題ナリ)

(丙) 組合債ヲ町村ノ負担ニ移スコトハ町村ノ起債(意義ナリ)

町村カ本件ノ如キ組合債ヲ自己ノ負担ニ移スコトハ其町村起
債ナリ此意味ニ於テハ組合債引受ノ行為カ耕地整理事業ノ
引継以前タルト引継ト同時タルト將入耕地整理組合ノ清算
ノ過程ニ於テ行ハルモノタルトヲ問ハス

町村ハ制第百十二條ノ目的ヲ有スル場合ニ限リ起債ヲ為スコトヲ得
然シテ起債ノ意義如何ニ関シテハ未タ的確ニ學理的説明ヲ與
ヘタルモノ有ラ知ラサレトモ普通ノ意味ニ於テ起債トハ消費貸
借ニ依リ金銭上ノ債務ヲ負担スルコトナリ。本件ノ如キ組合債ヲ
町村ニ引受ケムトスルカ如キハ元來消費貸借ニ依リテ生セル組合
債ヲ町村カ代テ負ハムトスルモノニシテ町村自ラ金銭ノ消費貸借ヲ

為スモノニ非ルナリ、然レモ元未起債ハ法律上之ヲ消費貸借ニシテ金
 銭債務ノ負担ナリト限局セラルヘカラサシ如キ嚴格ナル意義ヲ有セス
 余ハ起債ヲ廣ク解シテ唯ニ消費貸借ニテラ金錢上ノ債務ヲ担ス
 ル場合ノミナラス更ニ本件組合債ヲ町村ニ於テ負担セムトスルハ如キ
 場合ヲモ之ヲ含ムモノナリトナサムトス。何トナレハ二者共ニ金錢上ノ負
 担ヲ為ス莫ク於テ經濟上ノ價值ヲ等シクスルノミナラス行政監督上
 起債トシテ之ヲ取締ラ為ス必要ヲ感スルコト大ナレハナリ。更ニ先例(後記)
 ニ徴スルニ債務ヲ更改契約ニテ負担スルコトヲ起債トシテ處理
 セルコトヲ見ルヘシ

(四)然ラハ本件起債(組合債ヲ町村ニ引受タルコト)ハ果シテ制第百十二
 条ノ目的ヲ有スルヤ

町村カ起債ヲ為シウキ場合ハ制第百十二条ニコレヲ限定セリ、コレ以外
 ノ起債ハ町村権限外ノ行為トシテ法ノ認ムル所ニアラス、然ラハ本件

起債ハ果シテ制第百十二条ニ示ス要件ニ合スル目的ヲ有スルヤ。
 或ハ又本來如斯キ要件ヲ充シ得ヘカラサシ性質ノモノニ非ルカ。
 即チ問題ハ分レテニトナシ組合債ヲ町村ニ引受クントイフ起債ハ
 其本來ノ性質トシテ制第百十二条ノ要件ヲ充シ得ヘカラサシモ
 ノナルカ、將又^b本來然ルニ非スル果シテ制第百十二条ノ要件ヲ具
 備セシヤ否ヤハ實質的審査ヲ俟ラノミ知リ得ヘキコトナシヤ之ナリ。
 若シ前者ナリトセムカ本件組合債ノ引受ハ其本質ハ起債ナ
 レトモ其起債ハ制第百十二条ノ要件ニ合セラルヲ以テ全然町村ノ
 権限外ニ屬シ始メヨリ之ヲ認メ得ヘキモノニ非ス然レモ若シ後者ナリトセ
 ムカ更ニ實質的審査ヲ俟テ論議セラルヘキモノナリ
 惟フニ制第百十二条ヲ尤モ嚴格ニ解セハ本件起債ノ如キハ其性質上
 第百十二条ノ要件ニ該當シ得サシカ如シ故ニ組合債ハ絶對的ニ町村負
 担ニ移シ得ヘキモノニ非スト云ハサルヘカラス。或ハ該ヲ為ス者アリ曰ク本件

組合債ハ制第百十二條ニ依リ町村債ト爲スコトヲ得ス制第四十條第八号
「予算外ニ新ニ義務ヲ負担スルモノ」トシテ町村會ノ議決ヲ經ルハ足ル
ト然レトモコトハ誤リ

柳モ町村制第四十條ハ町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目ヲ示セ
ル。止ルモノニシテ本条ニ示ス所ノモノハ凡テ町村會ノ議決ヲ經ルハ足
ト爲セン非ス。故ニ例令本条ニ於テ町村會ノ議決ヲ經クルモノ
レテモ他ノ監督規定ノ定ムル所ニ依リテ單ニ町村會ノ議決ヲ經タル
ミヲ以テ足レリトモ更ニ監督官廳ノ許可又ハ認可ヲ要スヘキモノ
多シ本条ヲ町村制第百四十五條乃至第百四十七條ノ規定ト対比スル
即チ本件ニ就テ之ヲ言ハ組合債ヲ町村ノ負担ニ移サムトスルコト
ハ誠ニ論者ノ謂フ如ク制第四十條第八号豫算外新ニ義務ノ
負担ヲ爲スモノナリトスルモ制第四十條ハ上述ノ如ク町村ニ対スル
監督規定ニ依テ拘束セラレザルヘカラス組合債ノ引受ハ既ニ述
ル

如ク金銭ヲ消費、貸借ニテ借入ルコトニシテ起債ト見ルヘキモノ
ナリ而シテ起債ノ權限ハ制第百十二條ニ於テ之ヲ限定シ更ニ第百
四十六條ニ依リテ兩大臣ノ許可ヲ要スヘキモノトセリ制第四十條第
八号ハ如斯ク制第百十二條及制第百四十六條ニ依リテ制限サル
ト然レニ本件ヲ制第百十二條ニ該當セザルモノトナシナカラ制第
四十條第八号ニ依リテ町村會ノ議決ヲ經ルノミヲ以テ足ルトナ
スハ監督規定ノ存在ヲ無視シタル謬見ナリト云フニ故ニ制第百
十二條ノ要件ニ合セサル起債ハ制第四十條ニ依リテ認ムル限アラ
ス。以上論スルカクハ本件組合債ハ事業引継ナシ行政処分ニ依リテ
町村ノ負担ニ歸センメ得ヘカラザルノミナラス如斯キハ起債トシテモ町村
制第百十二條ノ要件ニ該當セザルヲ以テ之ヲ認ム得ヘカラザルカ如ク然レモ
明治四十三年十月二十九日石川縣ニ對スル先例(後志)ハ更改契約ニ依
ル債務ノ負担ヲ(町村債)水利組合ノ負担ニ移センモノ而シテ水利組合

法第六十二條ハ町村制第百十二條ト全然合稱ノ規定ヲ支(起債トシテ)取扱ヘルノミナラス更ニ法ニ規定スル所ノ要件ニ合スルモノトシテ起債トシテ許可シテ本回答ニ於テハ暫ク嚴密ナル理論ヲ避ケ先例ノ立旨ニ倣ヒ以テ起債許可稟請ノ手續ヲ履ムコトヲ要スル旨ヲ示シタルモノニシテ許可稟請ノ手續アリタル上ニ於テ實質的審査ヲ爲シ果シテ許可スヘキモノナリヤ否ヤラ決定スヘキモノト信ス

尚宮城縣知事ハ法第五十三條ヲ引用シテ本件ヲ肯定セシカ
如キモ法第五十三條ハ第二号ノ場合ニ於テモ若シ還了セザル組合債アルトキハ組合ハ解散セサルモノナルコトヲ規定スルニ止ルモノニシテ本条ノ反面ヨリ直ニ本件ヲ肯定シ得ヘキモノニ非ス事業ノ引継ト共ニ組合債ヲ引継キ得ルヤ否ヤ問題ハ以上ノ如ク全然別途ノ考察ヲ要スルモノナリト信ス

更ニ組合債アル場合ハホク耕地整理法第三十八條ニ所謂町村ニ於テ施行スルコトヲ得ルニ至ラザルモノナレハ事業ヲ町村ニ引継クコトヲ得スト云フ者アルモ其而ラザルハ耕地整理法第五十三條第六十條ニ於テ組合債アル場合ノ事業引継ヲ予想セルヲ以テ知ラ得ヘシ

本件起債が果シテ制第百十二條ノ要件中其何レニ該當スルモノナリヤ少クとも何レニ類スルモノナリヤニ関シテハ旧債償還ナル觀念ニ依ルヘシトノ説アルモ余ハ寧ろ町村ノ永久ノ利益トナルニキ又出ラ為ス為メノ起債トシテ解スル方當レリト信ス將又實質的審査ノ結果四圍ノ状況上萬ヒムラ得ザルニ止ルモノナルニ於テハ天災事変等ノ為ニ起債ナリトモ言フヘキカ

耕地整理法第三十八條ニ関スル事項

府 縣 課 遊

耕地整理組合ヲ町村カ其ノ事業ヲ假令還了セリハ組合債
アルモ尚引継キ得ルモノナレトモ其際組合債ハ當然引継カルヘ
キモノニ非ラサルハ原案ノ如シ然レトモ之ノ組合債タル義務負
担ハ起債トシテ取扱フヘキモノニ非ラズ町村カ新ニ義務ノ負担ヲ為
スモノトシテ町村制第四十條ニ定ムルトコロニ依リテ町村會ノ議決ヲ
經レハ足ルモノナリ

〔理由〕組合債ヲ町村カ引受クハ又其町村カ義務ヲ負担ス
ル場合ノナリ然ルニ之ヲ起債トシテ取扱ハムトスルモ町村制第
二二條ノ起債ノ三原因ノ一ニモ該當セス故ニ起債トシテ義務
ヲ負担スルコトヲ得ス(類似ノ場合ニ起債トシテ取扱ヒ先例アリト
雖再考ヲ要スルモノト存ス)

斯ル義務ノ負担ハ町村制第四十條ニ依リ歳入出予算
ニ定メ(同条三号)或ハ歳入出予算ニ定メサルトキハ新ナル義
務負担トシテ(同条八号)町村會ノ決議ヲ經レハ組合債タル
債務ヲ更改シ町村ノ義務ニ変更スル公法上ノ手續ハ缺
点ナシ(新義務負担ノ決議アレハ予算上ノ手續ハ次ニ生スル
モ之ハ別問題ナリ)

本件ノ如キ場合ニ監督上ノ見地ヲ強テ町村ノ起債ト
解シ許可ヲ受ケンムル必要ナシ他ニ監督ノ方法アリ即組
合ノ事業ヲ町村カ引継フ際勅令ノ定ムルトコロニ依リ
知事ハ認可ノ行政處分ヲ為スモノナレハ組合ト町村ト
ノ間ニ義務及權利ノ振合ハ充分勘考セラレハキモノナ
レハナリ且町村會ノ決議ハ亦監督官廳ニ公益上ノ見
地ヲ監督スル命令處分ノ權アリ

〔参考〕

町村制第四十條 町村會ノ議決スル事件ノ概目左ノ如シ
三歳入出予算ヲ定ムル事
八歳入出予算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負担
ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

寛正 五七
七三三

地方 荏押
市町村課長 次

大達 三五
属

照會案

年月日
宮崎縣知事 宛
局長

起債、件照會

量縣更見湯郡木坂村、標記、件、買、金箱
成候、起、業、務、規、程、第、二、條、第、五、了、金

二六

融、幹、族、ハ、農、業、倉、庫、業、性、ニ、認、ル、以、外、ノ、事、業、ニ、シ、テ、同、法、ニ、依、ル、農、業、倉、庫、業、者、ニ、於、テ、為、ス、ル、得、ル、義、ニ、有、之、ト、モ、亦、市、内、銅、相、成、度、進、テ、倉、庫、使、用、料、徴、収、ニ、付、シ、テ、保、償、ヲ、定、メ、許、可、書、請、ノ、申、請、ヲ、執、ラ、シ、マ、ス、所、

乙

收地

七

三七

地方

二十五

花押

市町村課長次田

録
参事官赤尾潮前田、坂切半谷

回答案

年月日

岐阜縣知事宛

地方局長

五二八

町ラ廢シ市ヲ置キタルトキ條例規則ノ効力ニ関スル件回答
二月十五日地第九三六号市照會標記ノ件左ノ通り
承知相成云

町ラ廢シタルトキハ從來ノ町條例規則ハ当然消滅スル義ニ
有之新置ノ市ニ於テ有給吏員ノ退隱料一時給與金ノ條
例ヲ設ケ吏員ノ勤績年數ニ從前町ノ吏員トシテ勤績ノ
年數ヲ通算シテ退隱料一時給與金ヲ給スル旨ノ規定ヲ
為スコトヲ得ル義ト存ス

理由

一 町ヲ廢シ新ニ市ヲ置キタルトキハ假令其地域ニ變更
無キ場合ト雖モ單ニ自治團體ニ適用スル法ノ變更
ニ過キスト為スラ得ズ町ヲ廢スル行政處分ハ町ナル
自治團體ヲ廢止シ消滅セシムルノ法律上ノ効果ヲ
發生セシムルニ在リ

一 町ノ癸シタル條例規則ハ町ノ消滅ニ伴ヒ其効力
ヲ失フ故ニ町ノ退職料及一時給與金條例ハ廢
町ノ日以後ニ於テ之カ適用ヲ見ルコトナシ

一 新置ノ市ニ於テ市吏員ノ退職料一時給與金
ノ給與條例ヲ設ケ町吏員トシテ勤績セン年數
ヲ通算シテ給與ヲ為サントスルハ差支ナキヤ否之照會
ノ要矣ナリ

イ 町ノ吏員ハ町ノ廢止ニ依リテ失職シ新置ノ市ニ
於テ更ニ任用スルヲ以テ形式上別個ノ團體ノ吏
員ト云フヘキモ其ノ實質ハ勤績ニ外ナラス然ルニ若
シ形式ニ拘泥シ勤務年間ヲ中断シ置市以前
ノ年數ヲ加算スヘカラスト為スハ行政處分ノ結果
吏員ニ不利益ヲ來サシムルモノニシテ甚ダ酷シク失
シ吏員優遇ノ目的ヲ以テ為ス給與ノ本旨ニ及ス
ル新置ノ市ト舊市トハ團體ハ別異ナレモ新市
ノ事務ハ舊市ノ事務一切ヲ當然継承スルモノニ
シテ(四五年勅令第一
三六号第二條) 其關係ヲ見ルハ其継承シ
タル事務ニ從事セシ勤務年數ヲ市吏員トシテ
勤務ノ年數ニ通算スルモ全然無意義ノモ
ノニアラス而モ退職料一時給與金ノ給與ハ市

ノ吏員タリシコトヲ要件トスルモノニシテ其ノ勤務
 年数ハ單ニ給與額ノ標準タニ過キス故ニ町
 吏員タリシ年数ヲ通算スルモ違法ニテラス
 ハ廢町ノ際失職ノ吏員ニ對シ一時給與金ヲ給與ス
 ルニ於テハ通算ノ規定ヲ設ケザルコトヲ得ヘシト雖一時
 ニ町カ多額ノ支出ヲ為スハ町ノ財政上至難ナル趣
 其事情ヲ見ルモ勤務年數通算ノ規定ヲ定
 ムルコト市ノ實情ニ適合スルモノナリ
 以上ノ如クナルニ依リ本案ノ通算ニ回答セントス

(附記)

町ノ条例ノ規定ニ依リ現ニ退隱料ノ支給ヲ受ケ居ルタ
 ルモノニ對スル給與ハ廢町ノ日以後ノ分ハ新市ニ於テ

支給スルノ途無之ヤ否ヤ考慮ノ餘地アリト思料ス
 ルモ岐阜縣屬大野町次郎ノ説明ニ依リ大垣町
 ニハ現ニ支給ヲ受ケ居ルモノ無之趣ニ付此ノ點ニ回答
 記載セス

岐阜縣知事 鹿子木小五郎

内務省地方局長 添田敬一郎 殿

地第九三三號

大正七年二月十五日

町ヲ廢シ市ヲ置カレタルトキ條例規則効力

ニ関スル件

町ヲ廢シ市ヲ置カレタルトキハ從來ノ條例規則ハ当然消滅スルモノト存候處吏員一時給與金條例又ハ退隱料條例ヲ設ケアル場合ニ於テ新ニ置カレタル市ノ條例中從來町ニ於ケン吏員ノ勤務年數ハ市ノ勤務年數ニ通算シ從來町ニ於テ退隱料ノ請求權ヲ有スルモノニ對シテハ之カ支給ヲ継承スル趣旨ヲ規定シ得ル義ニ候哉疑義相生ノ候条至急何分ノ由回示相成此致及照會候

乙

七

地方ニ

△

市町村課長室
四六

参事官 關山縣 前日 據切寄

文部省へ回答按

年月日 地方局長

文部省普通學務局長宛

市町村義務教育費國庫負担法ニ関スル件回答

九九

本月二日並發第一六〇号ヲ以テ標記ノ件申照令ノ趣了承右ハ大体ニ於テ異存無之矣一若市町村ノ廢置分合若ハ境界変更ニ依リ消滅スヘキ尋常小學校及兒童教育事務ノ本記ニシテ明治三十四年勅令第百九十七号ニ依リ之ニ代ルヘキ施設ヲ終ルマテ存續スヘキ場合ハ從來其ノ費用ヲ負担シタル区域ノ屬スル市町村ニ於テ之ヲ負担スヘキコトニ相成居矣ニ付本件ハ右ノ場合ニ其ノ費用ヲ負担シタル市町村ニ對シテモ相當之ヲ配付セラルヘキモノト被存矣条右ニ仰了知相成度

大都會發普六〇號

市町村義務教育費國庫負擔法ニ関シテ本年十月
二十二日六大地第三〇號ヲ以テ貴省大臣ヨリ本省大臣宛
テ回答ノ次第モ有之候処市町村ノ廢置分合スハ境界
變更アリタル場合ニ関スル件令取別紙ニ依リ相定メラレ
キ見込ニ有之候ニ就テ右ニ関シ何分ノ御意見承知致
度此段及照會候也

大正七年四月二日

文部省普通學務局長 赤司鷹一郎

内務省地方局長 添田敬一郎 殿

送テ資力薄弱ナル町村ノ認定ニ関シテハ別ニ之ヲ定メラシ
メキ見込ニ有之矣条亦合置相成度尚本件ハ特ニ

差急キ矣事防有之矣ニ付折返テ回報相煩ハシ度
此段申添并

一 前年六月一日以後ニ於テ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ左ノ例ニ準シ從前ノ市町村ニ交付スヘキ國庫支出金ヲ分配交付スルコト

一 就學児童數ニ應ニテ交付スヘキ國庫支出金ハ廢置分合又ハ境界變更後ニ於ケン當該地域ノ所屬ニ從ヒ前年六月一日ニ於テ居住シタル就學児童數ニ割當テ關係市町村ニ配付スルコト

(二) 教員數ニ應ニテ交付スヘキ國庫支出金ハ前年六月一日ニ於テ當該市町村立尋常小學校ニ勤務シタル正教員及准教員ノ數ニ生シタル異動ニ應ニテ關係市町村ニ配付スルコト

一 市町村組合、町村組合、設置、組織變更又ハ解散

アリタル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ルコト

市制又ハ町村制ヲ施行セラル地域ニ於ケン市町村ニ準スヘキ公共團體ノ組合ノ設置、組織變更又ハ解散ニ付テモ同條ノコト

乙

幾九
七
四
十五
地方

五

市町村課長 畜
四十六

録

通牒案

年月日 地方局長

北海道廳長官宛
府縣知事

市町村豫算式ニ関スル件依命通牒

三〇

本年法律第十八號市町村義務教育費國庫
負担法ニ依リ交付セラルル國庫負担金ハ大正元年
内務省令第十八號市町村歳入土豫算式中歳入
第二款使用料及手数料ノ次ニ(款)國庫下渡金(項)
義務教育費下渡金ノ科目ヲ設ケ整理セシメラレ度
追テ市制町村制施行地外ノ区町村豫算ニ付テモ
本文ノ例ニ依リ處理セシメラレ度

丙

文地 一

七 四 十五

地方

五

四 十六

市町村課長 留

付箋案

年月日

文部省 御中

内務省

一本件ハ市町村、豫算式ニ関スル事項ニシテ市制
第百四十三條市制第百三十三條ニ依リ本省ノ主管

ニ属シテ
一本件ニ付テハ一般ニ通牒スルヲ以テ回答ノ要ヲ認メス

字

甲

表七
七
六
五

地方
三
八

並

係

地方局事務官
三邊

前田

市町村課長
四
六
田

人藏大臣
市来

次官

税局長
伊藤

黒田
勝

文部大臣
且

次官

美佐

普通學務局長
下村

下村

三一號

通牒案

年月日

地方局長

主税局長

普通學務局長

北海道廳長官
府縣知事
宛

市町村義務教育費國庫負担法

今般法律第十八号より市町村義務

教育費國庫負担法に依り市町村義務

教育費國庫負担法に依り市町村義務

教育費國庫負担法に依り市町村義務

教育費國庫負担法に依り市町村義務

教育費國庫負担法に依り市町村義務

教育費國庫負担法に依り市町村義務

教育費國庫負担法に依り市町村義務

二生之ル 餘格 今其ノ一部ヲ以テ教
 育改善ニ要スル費用ニ充ツルノ外之ヲ
 住民ノ負担軽減ニ充ツルニトシテ措置セ
 シメラレ度 而シテ右ニ至トシテ戸数割
 附加税 (家全税) 地ニ与テハ家全税
 附加税ノ課税ヲ減スル様致度
 進テ今道課ノ趣方ニ依リ大正七年度
 歳入豫算ノ更ニテ為ス場合 課税ノ
 均衡上 既ニ許可ヲ受ケタル制限外
 課税クニ至ル税附加税ノ課率ヲ減額
 シタルトキハ課税正ノ課率 議決書
 寫並豫算表ヲ添ヘ直ニ報告セシメ
 之度

大正六年
教育費
支辨
市町村
教育費
支辨
市町村
教育費
支辨
市町村

教育費支辨ニ依リ市町村ノ
財政上ニ生ズル餘額金ニ對シテ
小學校教育費支辨ニ依リ市町村ノ
財政上ニ生ズル餘額金ニ對シテ
其一部ハ之ヲ市町村ニ於ケル教育費
良ノ費用ニ充テシテ其他ハ市町村ノ
費ノ輕減ニ充テシテ之ヲ市町村ノ
止メテ得ル費用例ハ其宜ク復舊費
市町村債ノ償還 傳染病予防費及
水利ニ關スル費用等ニ充テスルニ因リ
已メテ得ル所ヲトス而シテ其輕減ノ
輕減ニ關シテハ主トシテ戶割附加税
全稅務ノ地ニ對シテハ市町村ノ減

裏面あり

世にんをトシ
訓令の通
喋り書
見

本件此の課長手許に留置し奉旨添付ノ今年に依り留置す
大正六年十月二十日 込 込

甲

六
地方 添田

市町村課長次田

参事官 山縣潮前田 堀切

渡田

小學校教育費國庫支辨ニ
關スル件

小學校教育費國庫支辨ニ關シテ未
リ文部省より何等之交渉無之候ハ共早晚
其ノ實現ヲ見ルニ至リヘク付テハ之ニ因リ
テ市区町村ノ財政上ニ生ズル餘裕金ハ一

先市區町村税制ノ整理ニ充當スルニトシ
豫メ省議御決定相成可然我
道ニ小學校教育費ヲ國庫より支出スル
ニ可成團體ノ資力ニ意シ富裕ナル市
区町村ノ學校ニ厚ク配賦スル教育ヲ以テ
適當ノ方去リ定ムルニトシ文部省ト協
議致度併而仰高哉

理由

小學校教育ニ關スル經費ハ市區町村ノ義務ニ屬セラレ然モ其ノ經費ハ市區町村費中ノ大部分ヲ占ム然ルニ一方市區町村ノ經費ハ年々膨脹シ市區町村民ノ負担益重ク加フ殊ニ國稅ノ附加稅ニ付テハ法定ノ制限アルカ故ニ此ノ負担ハ主トシテ縣稅ノ削減、附加稅トシテ市區町村民ニ課セラレ而シテ戶數割ハ極メテ不公平ナル見立稅アルヲ以テ納稅者ノ苦痛ハ一層大ナルモアリ今や此ノ苦痛ヲ救済スルカ為小學校教育費ノ一部ヲ國庫ヨリ支出スルノ議アルハ地方新政ノ一大革新

劃ニシテ内務省在來ノ希望モ此ニ其實現シ見ル次第アリ
 小學校教育費國庫支辨ニ因リテ市區町村ノ財政ニ其レ支ノ餘裕金ヲ生ス此ノ餘裕金ハ文部省ニ於テ其一部ヲ小學校教育費ニ充ツルノ議アリト云ク然レトモ今日市區町村ノ事業ニシテ擴張發展ヲ要スルモ獨リ教育ニ限ラス例ハ現今市區町村吏員ノ待遇、如キ菲薄ヲ極メ到底適才ヲ招致スルヲ得ス之カ優遇ノ途ヲ講ズルハ市區町村ノ成績ヲ興手クルカ為尤モ必要ヲ感ズル所ナリ
 市區町村ノ義務ニ屬スル經費就中

教育費多キ過キ他、事業ハ凡ク犠牲
トナルノ止ムヲ得スレテ然モ市區町村ノ
負担尙重ナルノ結果ヲ生シタルアリ今市
区町村ノ負担ヲ軽減セラルシテ教育ノ増
俸ヲ計ルカ如キハ根本ノ趣旨ニ於テ矛盾
スル所アリト云ハサルヘカラス
罷テ市區町村ノ財政ヲ見ルニ其ノ税割
宜シキヲ得ヌ市區町村民ノ賦課総額
ニ於テ已ニ大ナル負担ヲ為セルノミナラス其
ノ賦課カ人民個々ノ負担力ニ相應セサル
カ爲ニ更ニ一層ノ苦痛ヲ出サメツ、アリ然
レ共一舉ニシテ地方税割ヲ整理セルトセハ
從來ノ個人負担ニ一大変革ヲ興ヘ從來

ノ負担ヲ減スル者ヲ生セルト共ニ又之ヲ増
加スル者ヲ生セサルヲ得ヌ其ノ個人經濟
ニ及ホス影響ハ極メテ大ニシテ悉ク市民
經濟ノ根底ニ大動搖ヲ生セルナキヲ保
ス地方税規則ノ改正カ二十年来ノ懸案
ニシテ尚解決ヲ見サルハ其ノ原因一ニ此ニ在リ
今若シ小學校教育費國庫支辨ニ依リ
市區町村ノ財政上ニ餘裕ヲ生ズルヲ機ト
シテ税割ヲ整理セハ從來過重ノ負担
ヲナス者ハ之ヲ軽減スルト同時ニ負担ノ
率ハ輕カリシ者モ餘り多ク其負担ヲ
増加セス個人ノ經濟ヲ攪乱セル事ナラシ
テ負担比較的平ナルトシ得ヘシ地方

税整理ノ事此時ク以テ絶好ノ時期トス
此ノ後シテ逸セリカ又長ク現状ヲ以テ推移
セサルヲ得ナルナリ今國庫ヨリ小學校教
育費シテ支出スルモ其ノ實其ノ全部又一
部シテ教員優遇其ノ他ノ資ニ充テ市區
町村負担軽減ノ美名アリシ其ノ實之
ニ伴フテクハ市區町村長ク其奇
重ナル負担ヲ免ル、ヲ得ス市區町村ノ
他ノ必要ナル事業ハ遂ニ發展ノ機ナル
ヘシ之ニ及シテ地方税制ノ整理先ツ成
ラハ市區町村民ノ負担幾分ノ餘力ヲ生ズル
ヲ得ヘク教員優遇其ノ他ノ事業業ノ振
張漸ク以テ之ヲ進ムル必スシモ難カラズ

上記省議ノ御決定ヲ仰ク所以ナリ

福化 七三三
地方 廿四
市町村課長 次田
親泊 爲

別
三

府縣知事人通牒案
年月日 地方局長
府縣知事完 (福島沖繩を除く)

市町村組合 組合長會より置
件通牒

市町村組合 組合長會より置
件通牒

三二號

件三件最ニ福島縣知事より照會中
・慶市町村組合より市制ニ関スル規定
ヲ準用スル結果組合長會より置
手ノ者議決定相成候條石御承知
相成度

福地

七 三三

地方

添田

市町村課長齋

三十三

乙

初稿

録

参事官山縣潮前田坂切

田答案

局長

年 月 日

福島縣知事宛

市製ニ関スル疑義ノ件田答

大正六年十二月二十八日付ラ以テ標記ノ件市照會相成候處亦見込ノ通りト存シ候

理由

一、市制第五十六條ハ市町村組合ニ関シテハ法律勅令中別致ノ規定アル場合ヲ除ク外市ニ関スル規定ヲ準用スベキコトヲ定ム從テ市町村組合ニハ市参事會ニ関スル規定ヲ準用シ第市町村組合参事會ヲ設ケ市参事會ニ関スル職務權限ヲ處理セシムヘキナリ

二、論者或ハ曰ク制第五十二條ハ市町村組合ニ関スル重要ノ事項ヲ舉ケテ組合規約ノ規定ニ委ネタル莫ク見レハ同条ハ市町村組合ノ機關ノ種類ヲ限定センノ法意ヲ窺ハレムト惟フニ同條ハ市町村組合ニ関シテ市制ヲ準用シ難キモノニ付キ特ニ組合規約ニ依リ定ムヘキモノトセンノミ同條ヲ解シテ機關ニ付テノ限定的規定ト為スコトヲ得ス

三、制第百五十二條所定ノ必要事項以外ノ任意事項ト
 雖モ強行法ニ及セザル限リハ之ヲ組合規約ニ規定スル
 モ有效ナリ從テ論者或ハ組合参事會ヲ設ケザル旨ノ
 規定ヲ組合規約ニ設クルモ亦有效ナリト為スト虽モ斯
 ハ及對テリ蓋シ組合規約ノ效力ハ強行法ニ劣ルハ一五六
 四、市参事會ハ法令ニ依リ認メラレタル固有ノ権限ヲ有ス
 論者或ハ市町村組合ニ於テハ此権限ハ当然組合會ニ
 帰スルト為スト虽モ理由ナキナリ

五、論者或ハ市町村組合會及組合吏員ノ組織ハ組合
 規約ニ於テ任意定ムル處ナルカ故ニ市参事會ニ準スル
 組合参事會ノ成立ヲ見ル能ハサル場合ナレトセス之レ蓋
 シ任意ニ強行法ノ適用ヲ排除スルモノナリトナス然レト
 モ既ニ制第百五十六條ニ依リ市参事會ニ関スル規定

六、ノ準用アリトセハ約組合規約ハ之カ準用ヲ排除スルカ
 如キ規定ヲ為ス能ハサルナリ
 論者或ハ一部事務ノ組合ニ在リテハ組合参事會設置
 ノ要ナク若シテ之ヲ設クルモノトセシテ制第百五十二條所定ノ
 規約ヲ似テ規定スヘキ事項ニ加フヘカリシニ然ラザリシハ
 之ヲ設テ許サレト法ノ精神ナリト為ス然リト虽モ
 組合参事會ヲ設置スルコト必スシモ其ノ必要ナレト
 断定スルヲ得ス規約事項ニ加ヘザリシハ準用ニテ足レト
 認メタルカ為ナリ

七、制第百三十條ハ市税ノ賦課ニ関スル^{四六}異議ハ之ヲ市
 参事會ノ決定ニ付スヘト定ム然ルニ制第百五十五條
 ハ組合費ノ分賦ニ関スル異議ハ組合會ノ決定ニ付
 スヘト定ムルカ故ニ論者之ヲ似テ組合参事會ノ設

置ラ否認スルノ論據ト為ス然リト雖モ組合ノ費用ノ
徴收ハ多賦ニ限ルモノニアラザルノミナラス多賦ハ殊ニ京
要ナル事項ナルカ故ニ組合會ノ決定ニ付スヘキモノト
セルノミ之ヲ以テ及對論ノ論據ト為スニ足ラズ

長官官付箋

立法論トシテハ必ス組合参事會ヲ置クノ必要無し
惟フニ草案者モ組合参事會ノ設置ヲ豫想ヒテリシ
ハ制百五十二條制百五十五條第三項ノ規定体式ニ依
テ推測セラレ得ルモ是ハ當テノ推測ニ留マリテ規定全
體ノ解釋上ヨリシテハ原案ニ賛スル外無し
當テ法ノ精神ヲスレハ必置ノ要無キヲ以テ相當ノ時機
ニ改訂ヲ望ム

前田

六地第五七七號

大正六年十二月二十八日

福島縣知事

内務省地方局長殿

市町村組合ハ市制第百五十六條ニヨリ法律勅令
中別段ノ規定アリ場合ヲ除ク外市制ニ関スル規定ヲ
準用スルモノナルヲ以テ市町村組合モ市制第六十四
條ニヨリ組合參事會ヲ置クニキモト恩料セラレシ
候ニ共聊カ疑義相生シ候條御省議御示煩
ハシ度此致及御問合候也
並テ本件ハ差掛リタル件ニ付特ニ呈名

御示煩ハシ度申添候也

乙

城地

七 八五
四十八

地方 添田

市町村課長 次田

死理 前日

文部大臣

次官

美治

普通學務局長

下村

案

年月日

宮城縣知事宛

地方普通學務局長

三三

市町村義務教育費國庫負擔金ニ
關スル件ニ付回答

本月十日地第二三三の號ヲ以テ標記ノ
件御照會ノ如右教員増俸ト負
擔輕減ニ充ツル分下ノ割合ニ別段定
メ無之ニ付貴官ニ於テ適當ニ定メラ
レ可然趣旨ニ有之候奈石様御
了知相成度

地第二三三〇號

大正七年四月十一日

宮城縣知事濱田恒之助

内務次官清澤博士水野鍊太郎殿

市町村義務教育費國庫負担法ニ依ル
本年度負担金御交付相成候者ハ
教員優遇相成並ニ市町村費負担
軽減ノ資ニ免ツハキモノト存シ候也
右負担金ノ使途ニ關スル各其割合
御決定相成居候ハ折返シ御回示
相煩ニ度此段及御依頼候也

乙

六神地
七

九六
地方 三十一

花押

添田

前田

市町村課長 添田

通牒案
年月日
神奈川縣知事宛
地方局長

三
四
標記ノ件ニ関シテハ何等ノ條件ヲ
横濱新港利用ニ伴フ配當金ニ
関スル件

付セサル様貴官ノ御申出ニ依リ其旨大
藏省ニ及通牒候處今般大藏次官
ヨリ別紙ノ通牒有之候條其旨横
濱市ニ御示達相成度

往第ニ七二五號

大正七年三月廿三日

大藏次官 市來乙彦
内務次官 法學博士 水野鍊太郎 殿

横濱新港利用ニ伴フ配當金ニ関シ客
年十二月二十五日附ヲ以テ、横濱市ニ對
スル益金交付ニ何等ノ條件ヲ附セサル
ニト、認メ置カル、旨、依命通牒、牛
了兼、今由余令條項、變更ニ依ル
益金交付ニ之カ爲新ナル負擔ヲ概
濱市ニ余令シ又、附隨セル條件ヲ付
スル等ノニトナキ無條件、モ、候モ之

カ交付ニ出高リテ、年々、議會、協賛ヲ
經レテ、條件トスルニト、從前配當金交
付ノ場合ト同様ニ有之候、各、其、自、道
行、透、シ、生、セ、サ、ル、様、致、シ、度、爲、念、依、余、通
牒、候、也

甲

京地七
三四五

地方

長押

市町村課長留
五三

長押
小務
前田

町村境界變更，件
許可案

大正七年二月二十三日
京都府知事
京地七
三四五
九〇〇
錦
票請中郡峰山町吉原村丹波村境
界變更並之二件，財產處分，件
許可案

三五

年月日

内務大臣

通牒案

地方局長

京都府知事宛

境界變更，件依命通牒。
貴官在下中郡峰山町外二村境界變更
ノ件本日許可相成候處本件實施
ノ境小吉原村及丹波村殘村ノ財政上
ニ及ボ不影響不致精被存候ニ件之カ為

ニ西村從來、施設ニ動搖ヲ来サレサル
様充分御監督相成度尚本件ニ反對
ニ地方民ニ對シテハ充分諭示ヲ加ヘ
實施後ニ於テ關係住民ノ紛争ヲ
醸スカ如キコトナク相一致シテ圓滿ナル發
達ヲ遂ケシム様御注意相成度尚又正
記事項ハ特ニ相當措置置相成度
進テ施行期日ニ於テ協議中 経過セルヲ以
テ更ニ定ムルハク爲念

一 峰山町ノ水道其ノ施設ハ可成速ニ編
入區域ニ及ホス様相當計畫書ヲ立テ
實施スレムコト

ニ 編入區域ニ關シテハ可成從來、負擔ヲ
急激ノ増加ヲ来サシ様當面方リシ
浮去ヒレムコト

理由

右件ノ京郊府中郡丹波村人字形谷又
今郡古原村人字安、一部ヲ割キ峰山町ニ
編入セリトスルモノアリ、右件知事、稟請ニ
已ハ關係兩村ニ及ホス財政上ノ影響
不敷又關係地方住民中此ノ境界表更
リ不利ナリトシテ頻々催唱スル所アリシ以
テ地方当局事務初官ニ邊長治ヲ派遣シ
實地狀況ヲ調査セシメタルニ別紙續命書

通公登止 傍割ノ支障 見テ適者アリトスルモノニ有之候 心ニ実
施ノ結果 百發ノヘキ 矣ニ付テハ知事ニ通
牒リ 發スル下ニシテ 个業相伺候

裏面白紙

甲

級
六
十二
十四

土木

小橋

池田

道
路
課
長
佐
上

花押

地方局長

市町村議長
次田

参事官
赤池
府縣課長
朝

山縣前田辰切
守屋

回答案

番号

月日

大改府知事宛

土木局長

第三六

國道及仮定縣道、維持修繕費ヲ大改

市ニ移スノ件回答

標記ノ件本月七日付号外ヲ以テ照會ノ次第有之テ其處
道路ノ管理ハ貴官ノ職權ニ存スルモノナラシテ之ヲ大改市
長ニ委任セラレハ貴官ノ任意ニ有之又國道及定縣道ハ本
未地方一級ノ利害ニ關スルモノト認ムヘキヲ以テ通常其ノ維持
修繕費ハ明治十一年太政官無号達ニテ所屬府縣ノ負
擔タルハ勿論ノ義ニ矣得共大都市内ノ道路ハ其ノ種
別ノ如何ニ不拘市内ノ交通ニ重大ナル利害關係ヲ有スルヲ
以テ大改市内ニ於ケル國道及定縣道、如キモ貴官ニ於テ
審談道路カ地方的交通上、價値ヲ有スルノ外尚一層市
内ノ交通機關トシテ重大ナル利害關係ヲ有スルモノト被認ハ場
合ニ在テハ之ニ對シ市ヲシテ維持修繕費ノ負担ヲ為サシメラルハ

別ニ大政官無号達ノ趣旨ニ及セザンモト存矣右経例ノ上
及回答者

追テ市ラシテ國道及仮定縣道ノ維持修繕費ヲ負担セシムルニ
當リテハ之ヲ為市財政持ニ財源ニ如何ナシ影響アリカ之ヲ算ト
調査シ實行上ノ都合ヲ生スルコトナキ様致サレヌ此致持ニ
申添ハ

理由

明治十一年大政官無号達土木費負担所屬區別ハ地方一般ノ
 利害ニ関スルモノハ地方稅支弁トシ其ノ所轄ノ区限ノ又數町
 村共同ノ利害ニ係ルモノハ其ノ所村又ハ区内限ノ協議費ノ支弁ニ
 係スヘシトテ而シテ現今ニ於テハ縣道ノ多クハ地方一般ノ利害
 ニ関スルモノト認ム(キモノナラカ故ニ其ノ費用ハ大概府縣ノ負担ニ係
 ヤ)然レトモ大政官無号達ハ道路ノ種別ヲ以テ其ノ費用負担所
 屬ヲ定メカニテ之ヲ依令ニ道級定縣道トシモ其ノ利害ノ關係スル
 所ノ輕重ニ依テ之ヲ府縣以外ノ公共團體ニ負担セシムルモ必スレモ
 遺法ト云フベカラス特ニ今議會ニ提出セラルヘキ道路法案ニ於テ
 モ市長ラシテ且通府縣道ノ管理者トシ其ノ市ニ費用ヲ負担セレ
 ハルノ規定モ有之候ニ付大政市内ノ國縣道ニシテ特ニ市内ノ交
 通上重大ナル利害ノ關係ヲ有スル場合ニ於テハ之ヲ管理ヲ移シ

其ノ維持修繕其他ノ費用ヲ負担セシムルハ都市ニ於テハ道路政
 策上寧ろ適者ナシ措置ト認ム

追テ本件大政市ノ問合ハ維持修繕ノミニ付其費用ヲ移
 サントノ趣旨ナシモ新築改築ノ費用ニ對シテモ本理由ニ依
 リ市ヲシテ負担セシムルハ別ニ又障ナキモノト認ム
 備考 東京市内ニ於ケル且縣道ニ對スル維持修繕其他
 ノ費用ハ從來ヨリ東京市ニ於テ負担ス

号外

大正六年十二月七日

大及府知事大久保利武

内務次官水野錬太郎殿

國道及假定縣道ノ維持修繕費ヲ大阪市ニ

移スノ件

大阪市内ニ於ケル國道及假定縣道ノ維持修繕費ハ從來府費負担ニ有之候處今般大阪市ニ其ノ管理ヲ移シ其ノ維持修繕ヲ為サシメ度候思フニ近時大阪市内ニ於テハ經濟界ノ發展ニ伴ヒ貨物輻湊シ交通頻繁トシ道路ノ改良ヲ急務トスルニ當リ其ノ管理一ナラサセテ以テ之ヲ統一並改良上

多大ノ不便有之候而シテ現ニ府費ヲ以テ負担スルモノモ皆市部經濟ナルヲ以テ府費タルト市費タルトハ唯其ノ形式ニ過キサシモニ有之候且工事ノ施行及道路ノ使用等ニ付テハ別ニ府令又ハ訓令ノ定ムル所ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クヘキ義ニ付道路橋梁ノ改良ヲ為シ統一整齊ヲ保フ上ニ於テ市長ヲシテ管理セシムルノ必要有之尙市日長ニ於テモ管理移轉ノ義希望致シ居候ニ付テハ大阪市内ト協議ノ都合モ有之候條右差支ノ有無至急申回示相成度此致及伺合言也

地方税規則

明治十三年四月八日
大政官布告第百六号

明治十一年律第十九号布告地方税規則左ノ通改正候
條此旨布告候事

地方税規則

第一條 第二條 畧ス

第三條 地方税ヲ以テ支辨スヘキ費用左ノ如シ
(十一年律第十九号布告
第二号各款改正)

- 一 警察費
- 一 警察廳舎建築修繕費
- 一 土木費
- 以下畧ス

土木費負擔所屬区分方ノ件

明治十一年七月三日
大政官無号達

今度第十七號第十八號第十九號ヲ以テ郡區町村編制
府縣會規則地方税規則布告候ニ就テハ施行ノ順序左ノ
通ノ相心得ヘシ此旨相達候事

(一) 十一迄略ス

十二 地方税ヲ以テ支辨スヘキ事件ト町村又ハ區限ノ協
議費ヲ以テ支辨スヘキ事件トノ区分ハ凡ク地方一般ノ
利害ニ關スヘキモノハ地方税支辨ノ部ニ屬シ其町村限
リ區限ノ又ハ數町村共同ノ利害ニ係ルモノハ其町村又
ハ區内限ノ協議費ノ支辨ニ屬スヘシ

土木費負擔所屬ノ指定ハ府縣會

ニ附議スルニ及ハサレん件

明治三十年六月十四日
縣治土木兩局長通稱徳乙第百二十五号
府縣制施行ノ各府縣(茲ニ除ク)

府縣制施行ノ諸縣ニ於テ土木費負擔所屬ノ指定變更(其ノ河川堤防道路ハ縣ノ負擔ニ屬シ某ノ河川堤防道路ハ市町村ノ負擔ニ屬スル等ノ指定ヲナシ又ハ縣負擔ノモノヲ市町村負擔ニ移シ市町村負擔ノモノヲ縣負擔ニ移スル等)等々縣會ニ附議候向モ有之候處土木費ノ係ハ明治十一年七月太政官無号達第十二ニ依リ府縣又ハ市町村ニ於テ負擔セラル可ラレんモノニシテ知事ハ府縣制施行ト右トニ係ラス自己ノ職權ヲ以テ適宜ニ其ノ所屬ヲ指定變更スルヲ得んモノニ付右土木費負擔所屬ノ指定變更等ハ諮問案ト

シテ縣會ノ意見ヲ徵セラルルハ格別議案トシテ縣會ニ附議スルモノニ非ス爲御心得此致依命及通牒候也

此致申添候也
迎テ本件ニ粘簡スル從前ノ指令通牒等ハ取消サレ候事

土木費舊慣施行ノ件

明治三十一年二月十号
大及官無号達

河港道路堤防橋梁費ノ義ハ明治十一年七月十九号布告及テ相定メ右施行順序ノ係ハ同年七月二十日號外達案十二項ノ通相達置候得旨自然各地方ノ慣行ニテ右ニ準據シ難中今ハ府縣會ノ決議ヲ以テ暫ク舊慣ニ因リ施行シテ若候條此旨爲心得相達候事

本件ハ左ノ趣旨ノ追加ハ地方局長モ連署スルトニ致シ
十二月三十四日 地方局長 署名

近ニ市ラシテ國道久候定縣道ノ維持修繕費ヲ負担セシムル
ニ當リシハ之カ為市財政特ニ財源ニ如何ナル影響有ルカ
之ヲ寫卜調査シ実行上不和分ク生スルコトナキ様致サレ
ば此致特ニ申添可

丙

時地七
七 二二五

地方 二二七

市町村課長

立任 尾戸 屬 二五八

通 彙 業

地方局長

年月日
長崎縣知事宛

市豫算報告ニ関スル件通彙

二月二十日地第三五号ヲ以テ長崎市豫算報告
相成矣然各年十二月二十日議決及本年二月二日議決
ノ二回分ヲ同時ニ此報告相成矣其ニ付テハ申越ノ次第

三七號

モ有之候得共今後照復ヲ要スルモノアリトキハ貴廳ニ於テ
進行セシメラント同時ニ報告書ニハ其ノ旨附記速ニ申進
連柳成度

以下貴縣ニ於テ本稅徵收期間中附加稅
トシテ徵收スルニ付更ニシテ積致度

120

裏面白紙

丙

七^三地^四
三^七地方^五

係田

市町村課長^{四八}苗

大藏大臣

次官

主税局長
小税課長

通牒案

年月日

三重縣知事 宛

両局長

第三九號

制限外課税ノ件 存依余通牒
貴縣多氣郡三瀬谷村標記ノ件 本日
許可相成候知歳出臨時部紀勢同盟
會補助ニ付テ貴官御副申ノ次第
之有之右ノ削除ノ上之相當ナル制限外課
税ヲ減スルニ直ニ更正議決ノ上執行スル
ニト認メテ許可セラルル様ニ御示達更
正ノ議決ニ速ニ報告セシメラレ度

山

二地 六七
七 四十九
地方 添田
市町村課長 田
五十五

小橋
倉事官 赤池山縣湖前田匠切守五

大藏大臣
次官 市来
主税局長 黒田
國税課長 勝

市町村課長 附加税ノ賦課ノ事所得

祝類歩合ノ件
指令案

自大正三年一月二十日
至大正三年六月二十五日
得税ニ對シ賦課ノ事
加税賦課ニ関スル本税額歩合ノ通
定

年月日

西大臣

一万分ノ千五百分
一万分ノ貳千四百貳拾分
一万分ノ七百七拾八
一万分ノ千七百貳拾四
三重縣四日市市
三重縣津市
三重縣桑名郡桑名町
愛知縣知多郡半田町

第百〇號

一万分、四百六拾五
 一万分、貳千貳拾五
 一万分、叁拾叁
 一万分、拾五
 一万分、叁百貳拾叁
 一万分、叁百九拾叁
 一万分、百叁拾五

愛知縣海部郡佐織村
 愛知縣名古屋市
 大阪府大阪市
 東京府東京市
 大阪府西成郡傳法町
 東京府北豐島郡王子町
 埼玉縣北葛飾郡栗橋町
 施行地外
 天津
 大連
 京城

通牒校

年月日

地方局長
主税局長

三重縣、愛知縣、大阪府、東京府
埼玉縣、知事宛

三重縣四日市市市本庄より有之東洋紡績株式會社、對之所得稅附加稅賦課、
 貴令、同縣尋名郡桑名町長、稟請、依り左記、通指令相成候、各同係市
 所村へ、請示達相成度

左記「指令」全文、略字、(三)

理由

本件、東洋紡績株式会社、自大正三年六月二十六日
 事業年度分所得税ヲ其ノ營業所別
 二納メサリシヲ以テ關係市町村カ附加税賦
 課ノ必要アリ且、本税額ノ歩合ヲ協定シ
 タルモ協議調ハカルヲ以テ裁定行桑名町長
 ヲリ稟請セルモノニ有之候
 桑名町長、提案

會社届出、各營業所ニ在地タル市町村別收
 入額ノ比例ニ依ルモノニシテ其ノ内名古屋市
 東京市大崎市（施行地外、分三市ニ合併）ノ營
 業所ノ收入ニ比シ難キニ依リ先ツ是等
 ノ市ノ分ヲ一市分ト同標ニ取扱ヒ其ノ上此ノ

三市間ノ歩合ニ營業税課税標準中資本
 金ヲ除キ算出シタル營業税ニ依リ分クント
 スルモノ

之ニ對シ關係市町村中四日市市ヲ除ク外ハ
 全部同意シタルモノニ有之候其ノ
 四日市市ノ不同意アリト主張スル理由ハ

實質上純益（此知ニ所謂純益ト所得ト同意
 義ノモノナルヘシ）ニ依ルヲ至当アリト謂クモノ

有之

就テ取調フルニ桑名町長、提案ニ係ル收入ニ依
 ルモノ及四日市々長、主張スル所得ニ依ルモノ共
 ニ適當ナル標準ト認メ難シ即チ各營業所
 所在地タル市町村間ニ於テ或ル數箇所ノ收入

及所得ハ互ニ混同サレ居リ又所得税法施行地外
ノ分シモ除算セサルモノ有之候故ニ裁定案
ハ各營業所別ノ收入所得、建物賃貸賃
格、従業員ノ負シ各標準ノ力ハ平等ト看
做シ別表、如ク百分比例ヲ以テ算定シタ
ルモノ有之此ノ例ニ最ニ本會社ノ自大正三
年六月事業年度ノ所得税附加税賦課
ニ関スル本税與合裁定ニ用テタル事實
アリ適當ト存シ其案相伺候

由

第七
三四五
七

地方
市町村課長

任
尾戸属

通票案

地方局長

秋田縣知事宛

制限外課税之割を件通票

貴縣雄勝郡川連村標記、件、四月二十
三日社収店乙第一四二二号、以下、稲葉

四一號

庭町外三ヶ村水利工功組合、町村組合ナル
旨、市町各々相成候處付、同組合規程
第九條第一号、規程決定、町村割第一
百三十一條ニ依り、以下、相違、更正
セシナラレ度

参照

第九條 組合令ニ於テ、議決スル中事件、
概目左ノ如シ
一、規約ニ關スル

初期
昭和十一年

丙

地方七
五
五
十

地方

市町村課長 審
添田

主任 屬 今野 菊治

回答案 (電信)

年月日

地方局長

長崎縣知事

(市會議員選舉ニ関スル罰則ノ件) 回答

市會議員選舉ニ関スル罰則ノ件 一項ハ前段
市會議員選舉ニ関スル罰則ノ件 一項ハ前段
二項ハ後段ノ通ト存ス

原
の
二
新

備考

本件ニ関シテハ従前決定セシ實例有リ

衆議院議員選舉罰則第一百條ハ当選者カ自己ノ当選ニ
 関シ不正行為アリタルトキハ勿論モ其ノ選舉ニシテ自己ノ当
 選ヲ得タルニ一選舉ナル場合ニ於テハ其ノ他人ノ為ニ対シタルトキ
 ト魚モ之ヲ排除スルノ法意アリ何トシテハ若シ單ニ自己ノ當選ニ
 関シ不正行為ヲ為セル者ヲ排除スルノ意ナラハ當選人其ノ
 當選ニ関シト規定スヘキニ法ハ廣ク其ノ選舉ニ関シト規定セ
 ルヲ以テナリ

市制第四十條ニ依リ本條カ市會議員選舉等ニ準用
 セラレノ結果市制ニハ級別ヲ認ムルハ故ニ本條ノ其ノ選舉
 トハ單ニ級別ノ範圍ニ止レンヤ或ハ選舉ノ全部ニ涉ルヤノ問題ニ
 對シテハ左ノ二点ヲ後説ツ所ニ

イ) 市町村別ノ級別ハ賦産又ハ納税額ノ多寡ニ依リテ選舉

人ニ階級ヲ設ケ其ノ額多キ者ニハ少キ者ヲ多クノ選舉権
 ヲ與ヘラ市町村ノ實情ニ應ジセシムルニ爲メ設テタル規定ニシテ之カ爲
 ニ凡ラノ場合ニ各級全ク相獨立シタル數クノ選舉トシテ存
 セシムルコトヲ認メタルモニアラス各級選舉ト云フモ孰レモ市
 町村會議員選舉ノ各部分ナリ即チ選舉トハ不可分ナ
 ルト原則ニシテ各級ハ常ニ選舉ノ單位ヲナスモノニ非ス之
 カ單位ヲ爲ス場合ハ例外ノトキナレハ法規ノ明定アルトキ
 ニ限リ例外ハ明文ノ範圍ヲ越シテ類推ヲ許サス

市制(町村制又全シ)上罰則第一百條準用ノ際ニ於ケル各
 級別獨立ノ規定ナレバ本場合ノ其ノ選舉トハ各級別ノ
 意ニ非スト解ス

三) 罰則第一百條ハ已述ノ如ク廣ク凡テ選舉ニ関スル不正
 行為ヲ爲シクン者選舉者ヲ排除スル旨ヲ示シ規定アルコト

ハ疑ナキ所ニシテ衆議院議員選舉ニハ級別等ノ定ナキガ故
單ニ其ノ選舉ト規定スルノミテ全部盡シ規定ノ趣旨貫徹
シ得テ不都合ナシ市町村制カ無条件ニシテ準用スル所見
ルモ其ノ選舉トハ企一告示ノ下ニ行ハレタル選舉ナラハ該選
舉全部ヲ指スモノニシテ單ニ級別ノ範圍ニ止ムニキ精神
非スト解スルヲ相違ナリトス即チ不正行為アリレ選舉者ア
ラハ其ノ行為ノ自己ノ當選ノ為ト他人ノ為タルト又級別
ノ如何ヲ問ハス之ヲ排除シテ其補充手續ヲ別明ナラシメ
ントスルニアリ若シ然ラストセハ準用ノ際級別ニ準相当地規
定ヲ設クンノ要アリ

大正七年三月
十五日岡山縣知
事二田谷ノ郎
決定シテ八理由

本件ハ町村會議員ノ失職カ其辭職ニ因ルモノナリヤ將夕
判決確定ニ基テ選舉無効ニ因ルモノナリヤテ決ス
此場合ニ於ケル者選舉無効ハ選舉法違反及ノ判決確定シテ
ハトキニ始メテ發生スルモノニシテ犯罪事實ノ存在スルトキニ發生
スルモノニ非ス從テ選舉無効ノ原因タル判決確定前ニ為
シタル議員ノ辭職ハ有効ナラズ故ニ判第十七條ニ依リ神決選
舉ヲ行フヘキモノト認ム

地第百六十一號

大正七年五月七日

長崎縣知事 島田剛太郎

地方局長 添田敬一殿

市會議員選舉ニ関スル罰則ノ件

左記事項ニ関シ聊カ疑義相生シテ付御意見承知致度
此段及照會奉也 追而至急ヲ要シテ急電報ヲ以テ内閣
報相煩レ度特ニ御依頼申上

一 市制第四十條ニ依リ衆議院議員選舉ニ関スル罰則
第一百條ヲ準用スルニ當リ同條ニ所謂「其選舉」トハ
市會議員選舉ヲ不可分トシ一括シテ之ヲ「其ノ選舉」ト

ト解スヘキカ或ハ又一級二級三級ヲ区分シ得ヘキトシ各級
毎ニ之ヲ其ノ選舉ト解スヘキヤ

二 市會議員ニシテ選舉ノ罰則ニ觸レテ裁判中他
ノ事故ニ依リ辭任シタル者其後判決確定シ刑ニ処セラレ
タル場合ニ於テハ其ノ辭任ハ無効トシ市制第三十七條ニ依リ
市長ハ直ニ當選者ヲ定ムヘキ儀ナルカ或ハ其ノ辭任ハ依
然有効ノモノトシ市制第三十條ニ依リ補欠選舉ヲ施行
シ得ヘキモノナルカ

四三

五改七
五
五

地方
十五

市町村課長
次田

属今野業治

主税局長
國税課長
勝

愛媛縣 田谷案

年月日

愛媛縣知事 宛

地方局長
税局長

裏面あり

所得税附加税賦課令、件四答
本月十日庶務第二一六五号ヲ以テ標記、件御
照會相成候処、四十四年勅令第二百四十一号
第一条第四項ハ、改正四年勅令第八十二号
ヲ以テ改正セラレタルモノナレハ、其ノ以前、事實
ニ對シテハ適用ナキヲ以テ、曩、通牒ニ依リ
本税額ヲ定ムルハキ、賦課ト御了知相成度

冬照 勅令第二百四十一号第一条第四項 府縣ニ於テ教
府縣ニ該ル營業者又ハ其ノ收入ニ對シ營業者税附加
税又ハ所得税附加税賦課、貴令ヲ定ムルモノアルトキハ
其ノ貴令ニ依ル本税額ヲ以テ、其ノ府縣ニ於ケル本税
額ト看做ス

庚第二六五号

大正七年五月十日

豊媛縣知事若林資藏

内務省地方局長添田敬一郎殿

大藏省主税局長松本重威殿

所得税附加税賦課法合ニ関シ照會

本月二十三日御省五段地第四八號ヲ以テ東洋紡績株式會社ニ對スル所得税附加税賦課法合ニ伴御通牒ノ處右會社ニ府縣制第百八條該當者ニシテ自大正三年六月

至今年 事業年度、所得税ニ容奉八月
關係各府縣ノ協議一致ニタルモノニ有之
從テ四十四年勅令第百四十一号第一條第
四号ニ依リ府縣ノ協議ニタル法合ニ依
ル所得税ヲ以テ本縣ノ本税トシ附加税
ヲ算出スヘキモノト存候處今更ニ之ヲ法
合通牒相成候ニ就テハ何レノ法合ニ依
リ所得税ノ本縣ノ本税トシテ附加税ヲ算
出スヘキヤ聊カ疑義相成候ニ付何分ノ候
事由示相成度ニ照會候也

何

乙

大梨地 一四七

七

地方

十九

番

三九

市町村課長 次田

長押 参事官

潮蘇苗班切

通牒案

年月日

山縣縣知事 地方局長 (親長)

上申書ニ関スル件ニ付通牒

大正六年十一月九日付親地收第 八五號 印

第四四號

答標記ノ件ハ貴官カ裁判所ニ爲托ニ應シテ
 一件書類ヲ書證トシテ提出セラルルニ依リ
 可到延ニ於テ原告ニ関テシタル趣ニ有之候
 所斯ル書類ハ民事訴訟法上貴官ニ送
 付ノ義務無之(民事三三六條、三四三條、三四六條)從
 ツテ事務秘密ヲ要ス(キ事項ニ涉ル以上送
 付方拒絶スヘキ筋ナリシラ然ラサリシハ甚ク
 遺憾ニ有之將來爲ト御注意相成度

理由
 民事訴訟法ニ於テ官廳ノ
 認事ノ手續ニ於テ送付
 送付ノ義務ニ場合ハ法律
 ニ明定セラレ(民事訴訟法三三六、三四三)本件ノ如キ送付
 ノ義務ヲ以テ斯ル書類ノ送付方ハ裁
 判所ノ屬托ヲ拒絶スルハ其旨アリト存矣

裏面白紙

裏面白紙

明治九年 氏第 二五五四號

客年十二月十五日附梨地第一四七号より
御照會相成候山梨縣東山梨郡諏訪村
竹居沼ノ村長不認可票議書ノ同人ノ
覽スルニ至リタル事情ニ関スル件ハ甲府地方
裁判所長ニ及照會候起別紙寫ノ通
答有之候向右ニ申テ知相成度此致
回候候也

大正七年一月七日

山梨県立学博士 鈴木喜三郎

内務官立学博士 水野鍊太郎殿

分

本月二十日氏第百九十三号ヲ以テ市生會相候
 大正六年(四)第六号新証事件ニ關シテ居
 名ノル者ニ取寄書類ニ見付セシメタル事情
 別書方中申候、御了系付候事ト該事
 件係別事及一件記録ニ付取調候処原
 告竹居信波告相澤大久小川静澄部向、
 甲府地方裁判所大正六年(四)第六号名譽
 回復對新証事件請事事件、原告、居村
 永山利親新証訪村ニ會ニ於テ同村ニ長ニ違
 誤申セラルタルニ被告等、原告ニ背德不正ノ行
 為アリトシテ山梨縣知事ニ對シ不認可ノ
 運動ヲ為シ以テ原告ノ名譽ヲ毀損シ判
 原告ニ背德横領婚婚等ノ不正行為アリ

アリトシテ甲府地方裁判所檢事局ニ虚偽ノ告
 訴ヲ提起シ且豫審及公判ニ於テ訊問サル
 ルニ當リ虚偽ノ陳述ヲ為シ以テ原告ヲシ
 テ不當ノ処刑ヲ受クルニ至ラシメタルモノナルヲ
 以テ之ニ因リテ生シタル損害ノ賠償トシテ名
 譽ノ回復及對新証料ノ請求ヲ為スル
 ト云フニ在リテ本年六月八日開庭、際之ニ對
 スル證據方名トシテ山梨縣廳ノ保藏ニ係
 ル紙表、取寄書類ヲ取寄セラルレト申
 請リ為シタルニ因リ當裁判所ニ執レモ必
 要ナル書證ノ申出アリト認メ許可ノ決定ヲ
 與ヘタルニ縣廳ニ於テハ當裁判所ノ囑托ニ
 応ジ御照會、如キ文書ヲ送付シ来リタル

ヲ以テ次回期日タル大正六年七月四日ノ公判ニ
於テ之ヲ原告ニ開示シタル次第ニ有之候條
此致及御回答候也

大正六年十二月二十五日

甲府地方裁判所長東龜五郎

司法省法務局長法部事務官直道殿

(別紙)

書類、表示

一 原告カ大正四年一月二十日 諏訪村長ニ當送

レタルニ對シ被告相澤大久、其不認可運
動ヲ為ス為メ多数ノ調印ヲ集メ大正四年二月
十三日山梨縣廳ニ提出セシ陳情書及四月中
同人ヨリテ居出レタル上申書ノ類

二 被告小川靜治郎、大正四年二月十二日附
山梨縣知事及縣書局ニ提出セシ原告
諏訪村長書送不認可、原告見書及報告
書同年四月、日次令上縣廳ニ提出セシ
上申書又ハ報告書ノ類
三 以上、外原告諏訪村長書送ニ對スル不認
可ノ關係アル一切ノ書類

以上

乙

製一四七
六十一
地方

渡送

三五
市町村課長 次田

至押

照會按

年月日

内務次官

司法次官宛

上申書ニ関スル申喚會

山梨縣東山梨郡諏訪村野居治ヨリ別紙
通申有之候也右申書ニ添付セル証

概字「山梨縣」實議書ニシテ秘密ニ爲スル
之ノ有之上申人等ニ見覺セシムヘキモノニ盡ク之
ヲ以テ其理由ヲ知事ニ照會セシム右書類
「量表」甲府地方裁判所、嘱託ニ依リ申
送中ニ屬シ「實議」論「騰字」セシメト「意」
ニ「裁」到所ニ於テ「實議」セシメト「認」
「回」答有之候ニ付「實議」調査ノ上御「回」答相
成度「為」斯「如」キ「秘密書類」ノ「裁」到所
於テ「實議」騰字セシムカ「如」キ「要」當ナラズ
「被」存候得共「貴」官ノ「神」素見共併而「兼
知」付候
進而「實議」上申書「小」文「請」回「答」際「返」
申

乙

立地三五
七
地方

市町村課長者

小橋

前田

本件は、大正五年六月
二十日、大蔵省主税
課長より、本案ニ
關し、既し、内閣府
口頭ニテ、市町村
課長に申渡され、
同地方官長ニ
經同長兼進行
ヲ中止スルニ
致ス

四五號

送森

大蔵大臣

次官

主税局長

國稅課長

假別割條例及制限外課稅
許可ニ關スル件

市町村條例
四月十三日付
可

假別割(地租附加稅ヲ
係課セサルニ
關スルモノニ付テハ、)條例ニシテ其理由ノ永
續スルモノニ付テハ、市町村ノ例ニ依リ他ノ市
區町村ニ對シテモ期限ヲ付セスシテ許可
スルニトシ、課率カ制限外トシ場合ニ依
リ、課率ニ關シテハ、市區ニ在リテハ、
毎年度別ニ報告セシムル豫算ニ就テ其
ノ當否ヲ審査シ、町村ニ在リテハ、毎年度
歳入出豫算一覽表ヲ提出セシムルニトシ、
其旨通牒シ付シ、処分スルニトシ、致度相伺候

所身部
✓七九三三

丙

廣七七一

地方 三十三

添田

市町村課長室

衛生局長 杉山

主税局長 杉本

國税課長 藤

通牒案

年月日 西局長

廣島縣知事 苑

四六

火葬場使用料ノ件ニ付通牒
四月十三日縣第一〇五四号ヲ以テ廣島縣西條町標記條
例改正ノ件ハ報告相成テ其処貧困ニシテ定額ノ料金ヲ納
付シ難キ事情アリ者ニ對シ使用料ヲ減免シ得ル規定ヲ
設クハ格別貧富ノ程度ニ依リ使用料ニ差等ヲ設クハ
如キハ適當ニ無シテ其条將來注意相成度

141

丙

地七

五九

二十

主任

小島 屬

地方 市町村課長 台

並後

同答案

年月日

三重縣知事宛

地方局長

國ノ事業ニ對スル寄附ノ件ニ付回答

四月三十日地第一九八三號ヲ以テ標記ノ件ニ関シ市照會
柳成秀處請願ニ依リ通信施設ヲ為シ要スル創設費

第四七

及維持費ノ負担金ニ付テハ市見込ノ通ナシモ通信事業ニ
對シ寄附トシテ支出スルモノニ付テハ大正六年十月二十二日
務省發地第二四号通牒ニ基キ市處理可相成義ニ
有ニテ

電話不講

通信者通信局回答要領

江表

一、請願ニ依リ通信施設ヲ為ス場合ニ寄附サン

ニ請願ニ依リ通信施設ト然ラズモトシ併セ行フ場

合ニモ寄附ヲ受クルトアリ

三、通信者ニ於テ財源ニ寄附金ヲ含ム通信施設ノ豫算

ヲ編成スルトキハ單ニ箇所教ヲ見積リ其箇所ヲ具体

的ニ定メサレハ寄附金モ個人會社又ハ市町村等ノ何レヨ

リ受クルヤ不問ナラ以テ豫算編成前ニ協議ヲ為スコト

不能ナリ依テ豫算施行ニ際シ工事箇所決定シ市

町村ヲ寄附ヲ受クルト申出タル際協議スルコトトス

(地方局へ打合傍)

地第一九八三號

大正七年四月三十日

三重縣知事 長野幹

内務省地方局長 添田敬一郎 殿

國ノ事業、對スル地方公共團體ノ寄附ニ関シ内申方、
件各年十月三十一日内務省發地第三四号ヲ以テ通
牒ノ次第モ有之候処大正四年勅令第二百十五號及全
年通牒者令第五十五號ニ依ル請願通信施設ニ関
スル創設費及維持費負擔ノ為メ市町村費ヨリ之ヲ支
出寄附スル如キ右通牒ニ合マラズ義ト存考ヘ共為
念一應及沙打合候条何令、内圖報相燭也

司法部
刑部第七二号

大正七年六月五日

司法省法務局長
博士 藤田 敬一 郎 殿
内務省地方局長 添田 敬一 郎 殿

犯罪人名通知ニ関スル様式取扱方件
通牒

大正六年四月十八日附刑部第一五八号ヲ以テ
裁判所検査局ヨリ犯人ノ所轄地方籍地役場
へ通知スル犯罪人名ニ関スル訓令ノ件ニ付
及通牒置候知今般右ニ関シ別紙ノ通
検査局ニ通牒致置候條此致及通知牒
付也

四八號

司法省刑部第七二號

大正七年六月五日

司法省事務局長淺野博士豊島直通
檢事局御中

犯罪人名通知ニ関スル格式取扱方
ノ件通牒

大正六年四月十二日附刑部第一四一号ノ以テ
犯罪人名通知ニ関スル格式訓令相成候
處右ノ實際ノ保存並取扱上不便歟カ
ラサルヤ、趣ニ有之候件ヲ、自今別紙格式
ニ依リ御取扱相成差支無之依命此致
及通牒候也

進ラ用紙ニ來年度ヨリ本省ニ於テ印刷配
付ノ見込ニ候条右様御兼知相成度
爲念申候

(不用使=横ノ裁半紙半)式様一第

氏本名	名假名	生年月日	職業称	住居地	出生地	本籍地	罪名	刑期	犯赦	常	席	刑日	大正	年	月	日	確定日	大正	年	月	日	執行場所
<p>右既決犯罪事件及通知候也 但記載各箇中住居傳=照之相違、 原付之候、其旨御通報相成度候 大正 年 月 日 何裁判所檢事向</p>																						

(不用使=横ノ裁半紙半)式様二第

氏本名	名假名	生年月日	職業称	住居地	出生地	本籍地	罪名	刑期	犯赦	常	席	刑日	大正	年	月	日	確定日	大正	年	月	日	執行場所
<p>右既決犯罪事件及通知候也 大正 年 月 日 何裁判所檢事向</p>																						

新

七

五二七

衛生

山

六六

係使謀長 藤

乙

土木局長 田
地方局長 田

佐上
山田

通牒案

内務省第

年月日

衛生局長
地方局長
長崎縣知事宛

第四九

小倉村水道給水條例
本月六日附土第一二六五號御進達、標記
水道年設ノ件本日指令相成候處其ノ
給水條例ニ関シテハ別ニ許可リ要シ候ニ付
達ニ具、手續リ履行スル稟念、為御
示達相成度

群地 四五
七五
地方 七七
府縣課長 關
市町村課長 山田
上原 局
六六

府縣課長 關
市町村課長 山田

案
年月日
局長
群馬縣知事 宛

由務部長 郡市役所 巡視 報告
閣下 照會

四月三十日 第一八〇一号 以少 標記ノ件

第五〇號

報告相成 候 左記事項 御回報 相成度

(前略)
四 確氷部ニ於テ 一時借入金ノ 普業認
可申請ニ對スル 調査不十分ノ 趣
一時借入金ノ 町村會ニ 發案セルトスル
場合ハ 町長ニ 認可ヲ 申請セシム
ル 御取扱ニ 修裁 果シテ 然ラハ 右ノ 不可
然ノ 趣ニ 付 時機ヲ 見テ 相當 御措置
相成度

初別
三十一

七
七
七

地方

市所有課長宙

回答案

地方局長

主任屬今野菊治

長崎縣知事宛

衆議院議員選舉法第一百零一條ト市会議員

補充方法件回答

五月三十日地稅第一〇號ニ以テ標記ノ件ト申會相

成條處右ハ大正二年九月十三日內務省地第六〇二二号

ヲ以テ通條ヲ置候所村制第三十條ノ場合ト同條ニ

市制第三十七條第一項ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムル義ト

存候条ト了テ相成候

五一

地親第一〇號

大正七年五月三十一日

長崎縣知事 島田剛太郎

内務省地方局長 添田敬一郎 殿

衆議院議員選舉法第百一条ト市會議員

補充方法

衆議院議員選舉法第百一条ニ依リ刑ニ處セラレタルノ結果當選無効トナラシム市會議員アトキハ市制第三十七條第一項ニ依リ更ニ當選者ヲ定ム(キモト解)セラレ候處之ニ對シ左ノ如キ諸説有之孰レニ據ル(キヤ)一應市議承知致度此致及照會候也

一、刑ニ處セラレ依リテ當選無効ト為リタル議員アトキハ其ノ者ハ初メテ當選者ト得ザル者ナル故ニ市制第三十七條第三項ニ所謂「議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサル場合」ニ該當シ從テ本項ニ依リ補缺選舉ヲ執行スヘキモノトス

二、制第三十七條第一項又ハ第三項ニ據ラントスル説孰レモ此場合ニ制第三十六條末項ト同様ノ規定ニ結果當選無効ト確定シタル議員ノ參與セシ從前ノ會議ノ效果ニ變動ヲ及スコトアルヘク尚判決確定前辭任ヲ為シ之ニ對シ補缺選舉ヲ為シタル時ハ其ノ辭任又ハ補缺議員ノ當選ノ効果ナキニ至ルヘク况ヤ本條ハ文章ノ起テ早連絡ノ上ヨリ見ルモ單ニ前條ニ依リ當選無効ノ場合ニ限ルヘク本項ノ如キ場合ハ當選無効ト確定シタル時ヨリ議員ノ職ヲ失

フノ趣旨ト解シ以テ制第三十條ニ依リ議員ノ補充ヲ為スヘキ
モト爲サザルヲ得ズ

三制第三十七條ハ前條ニ依リ當選無効ト確定シタル場合ノ
ニ其ノ適要アリ刑ニ處セラレ依リテ當選無効トナリタル者ハ場
合之カ補充方法ニキリテハ市制上何等ノ規定ナキヲ以テ此ノ
理由ニ依リテ補充ニ為スヘキ手段ナシ然レトモ衆議院議
員選舉法第一百條ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ同法第九
二條ニ依リ當然其ノ選舉權被選舉權ヲ停止セラレ
ノ結果判決確定ノ時ニ議員タルノ職ヲ失ヒ從テ議員ニ
缺員ヲ生スルガ故ニ此場合ノ補充方法ハ制第三十條ニ
依ルヘキモノトス

乙

立地 九一七

地方 四

深田

市町村課長 出田 六西

小橋

内務省立地第 許可案

福岡縣知事

大正七年五月二日 度第百九十九号 案請
福岡縣宗像郡津屋崎町及同郡勝
浦村境界変更一件並之保ノ財產
処分件 許可ス

年月日

大臣

通牒 案

局長

福岡縣知事 先

町村境界変更並財產処分件

二件通牒

標記ノ件本日許可相成候如町會及村會
ノ答申書寫ニ依リハ町村長ニ於テ意見
答申ニ付議案ヲ裁キセルニ右ハ通牒
措置ニ無之候条具旨指示達將來
注意セシメラレ度

五二

第...
...

而

七
九
六
七
六
五
尾戸属

市町村課長 山田

通牒案

年月日 廣島縣知事 宛

地方局長

市決算、件通牒

豊縣福山市 大正五年度決算御報
告相成候処一般會計歳入臨時部

五三

第一款 第一項 第二目 豫知スヘカウザル
入中 傳染病予防費補助金 三百十九
日七十二美リ収入シアルモ、如キハ入具
、性質上予知スヘカウザルモノニ意之ニ付、
来、縣補助金、一、款ヲ設テ、救正理スヘキ
注意シ、スヘシ度

丙

七北

地六三
方十五

市町村課長 富

小島六属

通牒案

年月日 地方局長

福井縣知事宛

市線算、件ニ付通牒

貴縣福井市大正七年年度標記ノ件
御回答次第モ有之候也 望年度ノ

四五四號

歳入シ繰上ケ充用スルシ得ルハ歳入リ以
テ歳出ニ充ツルニ足ラサル場合ニ限リ
以テ假令ニ繰越ノ事業アル場合トモ
其ノ年度ノ歳入ニ繰上支出ニ充テ尚
不足スル額ニ限リ繰上充用シ許シ
義ニ付得未注意セシメラレ度

而

倉地

二六

十一

地方

添田

市町村課長 山田

六廿

尾戸屬

通牒 案

年月日

香川縣知事 宛

地方局長

市決算ニ関スル件 照會

貴縣九尾市大正五年度歳入出決算
御決算報告相成候知向特別會計

五五

小齒子後基本財産書續全決算歳入
第七款回収金八十日ヲ收入シアルニ已ニ
基本財産タル勸業債券當籤回収金
新ナル財産ニアルヲ以テ右現金ハ市
長ニ於テ收入ニシテ豫算ニ編入シ支ヲ
為スヘキ筋ノモノニ無之ト存候条將來
右債取扱ハシメラレ度

傳

丙

七
六
八
地方
十三
潘

六
五
市町村課長
山田

照會案
年月日
高知縣知事
地方局長

貴縣安藝郡畑山村標記件並照會
成候為之地租附加税ハ山林ヲ除キタル他ノ
地目ニハ此項名ニ在リ可村制第百四條ニ

該者為ニ場合ニテラサレハ有レ得ル義・有レ之
候亦山林ニ對シテモ地租附加税ヲ免レシ
者必要アラハ制限外課税ヲ為シ得ル費
用ヲ限度トシテ特ニ税ヲ免レシ標記指
示相成度也

五六

157

地七五四
七六四十九
地方 係田
市町村課長 當
永井 屬
六五二

通牒 素
年月日
福島縣知事 宛
局長

豫算、件、通牒
由貝縣、福島市、標記、件、答、日、三、日
地、第、一、四、六、号、ヲ、以、テ、回、答、相、成、候、知、第、一
項、ハ、公、園、使、用、料、條、例、ノ、設、ケ、ア、ラ、サ、ル、ノ

故、テ、以、テ、民、情、ト、シ、テ、依、リ、貸、付、料、ト
シ、テ、徵、收、ス、ル、カ、如、キ、ハ、適、当、ニ、無、之、候、条、達
ニ、更、メ、レ、シ、レ、度。

五七

七地第ニ四六ニ号

又正七年五月三十一日

福島縣
内務省地方官長殿

知事

前略

第一項ノ園使用料ヲ削除シタルハ園使
用料條例ノ設ケキラ以テ使用料及
手教料ノ款ニ計上スルハ適當ナラス
ト認メ本年度ニ於テ之ヲ削除シ更ニ
雑収入ニ編入シタルハ園地ノ一部ヲ契
約シ以テ貸付シ貸地料トシテ収入セン
トスル義ニ有之候

後略

裏面白紙

丙

神田 七

地方 六
廿四

市町村課長 田

尾戸 属
六廿四

回答案

年月日

地方 局長

神奈川縣知事 宛

市役所及町村役場、執務時間

二箇之件回答

六月二十三日午内地收第元六。第 御喚

五八

會相成候標記、件別、差支、費之卜
存候

年内地収第ニ九六〇号

大正七年六月二十三日

油倉野村町事有吉忠一
係田内務省地方局長殿

市役所及町村役場ノ執務時間ニ

関スル事

市役所町村役場ノ執務時間及休暇日ニ
就テハ明治二十六年中經同ノ上事務ノ都合
ニ依リ市役所ニ於テハ本官ノ町村役場ニ於
テハ郡長ノ認可ヲ受ケ一定ノ時間ヲ短
縮スルニテ單ニ出頭退散ノ時刻ノミヲ
變更スルニトシ得んノ外總テ市役所ハ當

ノ廳ノ町村役場ハ郡役所ノ執務時間及休
暇日ニ依ルニトシ規定スル未施行ニ來リ候
処今般横濱市ニ於テ市會ノ議決リ以テ
毎三七月一日ヲ開港紀念日ト定メ此ノ
日ヲ休暇日ノ内ニ加ヘテ度旨認可申
請有之候ニ付テハ今此ノ種ノ紀念日ハ殊
特ニ當該市町村ノ休暇日ト定ムルニ得ん
様改定致度見込有之候処大正元年勅
令第十九号(休暇日ニ関スル件)ノ規定ニ照
シ差支無之儀ニ付或為念請書見奉知
致度

第五九號

地七
地四一
五三
地方

添田

六五
市町村長
出

大藏大臣
官

主税局長
官
主税課長
勝

許可案

通牒案

裏面あり

年月日 地方官 役 局長
岐阜縣知事 宛

電氣使用新條條新設、件 存 係 余

貴縣 惠 那 郡 加 子 母 村 標 記 件 今 日 許 可
相 成 候 也 第 十 一 條 規 定 セル 料 金 等 ノ 由 候
用 料 之 属 エル モ ノ 料 金 ノ 範 圍 程 度 二 條 條
ヲ 以 テ 規 定 スル 事 ト シ 妥 シ 且 ツ 内 務 大 藏 兩 大
臣 ノ 許 可 シ 奉 リ 上 リ ト 被 存 候 条 別 三 上 ノ 定
メ 其 手 續 リ 為 ス 事 ト 認 ノ 許 可 相 成 候 事 義
仕 其 旨 諒 亦 達 相 成 度

分府
分府
分府

六〇

七
七
七

二六

任
屬
今
野
菊
乃

地方
市町村課長
田

神社局長
坂本
田

年月日
各府縣知事
地方局長

神社經費補助
關
通牒

本月十九日
社局長
通牒
第一〇六號
以テ標記ノ件
地方神社

四八號
八丙
務者
三能社
第二七號
ノ誤記
有之候
条

由了知相成

學第一三九六號

大正七年六月三十日

驛馬縣

内務省神社局中

神社經費補助に關スル通牒ノ件ニ付照會
 本月十九日付申有癸地第一〇五号標記申通牒ノ旨該
 件ノ存卷月三十三日申通牒ノ番號ハ内務省三熊社
 第二七號ニ有之該當致リ候條右第二七號ノ誤記ニ
 無之ヤ申有該相成度

乙

七五五三九
地方 添田

六九
市町村課長

小橋

参事官

山縣 瀬音長谷川

神社局長

増本

田沢

文書課長

年 月 日

地方局長
神社局長

各府縣知事宛

神社經費補助関スル件 依命通牒

五月三十一日發局第四十八號ヲ以テ標記ノ件 神社局

長ヲ通牒相成テ該通牒中 石魂社ハ明記無
之候得共其ノ必要ナル經費ノ一部ヲ補助スルハ差支
ナキ義ト御案知相成度

文書完結伺

鳥取縣知事照會神社費(郷社)補助ノ件

徳島縣知事照會神社費ヲ招魂社祭典費寄附ノ件

秋田縣知事照會神社費ニ補助又ハ寄附ノ件

右三件ハ神社局長通牒及地方局長通牒依テ自

然了解シ別ニ通牒ヲ要セザルコト存案存完結可然乎

相向矣

三社 七
二五 二
六 十二 七
神社 十四

塚本

二年 五三
第二課 野島

参事官 海山縣前野島守
地方局長 雷 雷

内務省社第 通牒 案
年 月 日
各地方長官宛

神社局長

神社經費補助ニ関スル件 依命通牒

府縣社以下神社經費補助ニ関シテハ明治四十三年十二
月社第一六九四號同四十五年四月局第一六號通
牒及同日第一七號通牒ノ次第モ有之ヲ神無幣帛料
ヲ供進スル地方團體ニ於テ各其ノ神社ニ對シ必要ナル經費
ノ一部ヲ補助スルヲ得ルコトニ決定相成居候處公益上必
要ト認ムニ干場合地方團體ハ神無幣帛料供進ニ関
係ナク無格社ヲ除キ府縣社以下神社ニ對シ其ノ必要ナ
ル經費ノ一部ヲ補助スルモ差支無之コトニ決定相成候條
御諒知相成度

追テ右經費補助ハ神社ノ經理上不得已場合限
ル義ニ有之徒ニ之ニシテモ依頼スルカ如キコトナキ致度尚ホ
經費補助ハ其ノ之ヲ為ス地方團體ノ区域内ニアルカ又ハ

其ノ区域内ニ多敷氏子崇敬者ヲ有スル神社ニ限リ而シテ誤神社ニ對シテハ會計收支ノ監督上特ニ注意セラルル様致度

理由

神社ノ制度漸次整備セラルニ拘ラス府縣社以下
神社ニアリテハ經費ニ乏シキ為ノ其ノ實ノ際カラサルハ甚
ク遺憾多キコトナス抑モ府縣社以下神社ハ亦
ニ於テ國家ノ宗祀タルト同時ニ他ノ一方ニ於テ其ノ隆
替カ地方公共團體ノ公益ニ大ナル關係アルハ更ニ言
ヲ俟タス隨テ府縣郡市町村ハ其ノ關係神社ニ
對シ寄附又ハ補助ヲ為スノ自由アリト謂フヘシ然レニ
現今府縣社以テ神社ニ對シ此ノ經費ノ補助ヲ為スコ
トヲ得ルハ神饌幣帛料ヲ供進スル地方公共團體カ
各其ノ神社ニ對シ為レ得ル限ラレ其ノ範圍狹少ニ失
スルノ嫌アリ之ヲ以テ從來ノ地方公共團體ニ於テ神饌
幣帛料供進ニ關係ナク經費ヲ補助セシメラレシコトヲ申

出ツルモノ甚カラス依テ曩ニ大正三年其ノ補助ノ範
圍ヲ廣メ之ヲ無格社ニマテ及ホレ神饌幣帛料供
進ノ關係如何ニ拘ラス市町村カ其ノ公益上必要
アリト認めタルトキハ神社ノ經費ヲ補助スルヲ得シムルヲ
可トシ之ヲ立案回議スル所アリシニ當時次官カ神社
ノ整理完成シ之ニ對スル諸制度充分確立スル迄
現状維持ヲ適當トストノ決定ニ依リテ此ノ議行ハル
ニ至ラザリキ
惟フニ神社ノ整理ハ之ヲ急遽漸行セラルヘキモノ
ニアラス隨テ全國ニ亘ル神社整理ノ完成期ハ今
日得テ之ヲ豫想スル能ハサルヘシ然ルニ府縣社以下
神社經費ノ缺乏ヲ告ク甚ク急ニシテ到底之ヲ神
社整理完成後ニ待フコト能ハサルナリ

仍テ從來ノ經費補助ノ範圍ヲ廣メ其ノ數甚ク多ク且概テ
由緒ニ乏シク將來整理ノ餘地最モ多キ無格社ヲ除キ府
縣社以下神社ニ對シ各地方公共團體ハ神饌幣帛
料供進ニ關係ス其ノ必要ナル經費ノ一部ヲ補助シ得ル
ノ途ヲ開クルノ最モ適當ト認ム

中七ノ三ノ一
十ノ三ノ三ノ三
の原ニ色
也ニカニ
ニ

通謀ニ左ノ趣旨ヲ明ニスルコトニ教度

一 神社ノ費用ハ其本質上氏子又ハ宗敬者ノ捐

資ニ依リ之ヲ支弁スルノ方針ヲ貫徹スルニ努メ

地方公共団体ノ補助ニ依頼スルノ弊ヲ生セシメ

有 干 神社ノ費用ニ直接其市町村ノ公費ニ関スル

三 市町村カ補助スルハ其市町村内ノ神社及之ニ

限ルコト

有 補 助 事 務 局 等 場 合 五 限 五 指

五 補助ヲ為スル場合支出ハ監督ノ方法ヲ講

セシムルコト

郷の地代
 九〇社
 七、七三三
 一社平均
 七〇

社格	社数	社司 人	神 社 人	職 掌 人	教 師	俸給額
府縣社	六三四	五四一	四一七	九五八	二五三、九三八	三三三、四八四
郷社	三四五一	二二三三	一〇六三	三、二九六	八八五、五六八	一八一五、二二六
村社	四五、二四八	一	八、六八二	八六八二	二、四四、四五四	二、一七六、二五六
計	四九、三三三	二、七七四	一〇、一六二	一三、九三六	三、二八三、九六〇	一三、三二四、九六六

備考
 俸給ハ全国平均額社司年二七九円社掌手二四七円ヲ以テ算出
 三ノル年額ヲ掲ク

府縣郷村社神職俸給額
 一社二社司社掌手各一人
 (有社社掌手一人ヲ要
 する陽合寺信託
 四

大正九年度 2,061,500
 〃 〃 〃 2,227,100
 〃 〃 〃 12,632,000

裏面白紙

官國幣社員數 大正六年六月末日調

府縣社以下神社社員數 大正六年六月末日調

道廳及官幣大社	官幣中社	官幣小社	國幣中社	國幣小社	別格官幣社	計	府縣社	鄉社	村社	無格社	計
道廳及官幣大社	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
官幣中社	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
官幣小社	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
國幣中社	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
國幣小社	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
別格官幣社	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
府縣社	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
鄉社	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
村社	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
無格社	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

本表、外神宮一、臺灣、樺太ニ於ケル縣社以下ハ之ヲ省ク

總計 一七、七三〇

地区	有価社	社	社	司	社	司	社	社	社	社	社	社
北海道	2	1	37	20	55							
東北	13	21	51	26	201							
東京	15	8	57	4	161							
大阪	7	14	50	26	233							
神奈川	5	26	33	4	115							
兵庫	41	8	131	26	158							
長崎	9	7	20	9	167							
新潟	10	12	22	26	283							
埼玉	9	14	13	13	371							
群馬	8	9	26	16	130							
千葉	10	4	41	16	188							
茨城	12	5	29	13	269							
栃木	8	10	30	10	192							
奈良	6	5	28	23	171							
三重	1	1	24	24	398							
愛知	17	17	37	104	244							
静岡	19	15	70	69	209							
山梨	1	1	46	12	105							
滋賀	21	11	66	8	172							
岐阜	5	7	80	46	68							
長野	15	22	47	20	229							
宮城	5	4	12	19	207							
福島	18	13	49	27	292							
岩手	2	1	19	17	158							
青森	9	4	37	14	92							
山形	19	20	64	42	285							
秋田	13	12	23	24	193							
福島	15	8	36	1	60							
石川	20	7	40	8	100							
富山	5	9	20	14	96							
取	4	3	47	17	141							
根	12	7	104	33	292							
山	16	5	64	16	397							
島	5	1	20	7	353							
山口	13	16	79	72	135							
和歌山	10	8	13	4	166							
徳島	1	2	40	17	158							
香川	8	6	57	27	58							
愛媛	30	12	101	19	229							
高知	4	5	103	18	153							
福岡	35	9	94	19	226							
大分	12	18	74	51	169							
佐賀	5	8	34	17	99							
熊本	6	4	47	5	192							
宮崎	9	6	43	37	143							
鹿児島	15	5	75	18	174							
沖縄	-	-	-	-	-							
合計	541	417	2233	1065	8682							

社司数 二七七四
 社庫数 一〇一六二
 計 三九三六
 二四七
 二七九
 七三九四
 三三九六
 三三九六

176.886
 156.598
 333.484
 962.829
 852.397
 1815.226

俵 16
 上 12
 次 16

150.919 102.999 623.007 262.561 2,144.454
 253.938 885.568

裏面白紙

借入金

	社		司		社		管	
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
北海道	480	120	300	420	96	258		
東京都	600	180	390	480	144	312		
大阪府	400	120	260	350	100	225		
神奈川	900	180	540	720	180	450		
兵庫	-	-	-	-	-	-		
長崎	-	-	-	-	-	-		
新潟	-	-	-	-	-	-		
埼玉	400	50	225	250	30	140		
群馬	750	60	105	70	30	70		
千葉	450	20	235	450	20	235		
茨城	650	80	365	600	60	330		
栃木	300	50	175	300	50	175		
奈良	150	75	116	150	75	116		
三重	1,000	250	625	1,000	150	575		
愛知	480	84	282	360	72	216		
静岡	-	-	-	-	-	-		
山梨	300	50	175	250	30	140		
滋賀	-	-	-	-	-	-		
岐阜	400	40	220	400	40	220		
長野	-	-	-	-	-	-		
宮城	-	-	-	-	-	-		
福島	-	-	-	-	-	-		
岩手	-	-	-	-	-	-		
青森	-	-	-	-	-	-		
山形	300	50	175	250	30	140		
秋田	-	-	-	-	-	-		
福島	300	50	175	300	50	175		
山梨	-	-	-	-	-	-		
長野	600	96	348	600	96	348		
新潟	300	120	210	240	180	174		
群馬	360	96	228	360	96	228		
山梨	-	-	-	-	-	-		
長野	480	108	294	360	96	228		
山梨	-	-	-	-	-	-		
徳島	-	-	-	-	-	-		
香川	-	-	-	-	-	-		
愛媛	500	120	310	450	100	275		
高知	-	-	-	-	-	-		
福岡	-	-	-	-	-	-		
大分	-	-	-	-	-	-		
佐賀	-	-	-	-	-	-		
熊本	400	30	215	400	30	215		
宮崎	-	-	-	-	-	-		
鹿児島	-	-	-	-	-	-		
沖縄	-	-	-	-	-	-		
平均	468	97	279	414	82	248		
合計	9,750	1,969	5,863	8,690	1,725	5,175		

各府縣府縣社以下神社神職俸給額一覽表（大正六年三月調）

○北海道（月俸）兼務者ハ本表ニヨラス半當ヲ支給スルコトヲ得シム

社掌	三九 _四	三〇	二五	二二	二〇	一八	一五	一二	一〇	八
社司	四〇 _四	三五	三〇	二五	二二	二〇	一八	一五	一二	一〇
一級										
二級										
三級										
四級										
五級										
六級										
七級										
八級										
九級										
十級										

備考

一級俸ヲ受ケ在職五ヶ年以上ニシテ功績顕著ナル者ハ俸給額以上ヲ給スルコトヲ得シム

○東 京（年俸）兼務者ニハ其三分一ヲ支給ス

社掌	四八〇 _四	四二〇	三六〇	三〇〇	二四〇	一八〇	一四四
社司	六〇〇 _四	四八〇	四二〇	三六〇	三〇〇	二四〇	一八〇
一級							
二級							
三級							
四級							
五級							
六級							
七級							

○京 都（年俸）兼務者ニハ相當半當ヲ支給スルコトヲ得シム

社掌	三五〇 _四	三〇〇	二五〇	二〇〇	一五〇	一二〇	一〇〇
社司	四〇〇 _四	三五〇	三〇〇	二五〇	二〇〇	一五〇	一二〇
一級							
二級							
三級							
四級							
五級							
六級							
七級							

○大 阪（月俸）兼務者ニ對スル規定ナシ

社掌	六〇 _四	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二二	二〇	一五
社司	七五 _四	六〇	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一五
一級										
二級										
三級										
四級										
五級										
六級										
七級										
八級										
九級										
十級										

備考

一級俸ヲ受ケ在職五ヶ年以上ニシテ功績顕著ナル者ハ俸給額以上ヲ給スルコトヲ得シム

○奇 玉（年俸）

○ 群 馬 (年俸) 兼務者ニ對スル規定ナレ

社本務者	一級	四〇〇	二級	三五〇	三級	三〇〇	四級	二五〇	五級	二〇〇	六級	一五〇	七級	一〇〇	八級	八〇	九級	六〇	十級	五〇
司兼務者		一〇〇		八〇		六〇		五〇		四〇		三〇		二〇		一〇		三〇		二〇
社本務者		二五〇		二〇〇		一五〇		一〇〇		八〇		七〇		六〇		五〇		四〇		三〇
掌書兼務者		七〇		六〇		五〇		四〇		三五		三〇		二五		二〇		一五		一〇

無格社	社	司	社	掌書
	一級	同九百以上	同九百以上	同九百以上
	二級	同五百以上	同五百以上	同五百以上
	三級	同五百以上	同五百以上	同五百以上
	四級	同五百以上	同五百以上	同五百以上
	五級	同五百以上	同五百以上	同五百以上
	六級	同五百以上	同五百以上	同五百以上
	七級	同五百以上	同五百以上	同五百以上
	八級	同五百以上	同五百以上	同五百以上
	九級	同五百以上	同五百以上	同五百以上
	十級	同五百以上	同五百以上	同五百以上

○ 千葉 (年俸)

兼務者	一級	四〇〇	二級	三五〇	三級	三〇〇	四級	二五〇	五級	二〇〇	六級	一五〇	七級	一〇〇	八級	七〇	九級	五〇	十級	三〇
本務者		四〇〇		三五〇		二五〇		二〇〇		一五〇		一〇〇		七〇		五〇		三〇		二〇
兼務者		一〇〇		八〇		七〇		六〇		五〇		四〇		三〇		二〇		一〇		五

備考

一級俸ヲ受ケ在職五ヶ年以上ニシテ功績顕著ナル者ニハ社司而
 田以内、社掌五十四以内ヲ加俸スルコトヲ得ル

○ 茨城 (年俸) 兼務者ニハ本俸ノ二分ノ一以内

社掌	一級	六〇〇	二級	五五〇	三級	五〇〇	四級	四五〇	五級	四〇〇	六級	三五〇	七級	三〇〇	八級	二五〇	九級	二〇〇	十級	一五〇
社司		六〇〇		五五〇		五〇〇		四五〇		四〇〇		三五〇		三〇〇		二五〇		二〇〇		一五〇
社掌		六〇〇		五五〇		五〇〇		四五〇		四〇〇		三五〇		三〇〇		二五〇		二〇〇		一五〇
社掌		六〇〇		五五〇		五〇〇		四五〇		四〇〇		三五〇		三〇〇		二五〇		二〇〇		一五〇

備考

一級俸ヲ受ケ在職滿十ヶ年以上ニシテ功績顕著ナル者ハ特別

俸ヲ給スルコトヲ得レム

特別俸		一級	二級
社司	八〇〇 <small>四</small>	七〇〇 <small>四</small>	六五〇
社掌	七〇〇 <small>四</small>		

〇栃木(年俸)

兼務社司	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇
事務社司	三〇〇 <small>四</small>	二五〇	二〇〇	一五〇	一〇〇	一〇〇	八〇	七〇	六〇	五〇
事務社掌										
兼務社掌										

備考

一級俸ヲ受ケ在職五ヶ年以上ニシテ功績顯著ナル者社司ハ百田以内社掌ハ五十田以内ヲ加俸スルコトヲ得レム

〇奈良(年俸)

本務者	一五〇田以上	七五、以上	七五、以上
兼務者	カ〇田以上	二五、以上	一五、以上
	縣郷社 社司	縣郷村社 社掌	無格社 社掌

〇三重(年俸) 社司ハ九級ヲ下スルコトヲ得ス、兼務者ニ對シテ是レ

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級
一〇〇〇 <small>四</small>	八五〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三五〇	三〇〇	二五〇	二〇〇	一五〇

備考

一級俸ヲ受ケ在職五ヶ年以上ニシテ功績顯著ナル者ハ特三百田以内ノ加俸ヲ給スルコトヲ得レム

○愛知(一年俸)縣神職六級以上郷社神職七級以上兼務者八其四分一

	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
社司	四八〇	四三〇	三六〇	三〇〇	二四〇	一八〇	一二〇	一〇八	九六	八四
社掌	三六〇	三〇〇	二四〇	一八〇	一四四	一二〇	一〇八	九六	八四	七二

備考

同一神社二十ヶ年以上奉仕シ現ニ一級俸ヲ受ケ功績顯著ナル者ニハ所定ノ俸給額以上ニ給スルコトヲ得シム

○山梨(一年俸)兼務者ニハ最下級ノ二分ノ一ニ減スルコトヲ得シム

	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
社司	三〇〇	二五〇	二〇〇	一五〇	一二〇	一〇〇	八〇	七〇	六〇	五〇
社掌	二五〇	二〇〇	一五〇	一二〇	一〇〇	八〇	六五	五〇	四〇	三〇

備考

一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニシテ功績顯著ナル者社司八百円

四

以内社掌ハ五十円以内加俸スルコトヲ得シム

○岐阜(一年俸)兼務者ニ對スル規定ナシ

	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
社司	四〇〇	三〇〇	二五〇	二〇〇	一五〇	一二〇	一〇〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇
社掌	三〇〇	二五〇	二〇〇	一五〇	一二〇	一〇〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇

○長野(一年俸)同上

一 試験合格者ハ一社ニ付五十円以上

二 神宮皇學館卒業生、學階六等以上ヲ有スル者ハ一社ニ付四十円以上

三 前項以外ノ者ハ一社ニ付三十円以上

○宮城(一年俸)同上

- 縣社神職 五〇円以上
- 郷村社神職 三〇円以上
- 無格社神職 二〇円以上

○福島(年俸)

縣社	社司	本務者	兼務者
郷社	社司	一五〇以上	三〇以上
縣郷村社	社掌	一〇〇以上	二〇以上
無格社	社掌	六〇以上	一五以上
		一五以上	一〇以上

○山形(年俸)兼務者年當社司二〇以上、社掌一〇以上

社掌	二五〇	二〇〇	一五〇	一二〇	一〇〇	八〇	六五	五〇	四〇	三〇
社司	三〇〇	二五〇	二〇〇	一五〇	一二〇	一〇〇	八〇	七〇	六〇	五〇
一級										
二級										
三級										
四級										
五級										
六級										
七級										
八級										
九級										
十級										

五

○石川(年俸)

兼務者	一〇〇	八五	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一五	一〇
本務者	三〇〇	二五〇	二〇〇	一五〇	一二〇	一〇〇	八〇	七〇	六〇	五〇
一級										
二級										
三級										
四級										
五級										
六級										
七級										
八級										
九級										
十級										

備考

同一神社二十年以上勤務シ一級俸ヲ受ケ功績顯著ナル者、社司百田以内、社掌五十田以内ヲ加俸スルコトヲ得シム

○鳥取(月俸)兼務者ニハ分割支給スルコトヲ得シム

一級	五〇	四〇	三〇	二二	一八	一四	一〇
二級	四〇	三〇	二二	一八	一四	一〇	
三級	三〇	二二	一八	一四	一〇		
四級	二二	一八	一四	一〇			
五級	一八	一四	一〇				
六級	一四	一〇					
七級	一〇						
下	四五	三五	二五	二〇	一六	一二	八

○ 薪 根 (月俸) 兼務者ハ各級ノ五分ノミヲ減フルコトヲ行シム

社司	一級	二級	三級	四級	五級
二〇四	一六〇	一二〇	一〇〇	九〇	八〇

一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニシテ功績顕著ナル者社司ハ九十月社

書ハ四十月社ニ至ルコトヲ得シム

○ 岡山 (月俸) 兼務者ニ對シテハ各當等ヲ支給ス

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
二〇〇	一五〇	一〇〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇

一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニシテ功績顕著ナル者ニ對シテハ

○ 薪 根 (年俸) 兼務者ニ對シテ規定ナレ

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
四八〇	三六〇	二四〇	一八〇	一四〇	一〇〇	八〇	六〇

十年以上ノ兼任者ニ對シテ一級俸ヲ受ケ功績顕著ナル者ニハ

○ 薪 根 (年俸) 兼務者手當 村社以上 神職 二五〇 無格社 神職 一五〇

社司	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
四〇〇	三〇〇	二〇〇	一八〇	一六〇	一四〇	一二〇	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇

備考 一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニシテ功績顕著ナル者社司ハ七

百田社掌ハ六百田ヲ支給スルコトヲ得シム

補助ヲ為シ居ル府縣
 補助ヲ為シ居ル府縣
 補助ヲ受ケ居ル神社總數
 補助金、總額
 一社平均額

七、七	九	一	三
二、三	一	一	三
七、八	〇	四	三
八、一	〇	〇	〇
六、余			

道廳及府縣	神戶	東京	神奈川	長崎	兵庫	新瀉	埼玉	千葉	茨城	栃木	群馬	山梨	静岡	愛知	三重	奈良	和歌山	鳥取	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	大分	佐賀	熊本	鹿兒島	沖縄	合計
神戶府 神戶市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
東京府 文京區	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
神奈川府 横浜市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
長崎府 長崎市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
兵庫府 神戸市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
新瀉府 新潟市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
埼玉府 さいたま市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
千葉府 千葉市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
茨城府 水戸市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
栃木府 宇都宮市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
群馬府 前橋市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
山梨府 甲府市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
静岡府 静岡市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
愛知府 名古屋市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
三重府 津市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
奈良府 奈良市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
和歌山府 和歌山市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
鳥取府 鳥取市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
徳島府 徳島市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
香川府 高松市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
愛媛府 松山市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
高知府 高知市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
福岡府 福岡市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
大分府 大分市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
佐賀府 佐賀市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
熊本府 熊本市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
鹿兒島府 鹿兒島市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
沖縄府 那覇市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	19	151	740	352	964	1847	1047	767	678	148	267	78	267	78	148	267	78	267	78	267	78	267	78	267	78	267	78	267	78

総計 九一〇社
一社平均

計金 七三三〇〇〇
七二八二六〇

一、府縣社以下神社ニシテ公共團體ノ補助ヲ受
クルモノ、數及補助金額、府縣別、社格別ニテ承
知致度

一、府縣社以下神社、神職數、府縣別、社格別、
本務兼務別ニテ承知致度

一、府縣ニ於テ定メタル神職俸給規定ニヨリ俸給
額承知致度

丙

第七二四

地方

府

市町村課長

通牒案

年月日

地方局長

北海道廳長官宛
府縣知事

共通法施行ニ関スル件依命通牒

第六ノ號

本年法律第三十九號ヲ以テ公布相成候共通
法ノ施行ニ関シ曩ニ司法官同ノ際内地及朝鮮台湾
關東州ノ司法當局者並法制局拓殖局當局者
出席協議ノ上決定セラレタル事項中左記各項貴
部内市区町村長へハ傳達相成度仍第二號第
四號ノ事項ニ付テハ内地裁判所檢事局ヲ通知
ル場合ト同様處理セラレ度

一、破産家資分散及復権許可、通知ハ相互ニ裁判所ヨリ本籍地ノ市町村長、府尹、面長、廳長、支廳長及之ニ相告スル者ニ對シテ之ヲ為スコト

二、共通法施行後ニ在リテ既決犯罪ノ通知ハ相互ニ本籍地ノ市町村長、府尹、面長、廳長、支廳長及之ニ相告スル者並ニ地方裁判所、檢事局、地方法院、檢察局及地方法院、檢察官ニ對シテ之ヲ為スコト

三、死刑ノ執行アリタルトキ又ハ在監中ニ死亡シタル者ノ引取人ナキ場合ニ於テハ相互ニ死亡者ノ本籍地ノ市町村長、府尹、面長、廳長、支廳長及之ニ相告スル者ニ死亡ノ通知ヲ為スコト

四、刑ノ執行猶豫ノ取消、特別特赦及特別減刑ハ相互ニ本籍地ノ地方裁判所、檢事局、地方法院、檢

事局、地方法院、檢察局及地方法院、檢察官並ニ市町村長、府尹、面長、廳長、支廳長及之ニ相告スル者ニ通知スルコト

司法部 刑乙第三三五二號

大正七年五月十八日

司法部法務局長 法學博士 豊島直通

内務省地方局長 赤田敬一郎 殿

共通法施行ニ関スル協定事項ノ件 通牒

共通法施行ニ関スル決定事項別紙ノ通裁判断所並檢
事局ノ通牒相成候條第六項、第八項ノ通知ニ付テ内地
裁判所檢事局ヲ通知スル場合ト同標處理スル
ニ標關係ノ向ニ通牒ナク相当配慮相成候標致度
候

司法部
法務局

民第一〇八八號

大正七年五月二十二日

司法次官 法學博士 鈴木喜三郎

裁判所
檢事局

市中

共通法施行ニ関スル件 通牒

本年法律第三十九號ヲ以テ公布相成候共通法施行ニ関シ最モ司法官會同、際上京アリタシ朝鮮、臺灣及關東州、各司法官及松村法制局參事官得能拓殖局書記官出席、上協議シタル事項中當者ニ於テ決定相成候モ、別紙ノ通ニ有之條條為御心得此

致及通牒候也
(別紙)

共通法施行ニ関スル事項

- (一) 朝鮮、臺灣及關東州、公示催告除權判決
(失跡ニ関スル手續ヲ包含ス)ハ官報ニ掲載スルコト
- (二) 他ノ地域ノ法人、登記ハ別ニ登記簿ヲ設ケ既設登記簿中ニ登記スルニシ
- (三) 法人ニ関スル登記、囑託ニ共通法第之條ノ適用ナシト雖モ共通法全般ノ精神ニ從ヒ其ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得其ノ他ノ登記ノ囑託ニ亦同シ
- (四) 共通法施行前、既ニノ地域、家ニ入リタル者ニ関シテハ第三條第三項、適用ニ付附則第二項但書ノ規定ニ依ルハキモノトス

(五) 破産家資分散及復権許可、通知ハ相互ニ裁判
所ヲ本籍地、市町村長、府尹面長、廳長又廳長
及之ニ相當スル者ニ對シテ之ヲ為スコト

(六) 普通法施行後ニ在リテ既決犯罪、通知ハ相互ニ
本籍地、市町村長、府尹面長、廳長又廳長及之
ニ相當スル者ニ對シテ地方裁判所、檢察局、地方法院、檢察
局、地方法院、檢察局及地方法院、檢察官ニ對シテ之ヲ
為スコト

(七) 死刑ノ執行アリタルトキ又ハ在監中ニ死亡シタル者^引
人ナキ場合ニ於テハ相互ニ死亡者、本籍地、市町村長
府尹面長、廳長、又廳長及之ニ相當スル者ニ死亡ノ通
知ヲ為スコト

(八) 刑ノ執行猶豫ノ取消、特別特赦及特別減刑ハ相
互ニ本籍地、地方裁判所、檢察局、地方法院、檢察
局、地方法院、檢察局及地方法院、檢察官、市町村
長、府尹面長、廳長、又廳長及之ニ相當スル者ニ通
知スルコト
(九) 犯罪ノ地方領事裁判ノ管轄ニ屬スルトキハ各地域
ニ於テ内地法ヲ適用シテ處斷スル

丙

岡地 一三八
七六十一
地方 潘

六
市町村課長山田
尾戸

通牒案
年月日
岡山縣知事宛
地方局長

市豫算ニ関スル件通牒
貴縣岡山市大正七年年度歳入出豫算等御
報告相成候處左記事項其ノ知理不適
當ト被認候各將來ヲ注意セシメラレ度

第六二號

追テ一般會計豫算歳入方第十款繰越金
ニ對シテ附記ニ依リハ剩餘金何程繰越金何
程ト否ハ如何ナル區別ナリヤ兼知致度

- 一、一般會計豫算歳入第一款第二項及歳出
經常部第十七款第二項ニ特シテ基金財
産トアルモ其ノ特定ノ目的ナル名稱ヲ揭グル
相當トス
- 二、今歳出經常部第三十一款 雜支出第五項ニ
積立金ヲ計上シタルモ其目ノ性質上臨時
部ニ積立金數ノ一款ヲ設ケ整理スルヲ適
當トス
- 三、災害準備積立金及市已改正基金ノ總計

豫算表ニ收入金ノ豫算ニ超過シタル場合
ハ次年度へ繰越クナサス直ニ其ノ元本ニ編入
スル旨ヲ附記議決シアルモ右ハ市町村財務
規程第五條ニ該當セザルモノニ付適當
リスト認ム

乙

栃地

七

二五

六十五

地方

三五

添田

齊波

市町村課長出

小橋

第十七回全國各市町區聯合協議會長
建議禁治產及準禁治產宣告及取消
通知其他關係件

本件建議ハ採用セサルモノトス

理由

第六三

裁判所系ヲ禁治產及準禁治產ノ宣告ヲ為シ若ハ之
ヲ取消シタル場合ハ本籍地ノ市町村長ニ通知スルコトニ依リ大
正六年四月内務省訓令第一号第二項中禁治產及準
禁治產ニ関スル事項追加方第十七回各市町區聯合協議
會長ノ建議有之其處前段ニ付テハ禁治產ノ宣告及取
消ノ決定ハ人事訴訟手續法第五十一条第二項及全第六
十五条第二項ノ規定ニ依リ法律上後見人トナルニキ者若ハ禁治
產者ニ送達セラレザラシテ法律上後見人トナルニキ者若ハ後見人
ハ直ニ後見ノ開始若ハ終了ヲ知り得ルノ結果義務トシテ戶
籍法第九十九条全第一百二十条ニ依リ十日以内ニ被後見人ノ本
籍地又ハ後見人ノ所在地ニ於テ後見開始若ハ終了ノ
届出ヲ為スコトヲ要シ而シテ後見人ノ所在地ニ於テ届出ヲ為
シタル場合ハ戶籍法第三十二条ニ依リ届出ヲ受ケタル市町村

長ヲ被後見人ノ本籍地市町村長ニ送付スル故ニ被後見人
本籍地ノ市町村長ハ何レノ場合ニ於テモ禁治産ノ宣告若ハ
取消ノ事實ヲ知ル得ヘク唯ニ被後見人無キ場合ニ於テハ民法第
九百四条ノ規定ニ依リ親族會ニ於テ之ヲ選任スルキヲ以テ法定後見
人ア^ル場合此ノ親族會召集并ノ手續ヲ必要トシ為^ス多クノ日
時ヲ要スヘキモ其ノ事實ヲ知ルノ時期ニ僅クノ差異アリ^ニ止^リ早
晚選定後見人ノ届出ニ依^リ之ヲ知リ得ヘク仍^ニ準^テ禁治産ニ付
テモ禁治産ノ規定準用セラル^ル結果合^ハ様ナ^リ以テ本件ハ特
ニ裁判所ヨリ通知ヲ受クルノ必要無^キ存セラレ候後段ニ付テ
ハ戸籍法第十八条第十三号及全施行細則附録記載例
依^リ後見人又ハ保佐人^{アル}者ハ之ニ関ス^ル事項戸籍簿ニ記
載ヲ要スルヲ以テ轉籍届ニ基キ当然^ニ其ノ事實ヲ知ル得ヘク之
亦特^ニ除籍地ノ市町村長ノ通知ヲ俟^ツルノ必要ナ^キ義ニテ
同以上ノ趣旨ハ次回ニ於ケル各市區聯合協議會ノ際便宜
口頭ヲ以テ示サルコトトシ此^ハ併^ニ高覽ス

建議書

一裁判所ニ於テ禁治産及準禁治産ノ宣告又ハ取消アリタルトキハ其ノ事項ヲ本籍地市町村長(市制第六條及第十條)ニ通知スルモノトシ大正六年四月内務省訓令第一號第一項中(家資分散)ノ下ニ「禁治産及準禁治産」ハ字ヲ加ヘラレシコトヲ

右及建議候也

大正七年一月二十八日

第十七回全國各市区聯合協議會友

宇都宮市長 谷 誠之

理由

禁治産及準禁治産ハ身分調査上必要ナル事項ナルノミナラス諸般ノ選舉人名簿調製上必須ノ事件ナルニ拘ハラズ從來何等ノ規定ナキ為メ其調査極メテ不便ナルヲ以テ刑罰身代限破産家資分散等ト同シ其ノ通知ヲ受ケテ名簿ヲ整理シ其必要ナル場合ニ事務ノ簡捷ヲ期セントス

市区改正ニ関スル事務トハ畢竟市区改正係ニ
基ク事務ノ範圍ト解スル外ナリ市区改正係
係ニヨリテ夫起債且ノ他ニ当然当課ノ主管
ニ屬スルモノト思フセラルモ現在ノ組織ヲ以テ
シテハ都市計畫課ニ於テ之ルヨリモ市町村課ニ
於テ整理スル方審査上便多シト認レルヲ以テ
此ノ意味ニヨリ本案ニ同意ス

補充

（注）...
本署...
...
...

一 起債ノ許可、特別税ノ許可等ハ市已改正
事業ノ必要ニ依リテ之ヲ受ケルモノニ非
ズ市已改正事業ノ方面、ミテ見レハ寧
口之ヲ不必要トヘシ 一般地方財政監督
ノ必要ニ基クテナルト明テ 地方財政監
督ニ付キ権限ヲ有スル地方局、於テ、主
管ノ事ハキ、當然トス 市區改正豫算
ノ認可ハ之ト異リ市區改正事業カ計
畫通り施行セラル、ヤ否ヤテ、主眼トシテ
其ノ認可ヲ受ケルモノトシ、一般財政監
督上ノ必要ニ基クテノト、之ヲ得ルレ
ニ都市計畫課ニハテ、之ヲ主官ニシテ不
可ナレ

二 両者ノ區別

如何ナル市ト雖モ起債及特別税ヲ起サン
トスル場合ハ、市ニ其許可ヲ受ケルヲ要ス
ル、及レテ市區改正豫算ノ認可ハ同一ノ
主官ニテモ市區改正トシテ行フ市及場合
ニ於テ、之ニ其許可ヲ必要トス
ル矣、於テ之ヲ明ニ見ルヘシ

三 若シ起債ノ許可ヲ都市計畫課ノ主

管ト為ストキ、下水上水施設ノ許可ノ
如キハ都市計畫課ノ主官ヲラサルヲ
得サルヘシ 又事業ニ依リ起債ヲ、主官
ニルト云フエト、ナラハ下水上水ノ起債ハ土木

局又ハ衛生局ニテハ主管セザルヘカウザルエトナル
ヘシ

四、其ノ規定カ市區改正條例ニ存エルト否トハ
同ノ所ニ非ズ例ヘハ水道條例ニ於テ其ノ
布設ハ衛生局ニ主管ニ属スルモ給水料
ニ關シテハ地方局ニ於テハ主管セザルカ如シ
五、都市計畫課ニ於テ財源ノ計畫書リ為
スニ敢テ不可ト云ハズ只其計畫書カ一度
市ノ起債トナリ徵稅トシテ表ルル場合
ニ一般ノ手續ニ依ラシムヘキハ當然ノ
コトナリト信ス

雑記

東条市 市區改正費ノ起債ニ関スル件 (大正五年四月廿五)

一、明治十一年布告第十八号及之ヲ改正シタル明治十三年布告第十五号

府縣會規則ハ府縣ノ起債權ヲ決メス (第一号)

二、明治十四年布告第八号ハ區部會部會規則ヲ設ク (第一号)

三、明治二十年八月勅令第六十二号ハ市區改正條例ヲ制定シ其第十二

條ニ左ノ規定ヲ設ク

第十二條 市區改正爲メ一時巨額ノ支出ヲ要スルトキハ東条府區部ハ

毎年收入スルキ特別稅ノ目的トシ五十箇年以内ノ期限ヲ公債ヲ募集

スルコトヲ得其金額及起債ノ方法ハ東条府知事之ヲ定メ東条府區

部會ノ議決ヲ取リ内務大臣大臣ノ認可ヲ受クハシ

四、明治二十三年一月法律第三号ヲ以テ始テ府縣ニ起債權ヲ認メタルニ極テ扶

救ノモノナリ即チ借入金ハ非常災害ノ爲臨時ニ本費ヲ要スルトキ限り

借入期限ハ十年以内ト爲セリ (第三号)

裏面あり

六、明治二十三年法律第三十五号府縣制第七十四條ニ於テ府縣ノ借入額ヲ償還スル爲メ天以テ事業及ノ爲ニ得ル支出又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルキ支出ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ府縣債ヲ起スコトヲ得ルニ付テハ規定シ償還ノ初期ハ三年以内トシテ三十年以内ニ還ラズハキコトト爲セリ(第四号)後明治三十三年法律第六十四号府縣制第七十五條ニ依リ之ヲ稱廣キ起テ償還ノ規定アリ之ニ依リテ

六、明治二十三年法律第三十五号ヲ以テ東京市京都市及市特別市制ヲ施行シ東京市ノ道路河川橋梁河川ノ上下水道公園墓地等凡ソ市區改正ニ関係スル事業及之ヲ東京市中ノ区域ニ移シタルヲ以テ市區改正ノ事業ニ東京市ノ区域ニ移スル至當ナリトシ明治二十三年七月市區改正條例ノ改正ヲ請議スル其勅令ハ第三十二條ノ左ノ如ク規定セリ(第五号)第十二條 市區改正ノ爲ニ一時巨額ノ支出ヲ要スルトキハ東京市ノ制第七十六條ニ依リ公債ヲ募集スルコトヲ得但償還ノ年限ハ五十年以

裏面あり

内
り
ス

然ルニ明治二十三年八月十四日勅令第百六十九号ハ第十二号ノ改正ノ際キリ
發布シ同日勅令第百七十号ハ市區改正條例中東京府知事ノ職
事務ハ東京市事務會ニ委シ東京市部會ノ屬スルヲ東
京市會ニ屬セシムルコトヲ為セリ

當時ノ市制第百六條ハ左ノ如ク規定アリ(其大意)

市ニ於テ公債ヲ募集スルハ従前ノ公債元額ノ倍額ニ至ラズ又ハ天正ノ時度等ニシテ得
セシ出資者ハ市永久ノ利益ト爲ルニキテ出資ノ要スルニ方リ通常ノ輸入ヲ増加スルニキ
ル

其市住民ノ負担ニ堪ヘサル場合ニ限ルニトス

市會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルニ係セテ其募集方法ハ利息ノ定率
及償還ノ方法ヲ定メシ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還率ノ定率
ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スル(市制第百五十五條ノ内務大臣ニ付テハ
其例ニ違フコトヲ得セシム)

然レニ明治四十四年ノ改正ノ市制ニ於テハ左ノ如ク規定シ償還率ノ限ヲ撤消ス

市ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ市ノ永久ノ利益ト爲ル一キヲ出ラシメ又リ夫レトモ
等ノ必要アル場合ニ限リ市債ヲ起ラシメトシ得
市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルルキニ係セリ起債ノ方法ハ利息ノ定率及償還
ノ方法ニ由リ決メテハシ

一明治十一年七月廿八号布告府縣會規則ヲ

明治十三年四月廿五号布告ニテ改正ス

第一條 府縣會ハ地方税ヲ以テ支辨スルキ経

費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メ

ニ於テ地方税ニ係ル前年度ノ出納決算

ノ報告書ヲ受ケ府知事縣令ニ説明ヲ求ム

ルコトヲ得 然シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ

直ニ内務大臣兩卿ニ上申スルコトヲ得

出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ説明

ヲ求ムトキハ府知事縣令若クハ其代理人

之ヲ説明スルニ 十五年四月十八号布告

ヲ以テ本項ヲ追加ス

第一号

第二号

一明治十四年二月布告第八号ヲ以テ邑郡部會規則

ヲ定ム(明治十三年五月廿六号)及オニ十七号布告

ハ廢止ス

第二條 三府及ヒ神奈川縣ニ於テハ府縣會ヲ分テ

邑部會郡部會トナシ邑部郡部ニ分別シタル

事件ヲ議定セシム

第三條 邑部會郡部會ニ於テ議定スルキ事

件ト府縣會ニ於テ議定スルキ事件トハ府

縣會ニ於テ之ヲ議定ス

第九條 邑部ニ係ル戸數割ハ邑部會ノ決議

ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大臣兩卿ニ具

狀シ政府ノ裁可ヲ得テ家屋税ト為スコトヲ

得

二〇二

明治二十三年法律第三号 (二月二十日)

第一条 府縣ニ於テ非常災害ノ為メ臨時ニ土木費ヲ要シ一
時地方税ノ負擔ニ増シ難キ場合ニ於テ府縣知事ハ府縣
會議決ヲ取リ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ箇年以内
ノ償還期限ヲ以テ借入セシメ得

第二条 前條ノ借入金ヲ為スニ當リ府縣會議決ニ依リ
内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ其存貯ノ借入債權基金
ヨリ其年度初現在高ノ三分一ヲ借入ルニ得但本
條ノ借入金ニ對シテ是相當ノ利息ヲ拂フヘキモノトス
第三条 借入金ノ認可ヲ得ルニ付府縣會議決ヲ
行フニ借入方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ルセシ
内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ要ス

三〇三

明治二十三年法律第三十五号

貯蓄制

第七十條 貯蓄其以元額之償還を爲すに於て事務費は之に附
せん出立貯蓄の亦久し初年を爲し一才出立を要せん之方り面元を以て
かえりし貯蓄ノ員担之場ニ其ノ場合ニ限リ利息を定むる所ニ於て貯
蓄員ノ議決を以て貯蓄債ヲ起ス可トシ得
貯蓄債ヲ起ス^{債權者}係起債ノ方法利利息を定むる所ニ於て
定ムル

貯蓄債償還ノ時期は三年以内とし之を以て償還出来ぬと定むる時
ノ時より三十年以内ニ還す可トシ

歳入出除内ノ支出ノ爲スルニ必要ニ一時ノ借入金ニシテ其ノ内
内ノ收入ノ以テ償還ス可トスルノ本条ノ例ニ依リノ限ニ在ルニ但貯
蓄員ノ議決ヲ經ンニトシ得ス

第四十号

第九十條 左ノ事件ニ關シ貯蓄會ノ議決ニ内務大臣及大臣官房長官
ノ承認ヲ得テ得ス

- 一、新ニ貯蓄債ヲ起シ又其額ヲ増加シ若シ償還ノ方法ヲ變更スル
事

第九十條 以法律ニ依りて施行シ且各地方官署ニ施行スルニ其施行
ノ時期ハ貯蓄會ノ議決ノ日ニ依リ内務大臣ノ定ム

第九十條 明治二十三年四月五日法律第三十五号... 其他以法律ニ依りて
成規ニ以法律ニ依りて施行スルニ其施行ノ時期ハ依リて定ム

明治廿三年七月九日 内務省 岡本武輝

大臣

次官

総務局長

書記官

文書課長

給仕局長

土木局長

衛生局長

地理課長

大蔵省

大臣

次官

総務局長

主税局長

主計局長

文書課長

東京市改正事業之関之條規

右圖議提出案ヲ其レ作高裁

東京市改正事業之関之條規

往年東京市改正條規ノ其後布セラル、
ニ當リテハ道路橋梁等ノ修理保存ハ地

方税經濟ノ負担ニ屬スルヲ以テ市ニ改正ノ
事業ハ東京府區部會議負シテ之
與セシメ其費用モ亦區部會議ヲシテ議決
セラルノ制ヲ定メラル已ニシテ特別市制
ヲ實施スルニ至リ道路河川橋梁ノ初
ノ上水下水公園墓地等凡ソ市ニ改正ニ
關係スル事業ハ編テ之ヲ東京市ノ經濟
ニ移シラルリ以テ乃チ市ニ改正ノ事業モ
亦同ノ東京市ノ經濟ニ移シラルリ得ズ
故ニ東京市ニ改正條例及之ニ屬スル規定
中其變更ニ關スル部分別案ノ通改正
ニ執行上阻害ナラシメントシテ欲ス
右閣議ヲ請フ

年月日

内務大臣
大藏大臣

別申

別紙東京市ニ改正事業ニ關スル條例改正
ノ件提出ス

年月日

内務大臣
大藏大臣

内閣總理大臣 宛

第十三條ノ左ノ如ク改ム
市匠改正ノ為ノ時匠額ノ支出ヲ要スル
トキハ東京市ハ市制第六條ニ依リ
公債ヲ莫ク自給スルトシ得但當還期
限ハ五十年以内トス

勅令第一〇七五号 四月二十三日 公布
東京市匠改正ノ事例中知事ノ裁可ス

市匠ハ従来跡地即ち市匠額を納付スル者ニ付テ

第百六條 市ニ於テハ債ヲ募集スルニ従前ノ
 債元親ヲ償還スル為メ又ハ天災時麦
 等已レリ得ル支出者ハ市ノ永久ノ利
 益トシテ可キ支出ヲ爲スルニ方リ向テ常ノ歳
 入増加スルトキハ且市任民ノ負担堪ハサル
 場合ニ限リトス
 市會ニ於テハ債莫カ集メトシテ議決スルトキハ
 併セテ其莫カ集メノ方法利息ノ定率及償
 還ノ方々ヲ定メ可シ償還ノ初期ハ三年
 以ト為レシ年々償還ノ少人合ヲ定メ若
 其時ヨリ三十年以内償還ス可シ
 定額予算内ノ支出ヲ為シカモ必要ニ一時ノ
 借入金ニ本條ノ例ニ依ラズ且其年度内ノ收

入ツ以テ償還スルキレトス但此場合ハ市會ノ議決ヲ要ス
 市會ノ議決ヲ要ス
 第百七條 左ノ事件ニ關シ市會ノ議決ハ
 由府大臣及人府大臣ノ許可ヲ受ルルベトシ
 要ス
 一 新ニ市ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増
 加シ及第百六條亦ニ項ノ例ニ違フモノ
 但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在
 ラズ

大正七年三月三十日

大正七年三月三十日

大臣 水野

秘書官 安田

次官 小松

参事官 池田

山縣

佐野 守石

地方局長 渡辺

土木局長 小橋

衛生局長 杉山

地理課長 山縣

會計課長 山縣

警務局長 永田

内務省分課規程中改正件

局 課 室

内務省分課規程中改正件

年月日

大臣

大臣官房地理課中「一東京市已改正ニ關スル事項」ヲ削リ地理課ノ次ニ充テ如ク加フ

都市計畫課

一都市構築具他都市計畫ノ調査ニ關スル事項

一都市計畫委員會ニ關スル事項

一東京市、京都市、大阪市具他重要都市ノ市已改正ニ關スル事項

地方局市町村課中「東京市已改正ノ經濟ニ關スル事項」ヲ削ル

理由

今般都市、計畫調査ニ関スル事務ヲ取扱ハシムル為メ内務省ニ臨時職欠増置ノ件官制審議中ノ處都市、計畫調査ニ関シテハ建築及街路ノ擴張其他ノ土木並衛生、防火、財政等ノ諸般ノ事項ニ互リテ調査ヒサルヘカラス、然レニ以テ各般ノ事項ヲ各主務ノ局課ヲシテ分掌セシムルニハ調査ノ進捗ヲ阻礙スルノ虞アルニシラス、調査ノ聯絡係一ヲ缺キ完全ヲ期シ難ニ初シテ本調査事務ノ如キ各局課ノ分掌ニ跨ルモノニシテ全體ヲ與ケ、或一局ノ司掌ト為ルハ穩當ナラサルモノアルニ依リ大臣官房ニ特ニ一課ヲ設ケ本調査事務全部ヲ司掌セシメ併セテ本調査ト密接

ノ關係アル東京市其他重要都市々已改正ニ関スル事項ヲ司掌セシムルニ本事項ハ各省官制通則ヲ参考カ一ノ至カ九号ノ列挙項目ニ該當セズ從テ同条カ一号「其他各省官制ニ依リ特ニ大臣官房ノ所掌ニ屬セシムル事項」ノ規定ニ依リ内務省官制ヲ改正シ官房所掌ノ事項ヲ明ニセサル可カラサルカ如シト雖モ臨時職欠増置ノ官制ヲ内務省官制補則ト見其ノ事務ノ性質各局ニ跨リテ独占ヲ許サルモノアルニ依リ若シ官房ニ屬スルモノト解シ單ニ令課規程ノ改正ニシテ處理相成可然、右他者ニモ具ノ例アリ例ハ大藏省官房ノ臨時建築課ノ如キ、臨時職欠設置ノ勅令アル外特ニ大藏省

官制ニ官房設置ノ規定ナシ

符

東京市ニ改正ノ經濟ニ關スル事項レハ別段ノ規
定ヲ要セズ當然地方自治課ノ主管ニ屬ス
ルモノナルハ故ニ本案改正相成ルモノトシテ賛成ス

添田

地方自治課 次田

乙

秘 七 一四九

六 廿八

地方 留

市町村課長 出

小橋

通牒 案

年月日

神奈川縣知事 先 地方局長

英國勳章贈與ニ関スル通牒ノ件通牒

英國皇帝陛下ヨリ安藤横濱市長ハ勳章贈
與セラレ該勳章ハ本月二十日英國皇族アーサー

第六五

オグ、コンソート殿下ヨリ既ニ文件相成候趣ヲ以
テ在本邦同國大使ヨリ別紙字ノ通牒ニ知有之候
趣外務大臣ヨリ通牒有之候間御承知相成
度

外務大臣閣下 譯

小官ハ小官ノ主君タル英國皇帝陛下カ別紙
名簿ニ記載シタル教名ノ日本臣民ニ對シ其ノ
特殊ノ勲功ヲ嘉賞シ各其ノ姓名ノ例ニ附
記シタル英國勲章ヲ贈与スルヲ欣快トシ給
フニト並ニアーサー、オグ、ミレノート 殿下ハ本日ヲ以テ
前記勲章ヲ各受勲者ニ交付セラルタルニトテ
下ニ通告スルノ光榮ヲ有ス
小官ハ英國外務大臣ノ命ニ從ヒ前記閣
下ニ致シ以テ前記勲章ノ贈与カ貴國政府
ノ嘉納ナル所トスルヲ望ムノ光榮ヲ有ス
尚小官ハ此機會ニ於テ閣下ニ對シ最高ノ

敬意ヲ表スルモノナリ

英國大使 コニングハム、グロリン

大日本帝國外務大臣
後藤新平閣下

第六六號

第七

西
七
一九

地方
市町村課長
增田

任
增田
七
四

電報案

局長

起算
助役
任
大改府知事
期計
算
件
存
不

認可
日
了

電報譯

七月四日午前十一時發

大阪府知事

地方局長宛

當閣助役、大正三年七月十日認可シクルニ
當時至官中、リシ為七月三十一日ニ就
職シタリ、今因還ニ付任期ノ起算ハ
認可ノ日ヨリスヘキヤ、就職ノ日ヨリスヘキヤ
折返シ電ヲヒセテ

高地 二五 七五
七六 六一 七五

地方 倭田

市町村謀長 山田

小橋

乙

市町村義務教育費國庫負担法
 依ル交付金ニ對スル件
 本件ニ付テハ石川縣金澤市起債ニ付大藏省
 ハ國庫交付金ニシテ教員増俸ニ充テタル殘
 額ニ之ヲ減債ニ充當方文法有之然ルニ交付
 金ヲ教員増俸ニ充テタル殘額ニ教育改善
 並負担軽減ニ充ツル趣旨ヲレハ之ヲ減債ノ

第六七號

資ニ充用スルカ如キハ適當ナラス又大藏省意
 見、如ク為ストモハ明年年度以降ニ於ケルニ又
 付金殘額ニ之ヲ償還財源ニ充當スルニ非レハ
 趣旨一貫セス而シテ此、如ク為ストモハ公債ノ
 償還ツラシムルニ非レハ負担ノ軽減ニ之ヲ行フ能
 ハサルニ至ル依テ大藏省意見ニ同意シ難キ旨
 別紙、通御決定ヲ經テ交談セシメ大
 藏省、別紙甲号ノ通申來リ候ニ付更ニ金
 澤市ノ財産計畫ニ付調査ノ未乙号ノ通
 回答シ該件、許可案ニ同意セリト雖モ交
 付金殘額處置ノ問題ハ未決ノ終ニ有之
 今田高知縣高知市ニ於テ起債スルニ付票請
 有之許可案大藏省ニ及回付候知該件、大

止八年度及大正九年度、起債アルヲ以テ交付
 金残額トアルトキ、減債方大藏省ヨリ交渉有
 之、更ニ考慮候處此ノ問題、一般的ニ処置方
 ヲ決定シ置クハ適當ナラス、即チ市町村負担ノ
 状態、一様ナラサルヲ以テ、現在、負担過重ナ
 リト認めル市町村ニ付テハ、交付金、残餘、之ヲ
 負担軽減ニ充ツルニトシ、¹⁰現在、負担過重
 ナラサル市町村ニ付テハ、減債ノ資ニ充當シ将来
 ノ負担軽減ヲ得セシメ、¹¹生産的ノ事業、起
 債ニ付テハ、其ノ償還、¹²主トシテ事業收入ニ依ル
 モノトシ、交付金、残額、之ヲ現在、負担軽減
 減ニ充用シ可然ト存セラレ、要スルニ本問題ニ付
 テハ、上記ノ趣旨ニ依リ、個々ノ事件ニ付審査決

定スルニトシ、致度而シテ高知市、分、明年度及
 明後年度、交付金残額、減債ノ資ニ充用
 セシメラレ、可然ト存候間別紙案ヲ具シ
 仰高裁

追テ本文國庫、交付金、残餘ヲ以テ減債ノ
 資ニ充ツル、将来新事業、起債額、減少
 ニ充ツル、趣旨ニシテ、其ノ償還財源及着債、
 償還財源ニ充ツル、趣旨、無之、高知市債
 ニ付テハ、大正八、九兩年度、¹³於テ、¹⁴本年、交付金ノ
 残餘アル、キ、¹⁵当該年度、¹⁶於テ、¹⁷小島子校建築
 費、¹⁸上債ノ、¹⁹減額、²⁰充ツル、²¹趣旨、²²有之候

添

第一案

曩ニ御協議有之候市町村義務教育費
 國庫負担法ニ依ル交付金交付ノ結果市
 財政ニ餘剰アル場合其債減額ニ充當
 方、市町村已所村ノ状況一掃ナラサル
 同ノ事件ニ付適切ナル處理ヲ為スニ致
 度而シテ高知市ノ分ニ付テハ紙ノ通達
 付ルニ付異議會之候間右様御了知相
 成度候

大藏省 連中

内務省

通牒案

年月日 地方理財普通庶務三局長

高知縣知事宛

起債ノ件 永命通牒

貴縣高知市標記ノ件本日許可相成候
 知大正八年度及大正九年度ニ於テ市所村義
 務教育費國庫負担法ニ依ル國庫交付金支
 付ノ結果市ノ財政ニ餘裕ヲ生シ負担軽減ニ充テ得
 へキモノアルトキハ其ノ額該年度ノ本件起債
 ニ減額ノ資ニ充テシメラレ度
 追テ本文ニ依リ減額ニシテトキハ豫算ヲ添
 直ニ報告セシメラレ度

乙号

本件ニ付テハ市町村ノ義務教育費國庫負担
法ニ依ル國庫負担交付金ノ内市町村負担
担ノ軽減ニ充當ノ分起債減額方御協議
之知右ニ関シテハ改定シ盡クモ金庫
市ニ在リテハ別紙調査ノ通交付金ニ依
員担ヲ軽減スルノ餘地ナキ次第ニ付本
件ハ原案ニ御同意相成度及御回答
候也

内務省
注

大藏省

御中
添付

裏面白紙

甲子

今般分布相成矣市町村義務教育費國
 庫負擔法ニ依ル國庫ノ交付金之ヲ教
 育優遇ニ充當シ又ニ其ノ一部之ヲ市町
 村負擔ノ輕減ニ充當スル答ニ有之其ノ負
 担輕減ニ充當スル場合ニ於テ其負擔ノ
 輕減事ニ充當スル金額ハ既定豫算
 ニ對シテ之ヲ減額スル事モ寧ロ日本銀債
 額中ヨリ之ヲ減額スル方其ノ當ヲ得テ
 其下存立ノニナラス一層所謂負擔輕
 減ノ趣旨ニ適スル哉(事件事業ノ施設ヲ欠
 ク可クモトモトモ此ノ下認メ候ニ付本件通
 牒案ニ於テ該案意味ヲ附加致度實格
 濟再考相煩度所ナリ及返答候也

内務省 濟中
 大藏省

月

雨

七 電

七 八 地

七 五 方

市町村課長 不在 山田

七 六 深野

屬

通牒案

年月日

高知縣知事 先

局長

市決算、件、通牒

貴縣高知市大正五年年度標記、件、御報

告相成候知、右、八歳出豫算、起過、ノ、支、出、對、

出、ル、額、附、記、欄、に、記載、無、之、右、ハ、将来、記、
裁、候、様、御、示、達、相、成、度、

六九

甲

新地 二

七七四 地方 湯

市町村課長 出

七廿三

阿部 阿部 阿部 阿部

村境界變更並財產知事 件 許可案

大正六年十二月二十五日 新潟縣知事 收第一〇七二號 申請 新潟縣中頸城郡 和田村及同郡板倉村 境界變更並財產知事 件 並之件 財產知事

分件許可不入 年月日 內務大臣

通牒案 年月日 新潟縣知事 地方局長

貴縣中頸城郡 和田村及同郡板倉村 標記 件 指合 相成 候 延 和 田 村 大 字 廣 島 字 田 九 九 五 米 子 下 板 倉 村 大 字 南 中 島 八 二 下 地 積 重 復 合 計 申 越 次 第 七 有 三 町 村 制 第 四 條 第 二 項 之 條 知 事 以 此 為 認 許 證 議 相 成 候 各 右 三 津 兼 知 相 成 度

債券二三九号

大正七年五月廿七日

主任 寺本

市債課長 天定

理財局長 神野

地方局長 海白

市町村課長 山田

藏券二九七号
大正七年五月廿七日
市債課長 天定
二件

第七一

名古屋市長公へ回答案(其二)

貴市外債買入銷却ノ件市照一會ノ趣了案
本買入銷却ハ関係者事者ノ合意ヲ以テ
貴市ニ買取リ上之ヲ行フモノナルガ故ニ當市
ノ發行条件ニ照文ナキモ特ニ之ニ抵觸ニ誌

果ラ生セサル限リ別ニ差支ナキモノト存候条歟段
及回答候也
年月日
西局長

名古屋市長宛

廣志縣公事へ通知案(其二)

貴縣名古屋市長外債ニ関シ今市長ヨリ買入銷
却ノ款否ニ関シ照會有之候ニ付紙通リ回
答致置候条右ニ仰リ公事取付以取及
通知候也
年月日
西局長

西局長

廣野縣知事宛
（別紙「市長（回答書）添付」）

内 務 省

名古屋市公債條例

才十條 本公債ノ元金ハ明治五十七年ヨリ同七十六年ニ至ル期間内ニ於テ抽籤又ハ其他ノ方法ニ依リ之ヲ年

滑ス
但市ノ都合ニ依リ右期間内ト雖モ六ヶ月前豫告シテ全部一時ヲ亦滑スルコトアルヘシ

同 契約書

才三條 本公債ハ明治四十九年迄振置キ同五十年ヨリ同七十六年ニ至ル迄ノ間ニ於テ毎年三月英貨三萬磅ヲ抽籤ニ依リ漸次償還スルモノトス
但申ノ都合ニ依リ振置年間ヲ任タル後ハ六月迄

豫業告シテ全部ノ償還ヲ為スコトヲ得ルモノトス

拝啓 深縁候 念御清祥之段 奉慶
賀儀 目下本市ハ英國ニ於テ發行シタル市債
七十七萬磅 償還残額ヲ有シ 候 處 歐洲我
乱ニ結果 爲替相場 著シク 変動シ 且在外
公債ノ 時價 低降ニ 趣ニ付 此好機ヲ 逸セズ
外債ヲ 買入 銷却ニ 依リ 内債ニ 借替 爲シ 置
ク 本市 將來ノ 利益ト 存候 然ルニ 當初ノ 發行
條例 件ニ 買入 銷却ヲ 爲シ 得ル 明文 無シ 且當
初公債 發行ノ 引受人ニシテ 證書 副署者ヲ
「ラザードブラザース」會社ニ 於テ 承認スレハ 買入
銷却ハ 差支ナキモノトモ 存候 右買入 銷却ノ 能
否ハ 借替計畫上ニ 至大ノ 關係アル 義ニ付 豫メ
御内意 拝承 致度 殊ニ 非今 本市 外債 借

替ニ 買シ 元利仕 拂事務 取扱人タル 倫敦ニ 在
「ラザードブラザース」會社ヨリ 駐英 森財務官ニ 右計畫
ニ 関シ 建議ノ 趣ニモ 有シ 市內 意、都合ニ 依リ
直ニ 買入 銷却 實行ノ 手配 致度ト 存候ニ 付
至急 市內 意 相同 致度 得貴 意 候 致 具
大正七年 五月 二十三日

名古久市長 依之藤孝三郎

大藏省 理財方 長 神野勝之助 閣下
内務省 地方方 長 添白散一郎 閣下

内務省
地部
一八九号
七年七月
四日

七三

岐阜縣市町村行政事務監督ニ関スル諸
規定改正ノ件報告

句

228

由務省
地才二八号

大正三年七月十日

内務省 陸軍省 逓信省 農商省 司法省 文部省 大藏省 各省長官

國稅課長 陸軍省 逓信省 農商省 司法省 文部省 大藏省

大藏省

内務大臣

地方官署

市町村課長 農商省 逓信省 農商省 司法省 文部省 大藏省

支那軍官

高橋

七四號

中繩縣、島尻郡、大東島に於て、所得税賦課徴収に關する件

照會、要旨

熊本稅務監督局長照會

大正三年法律第十號より、本年年度より中繩縣、島尻郡、大東島に於て、所得税法施行、所同縣下島尻郡大東島に交通頗る不便に於て、徵稅困難あり、加之同島に町村割未施行地、以テ之を徵稅手續ニ就テ之新ニ規定、割定ノ要スヘク、方其、稅額ニ僅少ナルヲ以テ、好シ課稅ヲ見合スル可トモ、亦下謂クニ案ニルニ

大東島、北霸港より去る二百餘里ノ大洋中
ニ孤立シ交通不便ニシテ徵稅上幾多ノ困
難アリ、本年實了然レトモ假ハ徵稅困難
アリトモ、苟モ稅制施行地ニ於テ課稅ノ思
諸ニ付存ハ理由ナシ

又同島、明治四年勅令第四号ノ村別
町村制未施行地ニ屬ス然レトモ熊本局照
會、如ク自治制未施行ノ故ヲ以テ徵稅
手續ナキニアラス又所得稅法(第十六条)
及稅收法施行規則(第三十二条)ニ是等
未施行地ニ對シテ手續トシテ戸長職務
ヲ担当ス

唯茲ニ問題タルハ同島ハ明治三十五年ノ開拓

ニシテ明治十一年太政官布告第十七号郡
町村編制法以後、事實上屬スル以テ
同島、郡制ニ於テ戸長ヲ置テノ要アリヤ否若
レ也ヲ置カサレトモ其ノ行政事務ハ何
ニ処理スヘキヤ、其ニ
曩ニ同島ノ行政ニ付戸長設置方中繩縣
知事より内務大臣宛上申ニ對シ日省ニ之ヲ
郡区町村編制法ノ適用外トシ戸長ヲ置
クノ要アリ島尾郡長ニ地方官ヲ制ノ規程ニ
依リ當然同島一切ノ行政權(戸長事務)
アルニト決定ス
龍ヲ所得稅法及主稅收法由ノ規定中
市町村ノ事務ハ市町長又ハ戸長シテ

扱ハシムヘク是等機關ノ設置等々場合ノ規定
 ナシ然レトモ其場合ニ稅務署自ラ其ノ事務
 ヲ行フノ趣キニテ蓋シ最モ行政官制ニ
 屬シ事務ノ總ニ其ノ執行權限ニ機關ヲ
 レテ取扱ハレルノ法ニ外ナラス
 要スルニ大東島ノ行政事務ニ就ラハ戸長ノ
 制ナキモ所轄島尾郡長ニ於テ一切ノ行政
 長事務ヲモ司事セラル、モノナル故ニ此方徵稅
 手續ニ就ラモ一般市町村制未施行地ト同
 レリ取扱ハレルヲ相おトスヘク特ニ規程ノ制
 定ヲ要セサルモノト認ム
 其ノ他地理交通ノ不便、生ズル徵稅手續
 ノ事、就ラハ夫、便宜ニ隨ヒ之ヲ理セシ
 ヲルノ外ナキモノト認ム候為左業回答取
 計可然哉

案

年月日

主稅局長

熊本稅務監督局長宛

本月廿廿直第七七四号照會ニ係ル中繩縣島
 郡大東島ニ於テ行得稅生主稅方、件、交通不
 便ノ故ヲ以テ課稅ノ思請ニ付、是レ「福由」ト云
 而シテ之カ賦課率收ノ手續ハ市町村制未施
 行地ノ例ニ依ル、戸長事務ハ所轄島尾
 郡長ニ於テ取扱フ、若シ之ニ其ノ他交
 通不便ヲ生ズル徵稅上ノ事、取ニ就ラハ夫、
 便宜ニ隨ヒ相おトスル、内務省局ト云

協議、上外敵及田谷也

232

裏面白紙

乙

福地 一〇三
七 七 十二

地方

添田

八三
府縣課長
市町村課長
出

小橋
人事官 阿部 長司 增安 守屋

案

年月日

福島縣知事 先
地方局長

縣稅賦課細目議決委任：関之件

七月八日七地第ニ〇九号ヲ以テ御照會ニ

第七五

係ハ標記ノ半
三經同ノ上此級及後級御見込ノ通ニ有
候

理由

市令ニ於ケル府縣稅賦課細目議決ノ權限ハ市制第廿三條ニ依リ之ヲ市令委員ニ委任スルコトヲ得ヘキカ如キモ府縣制第廿九條第一項ニ依リ之カ議決ノ權限ヲ特ニ市令ヲ指定シテ附與シ合條第廿二項ニ於テ市令期限ハ具ノ議決ヲ為サレトキ若ハ不適當ノ議決ヲ為サレトキハ府縣令委員會之ヲ決スヘシト規定セル所ヲ見ルニ市令委員會ニ委任スルコトハ之ヲ許サレトキト被認スルニ付本案ノ直覺可相以テ尙市令ハ市令委員會カ議決ヲ為サレトキ若ハ不適當ノ議決ヲ為サレトキニ依テ

市制ノ規定ヲ見ルニ市制第廿九條第廿四項ニ依リ市令ハ市令委員會ニ於テ具ノ議決ヲ為サレトキハ府縣令委員會ノ議決ヲ請フコトヲ得ルモ市制第廿九條ニ依リ之ハ不適當ノ議決ヲ為サレトキハ之ヲ再議ニ付シ其具ノ議決ヲ改メサレトキハ府縣令委員會ノ議決ヲ請フヘク其ノ議決ニ對シテハ訴願ヲ提起シ得ル旨規定セルレタルヲ以テ右ニ依リ其ノ間手數ト時間トトモ要シ斯ノテハ賦課細目決定上支障ヲ来スル以テ府縣制ニ依リ直ニ府縣令委員會ニシ決スヘシトノ特例ヲ設ケラレタル裁ト存候而シテ若シ本件議決權限ヲ市令委員

會ニ委任スル事ヲ得ル事トセハ市制第
九條ノ規定ニ依リテ、且カレカレニ
府縣制第百九條第ニ項ノ規定ハ之ヲ
適用スルヲ得ル事トナリ不徹底ニ終
ルヲ以テ見小モ市制第百九條第ニ項
得ル事ト存ス

七地第ニ〇九号

大正七年七月八日

福島縣知事
内務省地方局長殿

縣稅戶數割等級賦課額ノ議決ニ府縣
制第九條第一項ニ依リ市町村會ニ委
任、又市會ニ於テ「更ニ之ヲ市會
ニ委任シ得ヘキ義ニ有之ニテ」府縣割
第九條第一項ニ依リ市町村會ニ於テ
一定期限内ニ其ノ議決ヲ為サントキ若シ不
適当ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣會
之ヲ改メヘルトアルヲ先ニ全然市會ノ議

決ニ限定セシムル精細ニシテ市會ニ於テ
任意ニ市會ニ委任シ得サルモノ、如
ク解セラレテ其ノ疑義相生候ニ付
御者ノ御意見ヲ承知致方此級及照
會候也

甲

京地 一三五
七六二

地方 藩

市町村課長 苗

呈仰

稿

参事官 河部潮山縣 齊吉

大藏大臣

次官 市來

主税局長 柴 勝

直接税指定ノ件

許可案

七六

京都府知事

大正七年六月十五日七夜第三二一號京請京
都府京都市特別税家屋税ノ直接税
ト爲スノ件稟申ノ通
年月日 西大臣

理由

本件「京都市カ從來建物ノ使用坪数並ニ
地位等級ノ課税標準トシテ建物ノ使用者
ニ對シ特別税ノ別割ヲ賦課シ又營利ノ目
的トスル法人ノ建物並市内ニ住所ヲ有セス又
三月以上滞在セサル者ノ使用スル建物ニ對
シ特別税建物税トシテ賦課シ来リタルモ本年三

月之ヲ改メテ家屋税ト爲シ家屋ノ所有者ニ賦課スルト共ニ家屋税ノ賦課ヲ受ケサル家屋ノ所有者ニ居住スル者ニ對シテハ課税ノ均衡ヲ得シメムク爲メ特別税戸別割ヲ賦課スルコトシ同條例ノ改正ヲ爲シタルヲ以テ今回家屋税ヲ新ニ直接税ニ指定スルモノニ有之適當ノ措置ト認メラレ候ニ付稟中ノ通一詮議相成可然尤モ戸別割ニ在テハ前述ノ如ク従前ノ戸別税ト其ノ内容ヲ異ニシ更ニ指定ヲ爲スニ非レバ直接税ト爲スヲ得サルモノ、如ク認メラレ、モ従前ノ戸別税ノ條例ノ改正ヲ爲シタルニ止リ廢止サレタルモノニ非ルヲ以テ曩ニ指定セラレタル直接税ノ税目ノ廢止ヲテ限リ尚其ノ效カアリ

ト爲スハ不當ニシテ京都府知事カ家屋税ヲ直接税ト爲スノ稟中ヲ爲シ戸別税ヲ除外セル之ヲ直接税ニ指定スルノ要キニ非スニテ曩ニ指定セラレタル直接税カ尚存續セルモノト解シタルノ結果ニ外ナラサルハシ依テ本件戸別税ニ對スル直接税ノ指定ハ其ノ效カテ存續セルモノト認メ家屋税ニ限リ本案相伺候

丙

長地 九八
七 七 七

地方

添田

市町村課長 山田
八七

近藤

照會案
年月日
長野縣知事 先
地方局長

御面啓 貴縣北佐久郡五郎兵衛新田村標記ノ件
ノ多クニ此別ノ有之候知田殿別割ノ地益
ノ別割ノ本質ニ屬シ別割百四條ノ不均一賦課
ニ該當セサルニ本件賦課ニ等差ヲ設クルニ
由書ノ記載ニ依リ水利ノ能否ニ依リ一等ニ
等ト区別セル趣即チ水利事業ノ為利益ヲ
妻ケルノ厚薄ニ依リ等差ヲ設テ賦課セン
トスルニト認メテ候事案果シテ然ルトキハ
別割百四條ノ不均一賦課ニ該當シ別割百
四十七條第ハ号ノ為郡長ノ許リヲ妻ケルニ
トイ要シ候次第ニ御取調相成度

第七七

別割ノ本質ニ屬シ別割百四條ノ不均一賦課
ニ該當セサルニ本件賦課ニ等差ヲ設クルニ
由書ノ記載ニ依リ水利ノ能否ニ依リ一等ニ
等ト区別セル趣即チ水利事業ノ為利益ヲ
妻ケルノ厚薄ニ依リ等差ヲ設テ賦課セン
トスルニト認メテ候事案果シテ然ルトキハ
別割百四條ノ不均一賦課ニ該當シ別割百
四十七條第ハ号ノ為郡長ノ許リヲ妻ケルニ
トイ要シ候次第ニ御取調相成度

白

乙

七

八三
地方

八五

添田

市町村課長出

小橋

行政訴訟事件ニ関スル證據調件

熊本縣知事内申

右「村會議員選舉」ノ效力ニ關スル
行政訴訟ニ付口頭審問開始ノ際行政裁
判所「原告訴訟代理人ノ申請ヲ容レ係争
投票リ書キタル者」ノ調査ヲ為シタル其ノ方
法秘密投票ノ制度ニ照シ妥當ナラザルコト

七八

ト思料スル旨申出タルニ有之候ハ共叙
上ノ如キ證據「從來其ノ例ナルノミナ
ズ行政裁判所「查致投票ニ付調査シタル
モノナレ」之ヲ以テ「秘密投票ノ制度ニ及
トシテ殊更吉者」ヲ交渉シタル程ノ事
無之相認候條別紙内申「此供保覽候

別紙畧

✓ 町
町
町

七九

鹿地 七五五
地方 八九十九

八
日比野属

市町村課長 出
府縣課長 出

通牒 案
年月日

局長
鹿兒島縣知事 先

村界變更之件ノ財産処分ノ件照會
標記ノ件ニ候シ客月十二日鹿兒島第一
号ノ以テ御回答ノ次第ニ有之候知財産

ノ従前ノ儘ニ為シ置ク場合ニ其旨奉事
會議決書ニ明記スルコトヲ要スル次第ニ付
將來御注意相成度

乙

形地 一六七

地方 廿三

濟用

市町村課長 苗
府縣課長 潮
救護課長 志山

事務官 阿部山縣 潮長 倉守 屋

電報索 (畧)

通牒案

年月日 地方局長

北海道廳長官
府縣知事 (除前) 宛

八〇

公民権ニ関スル件 通牒
標記ノ件ニ關シ山形縣知事ヨリ左記ノ通
同合有之候也御見込通ト存之旨及
答候為御参考及通牒候

今日米價暴騰故濟ノ為町村費ヲ以テ米ノ
低價販賣又ニ施米ヲ為シツ、有之候也右
ノ臨時之危急ノ一時的救濟ニ過キサルヲ以テ
其ノ販賣又ニ施米ヲ受ケタル者ト雖町村割
第七條第一項但書貧困ノ為ニ費ノ救助ヲ
受ケタル者ニ該當セズ從テ公民権ヲ喪ヒタル
義ト存セシレ候へ共聊疑義有之候奈至急
何分ノ御意見見示知致度

乙

兼地 一六一

七 八 廿一

地方

添田

市町村課長 山岡

小橋 参事官 阿部 齊藤 長谷川 堀切 守屋

市町村ノ設置分合又境界變更ヲ為シ
タル場合ニ於ケル選舉人名簿調製方
ニ関スル件

右ニ関シ事實問題トシテ京都市助役ヨリ問合
来リ候ニ付左ノ通取扱フコトニ決定相成候様
致度依テ本案相伺候

記

一 京都市ニ於テ今回執行スヘキ選舉手ニ用エル
選舉人名簿ニ登載スヘキ納税額ハ表ニ市
ニ編入セラレタル区域ノ公民ニ對シテハ編入セラレ
タル部分ニ於テ納メタル直接税ヲ以テ納税
額トシ尙従前市ニ納メタル直接税アルトキハ
之ヲ合算シテ掲クヘキモノトス
一 従来京都市ノ公民タル者ニ付テハ市ニ編入セラ
レタル部分ニ於ケル直接市税ノ納税額アルト
キハ之ヲ合算シテ記載シ多額納税ニ基
ク選舉手権ヲ有スル者ノ納税額ノ計算ハ
従前ノ京都市税及編入セラレタル部分ノ直
接市税ノ納税額ヲ通算シタルモノニシテトス

八十一

理由

一本件質問ノ要旨ハ本年四月京都市ニ於テ隣接
 町村ヲ編入シ今回事會議員ノ増員及補缺
 選舉ヲ執行スルニ當リ調製スヘキ選舉人名
 簿ノ納税額ニ編入町村ニ於テ多額納税ニ基
 シ選舉手権ヲ有シ市ニ於テ尚多額納税者
 タル場合並編入町村ノ公民ニシテ市ニ於テ引
 續キ直接税ヲ納ルル場合ニ編入町村及市
 ニ於テ納ルル直接税ヲ合算シテ登載スヘキ
 モノナルヤ否ヤト云フニアリ

一市制第九條第四項ニ於テ市公民ノ要件中其
 ノ年限ニ関スルモノハ市町村ノ廢置分令又境界
 界變更ノ為ノ中新ヒラレトモトナシトノ規定ハ

編入町村ニ於テ住所ヲ有スルノ事實、負擔分
 任ノ事實、納税ノ事實等市公民ノ要件ニ
 シテ年限ニ関スル事實ハ市ニ編入セラレタルカ為
 ノ消滅スルコトアリシテ依然其ノ存續ヲ認ム
 トスルモノニシテ編入町村ノ住民カ納メタル直接税
 ハ公民権ノ中新ヲ認メサリシ以上當然新ニ屬
 シタル市ノ選舉人名簿ニ登載スルコトヲ得ヘキ
 モ市公民カ從前編入町村ニ於テ納ルル直接税
 ハ市ニ編入セラレタルト同時ニ消滅スヘキモノニシ
 テ別ニ明文ナキ以上ハ之ヲ市ニ於テ納ルル直接
 税ト合算シテ登載スヘキモノニアラサルカク感ア
 レ共公民権ノ要件ノ中新ヲ認メサルノ規定ハ
 市制第九條第一項ノ要件ニ關スルモノニシテ

其負担分任、中新ヲ認ザルノ規定ハ市制第
十五條ノ選舉人ノ直接市税ノ納額ニ直接、
文庫アルモノニ非ス故ニ本間、場合直接市税、
現在ノ京都市内ニ於ケル納額ニ依ルカ之ニ關
シテハ第十五條ニ於テ直接市税ノ納額ヲ規
定シテ趣旨ニ基キテ之ヲ決スルノ外ナシ而シ
テ同條ノ直接市税納額ニ選舉人ノ階級ヲ
分別スルノ標準ニシテ直接市税納額ノ多
少ニ依リテ所屬ノ級ヲ定ムル趣旨ナルニ見レハ
選舉人ノ納額ハ同一体様ノモノヲ以テ其ノ多
少ヲ比較スルニ至當ニシテハ舊町村税ニ依リ
他ハ市税ニ依ルカ如キハ適切ナルモノト云テ得
ス故ニ今日ノ市内即チ從前ノ京都市及町村

ニ於ケル納額ヲ通算スルト同一ノ態様ヲ為スル
ナレハ之ニ依ルテ法ノ趣旨ニ適合スルモノト認メ
ルヲ得ス

然ルニ編入町村ニ於テ多額納税ニ基ク選舉
權ヲ有スル者ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界
變更ノ場合ニ於テ選舉權ヲ繼續スル
規定ナレハ新市町村ニ於テ其者ヲ從前ノ選
舉權ヲ存續スルヲ得ス
新市町村ニ於テ多額納税者タルモノハ選舉
權アルハ勿論ナルモ其者ノ納額ハ舊町村及
從前ノ市ノ納額ヲ通算シテ之ヲ定ムルキ
法令上ノ根拠ナシトノ説アルモ市制第十五條
ノ納額ニ付前述セル如ク新市内ニ於ケル旧

町村税ヲ合セタル額ニ依ルノ至高ナル以上ハ多額
納税者ノ資格ニ付テノ納税額モ亦之ト一
致セシムヘキハ當然ノ理ナリ

246

裏面白紙

町村編入の場合に於ては市會議員選舉人名簿調製に際し税額算定に關する疑義件大正七年四月一日隣接町村ヲ編入せる京都市に於て今年九月市會議員ノ増員及補缺選舉ヲ行フ為選舉人名簿ヲ調製せらるるに當り之レに記載すべき税額に關し左記事實に付疑義アリ

事實

一 元町村内に於ける法人(支店にシテ本店は東京市に在り)にシテ其町村内に於て多額納税(市別第一番系)に便する基に選舉權ヲ有せる者元京都市に於ても亦支店に有る多額納税者たるもの者

二 元町村に民にシテ元町村に納税し又京都市に納税せる者
右本年(月)調製する中選舉人名簿に掲記する税額に而して合算するに於て或るもの(例)に於て其ノ一ヲ掲ぐ(中)半

19

山地 七九二

地方

場

市町村長 九三

死

事務

戰病死軍人、葬儀、分葬、電報、田、

地方局長

山口縣知事、先、各市町村、狀、
戰病死軍人、葬儀、分葬、電報、田、
置、シ、メ、ラ、レ、タ、シ

八二

地第五〇六八号

大正七年八月三十日

山形縣知事 中川 望
内務省地方局長 添田 毅 一 郎 殿

戰病死軍人ノ葬儀ヲ市町村ニ於テ

執行スルノ件

西比利亞派遣軍隊戦死者ノ葬儀ヲ市町村
村ノ中葬トシテ執行方師團長ヲ協議
有之候知有之支障無之義ニ可有之哉
差掛リ候義ニ付折返シ電報請示
相政府

何

倉

二六

七

地方

添

九十

市所村課長
田
故護課長
長

大分縣電報案

出征軍人遺族救護ハ、本署救護ニ依ラシメ
可然、戦死者葬儀ハ、市町村ノ状況ニ依リ
又将来ノコトヲモテ考慮シ、適宜措置セシメ
ラシム

大分縣知事
地方局長

第八三號

地第三七五九号

大正五年 九月 五日

大分縣知事

内務省地方局長殿

市町村費ヲ以テ出征軍人遺家族ヲ救護
扶助シ又ハ戦死者ノ葬儀ヲ執行スルノ
件ニ関シ第十二師團司令部等ノ協議
ノ次第ニ有之候 延在ニ市町村ノ兵事務ノ
範圍ニ属スル事ナリ也 否ヤニ付 疑義ノ具
有之候間 貴省ノ御意見ヲ乞フ事トシテ
相成ル

内

乙

文地 一三
七八廿一

地方

係田

市町村課長 出
府縣課長 朝

稿

内翰案

擇啓陳者、小島子校教科書中自治、訓令件
修正意見定本年七月二十日及御回報置矣如
真等、小島子修身書第三學年、因第五課地方
團體第一項中、地方團體は階級あり以下、
適当なり、心附候向別紙朱書、抄書、
修正相成、稟致度此段得貴意候、致具

年月。

内務次官

文部次官 亥

第五課 地方團體

地方團體とは國家行政の便宜の爲に法律

を以て地方を區劃し其の住民として地方公共

の事務を自治せしむるものをいふ。地方團體

は府縣郡市町村の別あり。府縣の區域は郡
又は階級あり下級の團體集合して更に上
市及び島嶼を包括し郡の區域は町村を
級の團體を成す。最下級は市町村あり。若干
を包括す。市町村は共に最下級の地方團體
の町村は合して郡をなし若干の郡及び市

裏面あり

なり。府縣は内務大臣之と監督し郡市は
は令し、府縣を成す。而して上下の階級は
府縣知事、内務大臣、町村は郡長、府縣知事
監督の系統を命令のなり。内務大臣之と監督す。

九十三
 府縣課長
 市町村課長
 地方 審
 七六六
 七二二

協
 警備局長
 山本局長
 久事局長
 河津局長
 佐守局長

案
 年月日
 千葉縣知事 宛
 局長

第八五

大正七年度豫算呈請事會議決
 事件ニ関スル件通牒
 豫記ノ件ニ関シテ左記事項中考慮相成度
 者第六項以下ニ付テハ何分ノ清冊報相成度

記

四月九日為第一二〇号報告中 縣長ノ議第
 十三号ヲ以テ特例會計輕便鐵道豫算
 内ノ支費ノ為十萬五千圓ノ内ノ一時借入金
 ヲ為スルヲ附議相成居候得共元來一
 時借入金ニ必要ニ爲シ其ノ都度支事會
 ノ議決ヲ受ケ中筋ノ之ノ有之本件ノ如ク
 豫ノ其ノ最高額ヲ定メ議決セシメ置ク

カ如キハ不可然義ニ有之矣條將來清注
查相成度

二 今日報告縣會議第十二号ノ如ク特別會計
ニ於テ軍ニ一般會計ニ属スル在聲金ヲ運用
スルニ過キケルモノハ一時借入金トシテ附議ス
ヘキモノニ無之テ軍係市注金相成度
三 一般會計ト特別會計トノ間ニ於テ歳入歳出豫
算ニ於テ軍ニ属スル現金ヲ夫互ニ一時繰替
使用スルハ明治三十三年内務省令第七號附
縣制郡制ニ依ル貴目流用並ニ財務ニ関スル
件第廿四條ニ依リ知事ニ於テ特別ニ之ヲ規
定スル場合ニ於テハ特別然ラサルハ其他ノ會
計ニ属スル歳入出現金ノ繰替使用ヲ為スルハ

不可然義ト存スルモノ如此然レハ之ヲ設クルモノハ
狀ニテ查シテ為起スルノ慮ニ非能サルヲ以テ
特ニ慎重ノ考慮ヲ要スル義ト存ス

四 四月三十日府第一三三〇號報告大正七年度追
加豫算漁港修築費支多方法内譯書
一ニ依リ歳入臨時部第三款ニ計上スル
寄附金四萬圓ハ之ヲ四年一度ニ分割支出セ
ケトスル計畫ニ有之矣但本該年度度ニ於テ
收納スル寄附金存スルニ不恰之ヲ使用スル
ニ過次繰替ヲ為シ他方ニ於テ財源ノ一部
ヲ之ニ割割ニホルカ如キハ妥當ナラサル義ニ有
之候條縣財政上格段ノ事由ニ限リ來
年度以降ノ財政計畫相背違背相成度

五、歳出臨時部第四款所付土木補助費ニ付リハ
 大正六年七月共第五三三号土木向長通牒通
 書ニ依リテ道路橋梁費補助、内家リ明ニ
 スルヲ要スルハ第一件備考ニ路線名工
 費及補助額記載方請注意相成度
 六、歳出臨時部第四款勸業費中、標準
 未考査之費委員、子由旅費等ノ計
 上ノ二名委員、但歳権限誤置ノ理由中
 回報相成度
 七、三月三十一日、第六八二号報告縣會議第二
 号、歳出臨時部第一款警務、徳金、建築
 費、計之、國庫下海金計上ノ中、理由、是、知
 紅、印、受

第百三十三号

卷七 二五 四

地方 留

市町村課長 留

入藏大臣

次官

主税局長 課長

若手務 回答案 (略)

通牒案

年月日

地方局長 税局長

各府縣知事 先 (除北海道中俣卷)

市町村督送手数料 一年依余通牒
明治三十九年七月三十一日内務省秘甲第六八
號 三省法廷通牒中 督送手数料 一項三
脚夫より之 場合 其ノ 里程ニ 相成レ 里毎ニ
全拾錢 以内ノ 徴收スルノ 得ルニ 相成レ 里毎ニ
知物價騰貴等ノ 爲 脚夫ノ 雇入 困難ナル
等 特別ノ 事情ニ 市町村ニ 向テ 一里毎ニ 全
貳拾錢 以内ノ 徴收スルニ 許可セラルルニ 旨
ノ 決定ニ 決意ス 間 津乘知 相成度 其ノ 許

可^レ付^レル^レ別^レ紙^レ報^レ告^レノ^レ要^レ旨^レ候

258

裏
面
白
紙

第四九九号

内務省地方局長殿
岩手縣知事

督送手教科料額ニ関スル件

管內所村ニ於テハ督送手教科料條文中不
備ノ點正而ニ於テ改訂シテ從シ置矣其
内ノ許可ヲ而結シ来リタルモノ、中督送狀
一通ニ付金拾錢入、金貳拾錢、手教科料
徴収スルノ外、其ノ所村以外ニ在ル帶納者ニ
於テ脚天ノ以テ督送狀ヲ送達スル場合ニ
於テ上カ産入ノ諸物價騰貴其ノ他已
得ル事情ノ在ルモノ一里拾錢以少

額ニテ到底應ル者否之状況有之此ノ
如キ場合ニ在ルモノ其ノ教科料額ヲ貳拾錢以
内ニ於テ規定セシメ許可トシ其ノ都度報告
致シ可然、裁ニ候、其内示リ得度、以三
十一年、内務省秘甲第六号通牒ノ次第
ニテ之ヲ裁及詢問可候也

福地第五一号 七、九、十、
七地第三四四二号

大正七年九月十七日

福島縣知事

内務省地方局長殿

去ル七月三十一日福地第五一號ヲ以テ管下共立
福島病院組合費ノ賦課徴収事務ヲ組合
区域内安達伊達兩郡長ニ委託スルニ付
御照會ノ趣了彙右ノ左記ノ事情ニ有テ
候奈此般及回答候也

一賦課徴収事務ヲ伊達安達兩郡長ニ委託スル
法令ノ根據

第八七

右ノ共立福島病院組合ノ前身タリレニ郡共立
福島病院組合當時ニ於テハ伊達安達兩郡
長ニ對シテ次項ニ掲クル事務ヲ委託スル外組合
ノ會議ニ列シテ議事ヲ辨明セシメ又管理郡
長事故アルトキハ管理者ニ代リテ議長ノ職務ヲ
行ハシムル等ノ規程アリレモ過般之ヲ市町村組
合ト改ムルニ際シテハ此等ノ條項ヲ削除シタル
義ニ付テ候如斯該組合ノ創始以來關係
郡長ニ事務ヲ委託シテ來ル慣行ハ牢固ナル
モノニシテ為ニ組合ノ事務處理ニ幾多ノ便益
ヲ有シ且之ヲ發達シテ阻礙スルノ慮ナキヲ以テ
是等事務現行規約第九條參看一組合費
分賦徴収ニ關スル事務(現行規約第四十四條第

一項を看)ハ勿論其他必要ト認めル事務現
行規約第四十四條第二項を省(等)之ヲ従前
ノ通り而郡長ニ委任スル義ニ付之要之徑未
利益ナリシ慣行ナレバ以テ強ク之ヲ排除ス
ルノ不可ナリヲ認メ該規約ヲ許可シタル義ニ有
之候

ニ取扱フ事務ノ種類

- (一) 組合費分賦額徴収ニ関スル事務
- (二) 組合會議員選舉ニ関スル事務
- (三) 組合費分賦額決議ノ基礎トナルハキ其郡
内組合町村ノ現在戸数調(年一回)
- (四) 病院改善ノ經營ノ改善具ノ他ノ重要事
務ニ関シ意見ヲ徴シ又ハ協議スルコト

(五) 組合ノ設置及規約ノ協議等町村會ノ決
議ヲ要スヘキ事件ニ関シ之カ取纏メ方
ヲ委任スルコト

(六) 病院事務一般ノ状況及組合諸規程
等組合町村一般ニ周知徹底方ヲ委託
スルコト

ニ事務取扱ノ決定メタル規程類
右ニ關シ規程等別般無之候ト爲念ニ考
別冊規約一部添付致候

第三福島病院組合規則 (抄)

第十四條 組合會議員ノ選擧ニ關シテハ選擧長ヲ郡市長ニ選擧管理ヲ町村長ニ委託ス

第三十九條 組合會ノ議長ハ組合管理者トシ組合管理者故障アルトキハ出席議員中ヨリ臨時ニ議長ヲ選出スル

組合管理者ノ委託又ハ囑託ヲ受ケル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第四十條 組合費ノ賦額徴收ニ關スル事務ハ關係部長ニシテ委託ス
前項ノ外必要ト認レル事務ニシテ關係部長

ニ委託スルコトヲ得

内

福地 五一
七 七廿六

地方 情

七廿一
市町村深長南

深長南

照会案

年月日 局 長

市町村組合総業部 照会

本月二十七日地第三四四二号ノ以テ其ノ主
福地山病院掲記ノ件ノ由各府縣ノ官署
照会ヲ付記各府縣ノ照会ノ内
伊達 安達 西郡 共ニ 委託スルハ 其ノ内

法令ノ根據ニ基テ 裁クニ 宜シキ 裁 其ノ取次
ノ事 務ノ 種類 異 形 多 形 多
退ノ 事 務 形 種 異 形 多 形 多
ノ 旨 字 字 字 字 字 字 字 字

裏面白紙

地
菱甲第四〇號

大正七年九月十九日

添田内務省地方局長

縣知事殿

市町村吏員給料手当ニ昇ル件照會
市町村ニ於テ近時物價騰貴ニ伴ヒ其吏員ニ對シ特ニ増俸若クハ手当ヲ支給シタル状況至急承知致度茲彙別紙様式ニ依リ調査之折返之由回状取事度

第八八

第一表

市区吏員増俸(手當)支給請

何 区	何 市	何 市	何 市
		金額	人員
			一割迄
			二割迄
			三割迄
			四割迄
			五割迄
			五割以上

第二表

町村吏員増俸(手當)支給請

金額	吏員数	町村数	一割迄	二割迄	三割迄	四割迄	五割迄	五割以上
二一〇.〇	三五人	五						
"	"	"						
"	"	"						
"	"	"						
"	"	"						
"	"	"						
"	"	"						

備考

- 一、本表ハ大正七年九月迄ニ物價騰貴ヲ理由トシテ市区町村吏員ノ増俸若クハ手當ヲ支給シタル事ニ依リ調査スルモノトス
- 二、増俸ト手當ハ各別ニ調査シテ表トスル事増俸ノ上手當ヲ支給シタルモノハ各相違ニ朱書ノコト
- 三、教次ニ増俸又ハ手當ヲ支給シタルモノハ現在迄ヲ通算シテ各相違ニ記載ノコト
- 四、金額ハ便宜上年額ニ換算シテ記載スルコト
- 五、何割トハ月俸ニ對スル増俸若クハ手當ノ支給割合ヲ指ス
- 六、支給セザル市名及町村数ハ其吏員数トモ備考ニ記載ノコト

大正七年九月十六日

施行九月廿三日

主査

渡邊

會計課長 山縣
地方局長 添田
市町村課長 岡

第 第

年月日

會計課長

奈良縣知事

徵兵課長 渡邊 給方 閣下 件 回答
九月十三日 作 令 第 三 六 六 一 号 以 上 追 會 相
成 候 徵 兵 課 長 渡 邊 二 間 之 件 一 一 請 見 込

八九

通下存候

會第ニ六六一號
 徵兵旅費ハ八止ニ年勅令第ニ十五号及同
 年ニ由務省令第ニ五号ニ依リ市町村又ハ之
 ニ準テハキニシテ一時繰替支辨ニシテ
 答ニ候迄茲ニ市町村ニ於テ検査旅費ノ繰
 替抑リ妻ケスレテ検査リヨリシル者有之
 右ハ繰替辨リ要スルノ事矣遺憾セルヲ
 以テ大正五年二月由務省和地第ニ十五号
 通牒ノ例ニ準レ本人ヲシテ地方ニ禮仕科
 ノ請ボク為サシテ可然義ニ候成沛意
 具テ示知致度此致及照會候也

大正七年九月十一日

奈良縣知事 木田川金彦

内務省官舎會中証長山縣治部殿

乙

卷七 四一三 九六 地方

窪田

市町長 尾山 尾山

少務

年月日 地方局長 (親長) 廣島縣知事 先

市監督 閣下 通牒

最ニ貴管内尾道福山両市、行政事務視察トシテ出張セシメタル本省屬官ノ後令ニ依リ、両市トモ一旦招集セラルル市令ニ容

九〇

易ニ閉会ス議案ノ一部分未了ノ後、休会シ後更ニ其ノ會議ヲ開キタル場合ニ於テ市長ハ市制第五十一條第四項ノ規定ニ依リ其開會中ノ會議ニ新ナル事件ヲ附議シ市令ニ入具ノ議件ノ一部分未了ノ後休会スル例ニ有之新ノ如キ事件ノ繰返ス為ノ市令ニ常ニ採集中ノ状態ニ在リ現ニ尾道市会ノ如キハ大正六年十月五日招集シタル後今更ニ其ノ續開會中ニ於テ如キハ其ノ精神ニ反シ適當ナラズト被存候ニ件可成會期ヲ定メテ招集セシムルカ或ハ其ノ他適當ノ方法ヲ講シ以テ之等ノ弊ヲ凡シ改善セシムラレ度尚監督上ノ御参考

268

造紙(市役所事務中注意ヲ要スル事項)
及滞留件(條尚事務実滞調査ノ上相当
滞措置相成度)

(別紙) 續令書中 事務成績ノ次ニ於テハ
左記ヲ揚ルルコトス

尾道市

一 何々 (1)乃至(10)ノ内(12)ヲ除キ記載スル

福山市

一 何々 (1)乃至(20)ノ内(13)及(16)ヲ除キ記載スル

付

乙

七十一

地方 審

十四
市町村課長 出

務

道 牒 案

年月日

地方局長

北海道廳長官 府務課長 宛
秘書長

市町村吏員之給與ノ件ニ
關シテ
令 通 牒

市町村有給吏員ノ給料ハ從來概シテ低
キニ過キ有為有能ノ士アリシ其ノ職ニ安シセ
シルヲ得ルノ傾向アルハ遺憾トスル所ニ有之
殊ニ近時諸物價ノ暴騰ニ由リ各地概シテ
前ノ給料額ニ窮乏シテ感々ノ實況ニ
有之既ニ政府ニ於テ官吏ノ給シテ且時手
當支給ノ途ヲ開ケルニ見ルモ此際市町村ノ
有給吏員ニ對シテモ相當増給又ハ手当給與ハ
尤為ニ相宜ナリ且ツ得タルト思科故
候貴官下市町村ニ對シテハ各其ノ實
況ニ照シ既ニ夫ノ請願ノ事ト存候得共
此ノ際特ニ適當ノ方法ヲ講シ吏員ラシテ
各自其ノ職務ニ精勵シ主務阻滯ヲ来

九一

サレノサル様御配意相成度
通シ九月十九日並段甲第四〇号照會市ニ付所
村吏負給料 手当ニ関スル件ハ月下御調
査中ニ可成之候得共右ニ急遽御回報
相成度(尚別紙北海道廳長官報告書
字貴官限リ御参考)ト迄ニ及御送付候)

注意 北海道廳長官ニ付孤ヲ除ク

字 秘

大正七年九月二十五日

北海道廳長官

内務大臣殿

管下渡島國茅部郡森村後場奥等一ノ村長ノ除ノ
同盟ニ本月十七日村長ニ宛テ現俸給ニ對シ平均五
割充ノ増俸ノ外ニ毎月三割充ノ臨時手取ヲ給與
シラシムコトノ陳情書ヲ提出セリ而シテ若シ容レラレ
ルニ連袖職セム意氣未込ナル模様ナリ村長及議
員間ニ於テハ均ニ目ノ其ノ措置ニ件協議中ナルヲ統
一ノ其ノ要索ヲ容ルニ至ルヘク現在令後場奥ハ九
割ニテ其ノ俸給最高二十四圓最低十六圓ナリ。

葦池 一九三 十
七 九 三
地方 三 番
市町村課長 留

文書課長 齋藤

大藏大臣 次官

主税局長 榎本
国税課長 勝

市區町村水利組合等、課税及特別税
使用料手数料條例裁令書式、件

九二

- 一、制限外課税、場合 (別紙第一例)
 - 二、全上ト及別割條例ト併シ、許ス場合 (別紙第二例)
 - 三、特別税使用料手数料條例、場合 (別紙第三例)
- 右別紙、通改ノラレ可然乎

理由

課税裁別割其、他特別税使用料手数料
條例ノ裁令文ニ一般書式ニ依ラズ特ニ別紙ノ
通決定相成居候處別紙理由中ニ付テハ
市町村ト市町村組合ト町村組合ト地方税割
限ニ對シテ法ノ適用ニ付テハ之ヲ一團体ト見
做スノ例ナリト雖モ課税ノ執行ニ付テハ各獨立
レテ之カ主体トナルヲ得ルモノアレハ事件ヲ上宗

請セル團體名ヲ前書スルニ別ニ不都合ナクニ
テハ市區町村ノ一部ノ課税ニ在リテハ其ノ一部
ハ課税権ノ主体ニ在ラサレハ課税権ノ主体タ
ル市區町村名ヲ前書シ可然且市制町村制
ニ於テハ許可ハ市町村會ノ議決ニ付シテ之ヲ
爲スノ規定アリシモ現行市制町村制ハ事件
ニ付シ許可スルモトニ改正セラレタルヲ以テ特ニ
議決機関ヲ裁令文中ニ記載スルノ要ヲ見ス
而シテ議決機関ヲ指シテ文中ニ表示セスシテ
其ノ前行ニ團體名ヲ記載スル方事務処理
上簡便ナルヲ以テ第一第二例ノ如ク通改メ
出特別税使用料手数料條例ノ裁令文中
右ニ準シ第一例ノ通改ルルヲ適當ト認ム

依テ本案ノ通相可矣

要函

課税何年何月何日

何地第何號

立案何年何月何日

丙

市町村課長	大正何年何月何日何身何號及何身何號請段別割	許可案
地方局長	(江道) 何所(市三) 何所 (村)	
出務大臣	大正何年何月何日何身何號及何身何號請段別割	
次官	二箇之條例並大正何年何月何日(大正何年何月何日)	
人藏大臣	段別割地租(官費) (所得税) (附稅別課外課税)	
次官	件(條例) (通文正) (別課外課税) (大正何年何月何日)	
主税局長	何身何月何日何身何號(限) 許可	
國稅課長	年月日 大藏大臣	

記帳 日 日 印

第ニ例

用紙美濃紙半載

注意

一 段別割條例、制限外課税、ヲ付テ許スルモノニ在リテハ本例ニ依ル

二 北海道ニ於テ村ノ段別割ニ在リテハ本例ニ依リテ段別割新設

(變更) 並大正何年何月何日(大正何年何月何日) 段別割

制限外課税ノ件、トシテ示スルモノ

要目

課税何年度間

何地等何簿

三葉何年何月何日

記帳日

印

用紙美濃紙半裁

三葉三例

許可書

北海道 何郡(市)何町(村)

大正何年何月何日何葉何號何葉請何之使用料

何之稅(三葉)何條例ノ件(右通)更ニ

許可書

年月日

山縣西大

大藏大臣

次官

主税局長

國稅課長

丙

カ

姓高
七
二〇
地方
七
救護課長
松田
山

市町村課長
山

年月日
回答案
地方局長
岐阜縣知事宛

軍人後援事業費補助金件四答
本月一日地第五八七一號標記件請照合
ノ趣了義存三及三ノ系卜存候

合

收事録知事 康五木小五郎
内務省地方局長 添田敏一郎 殿

地第五八七一號 大正七年十月一日

軍人後援事業費補助ノ件

今回、舊軍人家族ノ慰藉政護、爲
金品ノ給與若シテ事務ノ扶助ヲ爲シ、舊軍
軍人ノ三後顧ノ憂ヲカラシム其ノ士氣ヲ
鼓舞シ且地方生産力ノ減退ヲ防止スルノ
趣有リ以テ各市町村ニ軍人後援會若クハ高
村會ヲ設ケテ之カ活動ヲ計リ以テ而シ
テ其ノ費用ノ多クハ有志ノ寄附金ヲ以テ充

テ方役ノ如キハ至郷軍人、青年會員及其ノ他
隣保ノ情誼ニ依リ扶助ノ實ヲ舉グル方針
ナルニ寄附金ノ以テ後援ノ目的ヲ達シ難
ク不得止現今ニ該事業費ノ計レ市町
村經濟ノ許ス範圍ニ於テハ費用ヲ次テ補助
スルニ着手ス之ニ其裁減意見見示知致度
以候照會候也

進テ自治ニ難キヲ軍政政務性ノ適用ヲ
受リキモ戸籍上ノ關係等ニ依リ同法ノ適用ヲ
受リル所能ハルモノカ之ニ是等ノ者ニ對シ市
町村費ヲ以テ貧民トシテ扶助、遂リト雜費
際可成扶助ノ名義ヲ避ケ且ツ其分其ノ各
範圍ヲ擴張シ後援ノ目的ヲ達スルノ趣

音・懐原武敏中添矣

280

裏面白紙

向

七^地五^{九一}廿^四

地方 市町村課長 郎

五^五尾^光戸^屬

照會案

年月日 地方局長 廣島縣知事 宛

一各府止、上、知事、
七年五月十九日
付中答

第九四號

貴縣佐伯郡大竹町由見村組合稟請標
託、件、縣、稅、戶、教、割、賦、課、等、級、ヲ、標、準、
産案使用料條例、件、照會

ト、レ、ヲ、使、用、料、ニ、差、等、ヲ、設、ク、ル、カ、如、キ、ハ、
不、可、然、義、ニ、由、考、セ、ル、ヲ、シ、度、(書、類、邊、
表、)

乙

時地衛 七三八
 衛生 二五
 杉山
 六六
 保健課長齋藤

事務 長官 朝山縣堀切守屋
 地方局長 添田 次田

水道條例適用ニ関シ回答案

内務省第 號
 年月日
 長崎縣 衛生局長 知事宛

第九五號

水道條例適用ニ関シ回答

本年三月十四日付土第凡四三號ヲ以テ標記ノ
 件ニ關シ御照會ノ趣ヲ承右ニ現在ノ
 施設ニ對スル修補ハ勿論増設ト雖改
 長官ノ水道條例第八條ニ依リ之ヲ市町
 村ニ命スヘキ儀ニ候條右様御義知相
 成度
 追テ本文ニ依リ命セラルヘキ事項ニ付テハ
 豫メ稟同相成候様致度為念申添候

理由
 水道條例第八條、其ノ布設工事中ナルト

既設タルトヲ問ハス検査ノ結果其ノ改善
修理ヲ要シ又ハ水管不良水量不足ナリト認
メタルトキハ地方長官ハ之ヲ改良ヲ當該市
町村ニ命スヘキニトシ規定シタルモノト解セラル
地方衛生會ハ明治三十六年四月一日廢止ニ尚ホ
遺書ニ付テハ本件ノ如キ水道條例第三條
ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ要セサルモノニアリテハ
水道ノ設備其他ニ關シ統一ヲ缺ク嫌アル
ニ依リ一應稟向セシメ其統一ヲ期スル
ニアリ

土第九四三號

大正七年三月十四日

長崎縣知事 島田剛太郎
内務省衛生局長 杉山四五郎殿

水道條例適用ニ関シ照會

市町村カ經營セシル既設ノ水道ニシテ水量不足ノ場合新ニ水道源池ヲ増設スルニアキラハ改良ノ目的ヲ達シ得サルモノト認ムルトキハ水道條例第八條ニ依リ之ヲ令ニ得ヘキ儀ナル中或ハ令條ニ現在ノ施設ニ對シ修補ヲ為ス場合ニ限リ新ニ水源池ヲ増設スルノ必要アルトキハ同條例第三十一條ニ依ルヘキモノ

ナラスヤトノ疑義有之候存何分ノ御意見
承知致度候也

第...
九六號

九六號

七五〇

地方

市町村課長官

親伯

通牒案

年月

青森縣知事宛
地方局長

弘前市大正五年度決算不認定事件

貴縣弘前市標記、件御回答、次第有之矣

處右の滞納者所在不明ノ為ノ滞納処分、
執行ヲ中止シタル趣ニ矣得共滞納処分執
行、中止ハ國稅徴収法第十二條ニ該當スル
場合ニシテ滞納者所在不明ノ故ヲ以テ直
ニ缺損処分ト為シタルハ適當ノ措置トシテ
之ト被存矣希其旨請示達得未注意
セシナラレ、度

乙
九
七

乙

高
七
二
七

九
三
五

地方

市町村課長
府縣課長
潮

為
冬
事
官
所
報
喉
切
守
屋

回
答
案

年
月
日

局
長

唐
島
縣
知
事
宛

請
負
關
係
二
件
疑
義
再
回
答

九
月
十
八
日
附
縣
第
三
〇
六
八
號
ヲ
以
テ
御
照
會

相
成
候
標
記
ノ
件
御
見
込
ノ
通
ト
存
矣

九
七
號

理由

別紙規程第三條第一項第三條第一項ノ規定ニ
 基スルニ米穀商ハ市ニ於テ施行スル廉賣及施米
 事務ノ一部ヲ其ノ委託ニ依リ処理スルモノニシテ
 其ノ法律關係ハ民法上ノ委任ト認メラル
 但レ第三條第一項ニテ廉賣、施米及賣買費賣
 渡ニ充ツヘキ外國米ハ市ニ於テ購入シ賣買費ヲ生
 シ市内米穀商ニ交付スルコトアリ此ノ規定ニ依
 リテ若シ賣買ニ依リ米ノ所有權ヲ移轉スル
 ノ趣旨アリトスレバ本問ニ於ケル兩者ノ關係ハ目
 的物ヲ特定スル者ニ轉賣スルニトシテ對シテ市
 リ手教料ヲ拂フコト等ヲ附帶ノ條件トス
 ル一種ノ賣買契約ト見ルヘシ又米屋ノ所

有ニ係ル内地米ヲ廉賣セシムルハ第三條ノ為ニシ
 契約ト見ルヘシ
 何レニシテモ本件ハ請負ト認メラレズ且市ニ對シ
 請負ヲ為ス者ニ被送譽確ヲ与ヘサル法ノ精神
 下見ルニ事實上ヨリ、目的ヲモ寧ロ非常ノ
 場合ニ於ケル市ノ救済施設ヲ補助セルモノト
 見ルヘキ者ニ對シ被送譽確ヲ与ヘサル理由ナキ
 以テ本文ニ連相向矣

縣第三〇六八號

大正七年九月十八日

廣島縣知事

地方局長殿

請負關係ニ件疑義、件問合

縣下尾道市ニ於テ米價暴騰ニ因ル困窮者救濟ノ趣旨ヲ以テ本月一日ヨリ別紙規程ニ依リ米ノ廉賣施米及實費賣渡ヲ開始シテ續キ施行中ニ有之候其方法ハ同市ニ於テ買入レタル外國米ヲ代金(原價ニ運送費ヲ加テ)引替ヲ以テ米商ニ交付シ米商ハ之ヲ市ノ交付シタル米券所持者ニ限リ廉賣シ施米シ

或ハ實費ヲ以テ賣渡シ市ハ其取扱教量ニ應シ補給金及手数料等ヲ交付スル次第ニテ右ハ市制第十八條ノ所謂請負ニ該當セサルモノト認テ得共疑義有之矣各至急御意見承知致度也

尾道市米廉賣、施米及實費賣渡

取成規程

第一條 本市内居住者ニ市長ニ於テ外國米ノ

廉賣券施米券及購買券ヲ交付ス

第二條 前條ノ施米券ヲ所持スル者ニ無代

施與シ廉賣券ヲ所持スル者ニ一升ニ付金

十五錢 購買券ヲ所持スル者ニ實費(米穀

商取扱手数料)合シテ以テ賣渡スモノトス

前項ノ外國米缺乏ニシタル場合ニ内國米ヲ以

テ之ヲ補充ス此ノ場合ニ於テ廉賣券

所持者ニ限り一升ニ付金五錢ヲ補充ス

第三條 第一條ノ廉賣施米及實費賣渡ニ市

内ニ於ケル米穀商ヲシテ之ヲ取扱ハシム

廉賣、施米及實費施米賣出ニ充ツキ外

國米ニ市ニ於テ購入シ實費ヲ出シ市内米

穀商ニ交付スルモノトス

第四條 前條ニ依リ廉賣券ハ施米ヲ爲シタル米穀

商ニ付シテ且ノ取扱數量ニ右ノ區別ニ

相當スル金額ヲ交付ス

一 廉賣補充金 外國米ハ第三條ニ依リ出倉シ

タル價格ト廉賣價格トノ差金 内國米ハ一石ニ

一 施米補償金 第三條ニ依リ徵收シタル價

額ニ相當スル金額

一 外國米取扱手数料 一石ニ付一月以下ノ範圍内ニ

於テ市長ノ定ムル金額

購買券所持者ニ對シテ取扱手数料ハ米穀

商ヲシテ直接ニ市長所定ノ金額ヲ取立シム
 第五條 米穀商ニ依リ交付ヲ受ケタル外國
 米ニ購買券、廉賣券若クハ施米券ヲ所
 持セサル者ニ賣渡又ハ讓渡スルニ得ス
 第六條 廉賣券、施米券及購買券ヲ交付ス
 ル者ノ範圍及一人一日ノ米量ハ適宜市長
 之ヲ定ム

乙

東地三二一
七十四

地方

添田

十月十四日
市町村課長 苗

力務

許可案

東京府知事

大正七年九月二十日午
請旨興財務課算式及費目流用其
他其地財務課之
可人
他其地財務課之
可人

內務大臣

九八號

島嶼町村豫算式費目流用其ノ他

財務規程

沖繩縣及島嶼町村制第八十三條ニ依リ町村豫算ノ式費目流用其ノ他財務ニ関スル規程左ノ通定ス

本令ハ大正八年度了了之ヲ施行ス

明治四十一年三月東京府令第四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

年月日

知事

町村豫算ノ式費目流用其ノ他財務ニ関スル規程

第一條 歳入ノ豫算ハ第一號書式ニ依リ之ヲ調

制スヘシ 特別會計ニ属スル歳入ノ豫算亦同シ

第二條 繼續費ノ年期及支考方法ハ第三號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條 豫算ハ町村會ノ議決ヲ經テ直ニ之ヲ島司ニ報告シ且一定ノ形式ニ依リ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第四條 町村會ハ豫算ヲ議決シタルトキハ

町村長ヲ具シ豫算ノ收入税ニ支拂フヘシ

第五條 町村税其ノ他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ノ豫算ヲ編

入スヘシ

第六條 各年度ニテ決定シタル歳入ヲ以テ他ノ

年度ニ属スル歳入ニ充ツルコトヲ得ス
 第七條 歳入ノ年度所屬左ノ区分ニ依リ
 一 町村規則又ハ豫メ町村會ノ議決シテ
 納期ヲ定メタル收入ニ具シ、納期初日ノ属
 スル年度

二 定期ニ賦課セルコトヲ得ケルカ爲テ納期
 ヲ定メタル收入又ハ隨時ノ收入ニシテ徵稅
 令書又ハ納親告知書ヲ發シタルモノハ徵稅
 令書又ハ納親告知書ヲ發シタル日ノ属ス
 ル年度

三 交付金、補助金、繰入金並ニ公債ハ豫算ノ
 属スル年度
 四 隨時ノ收入ニシテ納親告知書ヲ發セザル

第八條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ区分ニ依リ

一 費用、辦償類、給料、旅費、退隱料、
 退職給與金、死亡給與金、遺族扶助
 料、其他ノ給與、借入料、類ニ具シ、支給ス
 レキ事業、生シタル時ノ属スル年度但別
 ニ定メタル支拂期日アルトキハ具ノ支拂期
 日ノ属スル年度
 二 通信運搬費、土木建築費、其他物件ノ
 購入ノ價ノ類ハ契約履行ノ爲ニシタル時
 ノ属スル年度但契約ニ依リ定メタル支払
 期アルトキハ具ノ支拂期日ノ属スル年度
 三 缺損補償ニ具シ、補償ノ決定ヲ為シタル

日ノ属スル年度

四、前各條ニ掲ケルモノヲ除ク外ニ總テ支拂
金トシテ取扱ハレシムル日ノ属スル年度

第九條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘スルモノハ
翌年度ノ歳入ニ編入スルニ付、但シ町村規則
ノ規定ニ又ニ町村會ノ議決ニ依リ剩餘金ノ
全部又ハ一部ヲ基本財産若クハ積立金ニ
編入スル場合ニ於テハ豫然テ要セス之ヲ支
出スル為メトシ得

第十條 町村税ハ其稅令書ニ依リ使用料、自
教科及物件ノ賃貸料、納税歩知書ニ
依リ之ヲ徴収ス
前項以外ノ收入ハ納付書ニ依リ收入ス若シ

納付書ニ依リ難キ場合ニハ收入命令書ニ
依リ

第十一條 支出ノ債主ニ對スルニ非サレバ之ヲ為
スベトシ得

第十二條 左ノ經費ハ現金前度ヲ為スベトシ
得

- 一、町村債ノ元利支拂
- 二、町村外遠隔ノ地ニ於テ支拂リ必要トスル
經費

三、前項ノ現金前度ハ町村吏員以外ノ者
ニ之ヲ為スベトシ得

第十三條 左ノ經費ハ概算書ノ為メトシ得
一、該費

二 許諾費用

第十四條 官款其他前金支拂ニ非レハ借入又ハ借入ノ契約ヲ為シ難キモノニ限リ前金私ヲ為スコトヲ得

第十五條 歳入ノ誤納過納ト為リタル金額ハ各之ヲ収入シタル歳入ヨリ支拂フヘシ

第十六條 歳出ノ誤拂過度ト為リタル金額現金前渡前金拂概算拂及繰替拂込納各之ヲ支拂フル經費ノ之ノ額ニ戻入スヘシ

第十七條 出納閉鎖金ノ収入支出之ヲ現年度ノ歳入歳出ト為スルシ前條ノ拂戻金戻入金ノ出納閉鎖後ニ係

小五ノ亦同シ

第十八條 繼續費ハ毎年度ノ支拂残額ヲ繼續年度ノ終迄逐次繰越使用スルコトヲ得

第十九條 歳入歳出豫算ハ必要アルトキハ經常臨時ノ二部ニ分チツヘシ

歳入歳出豫算ハ之ヲ款項ニ分チスルシ
第二十條 特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第二十一條 豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正スル追加ヲ為スコトヲ得ス

第二十二條 豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス

豫算ノ各項金額ハ必要ナル場合ニ於テ町
村長之ヲ流用スルコトヲ得

前項ニ依リ豫算金額ヲ流用シタルトキハ次ノ
町村會ニ之ヲ報告スベシ

第二十三條 町村長ハ陽月例日ヲ定メ町村ノ出
納ヲ検査シ及毎年少クトモ一回臨時検
査ヲ為スルシ臨時検査ヲ為スルニ
検査ニ町村長會ハ於テ選舉シタル議員
二人以上ノ之ヲ會リ要ス

第二十四條 決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ
調製シ豫算ニ計スル過不足ノ説明ノ付ニ

第二十五條 決算ハ其ノ認定ニ關スル町村會ノ議決

ト共ニ之ヲ島司ニ報告シ且一定ノ形式ニ
依リ其ノ要領ヲ告示スル

第二十五條 財産ノ賣却價子ニ事テ請負及
物件^{賣却}其ノ他ノ供給ニ競争入札ニ附スルシ
但臨時急施ヲ要スルトキハ札價額其ノ貴
用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又町村會ノ同意
ヲ得タルトキハ此ノ限ニアラス

書式略

岡地 三〇六
七 十九 九

地方 添田

市町村課長 苗

市役 事務

市長就任御裁可件
岡山縣岡山市會

進達案其他畧

理由

岡山縣岡山市長岡田磐任期満限其ノ

第九九

後任後補者推薦方彙ニ別紙、通令令
相候知令般令市令議長長ヲ推薦書
差出候付調査ニ第一候補者タル中
山寛ハ履歴正書ニ記載セル如ク明治三十六
年實職法違反ノ為メ刑セラルルモノニ
有之候知事別申ニ初メ其ノ事實ヲ見
ルニ同人カ當テ縣會議員在職中岩田郡
津山町ニ高學ヲ以テ學校設立問題起リ同町
有志者ハ之ヲ通過シ計ラカ為メ中山寛ヲ
介シ今人所屬ノ政黨ニ金百圓ヲ贈賄シタル
知當時中山寛ハ其ノ政黨ノ幹事ナリシ間
係上今人若義ニテ贈賄金全ク收受シタル為メ
累ク及ホシタルモノニシテ全ク不腹ヲ肥シタ

此ノノニ急之而多現今同人ハ何レノ政黨政
 派ニ之關係ヲ有セス專心市政ニ執事シ居リ
 大正二年一月恩赦令ニ依リ復権ヲ得タルニ
 ノニ有之候然レトモ假令犯罪ニ宥如クハキ
 理由アリ又其ノ後復権ヲ得タルニモヨ一度
 擅職罪ニ問ハレタルノ市町村長ノ如キ重
 職ニ就カレタルニ之ヲ避クハキコト勿論ナルニテ
 不經末此ノ方針ニテ取扱ヒ来レルニ中山
 寛ハ既ニ三回助役就職認可ヲ得タルニ之
 有之今更之ヲ不適任トシテ其薦セサルハ
 國ノ設置トシテ統一ヲ缺キ不可然ニ義ト存
 候殊ニ之ヨリハ知刑後十数年ヲ經
 過シ現ニ今市高級助役トシテ勤務中ノ

之ノ有之知事ノ副市ニ依ルニ市長トシテ
 適當任ト認メラレ候ニ件ニ限リ特ニ
 上層制ハ可然我々本業不引候
 因ニ中山寛ハ知刑後復権ヲ得ル迄ノ間
 ニ於テ已ニ今市助役トシテ就職認可ヲ
 經ル後勤續十一年ノ今日ニ及フ

而

秋地 七九六〇
七九九

地方 添田

市町村課長 出

土木局長 坂田 佐上 丹前

年月日 通牒案 地方局長

秋田縣知事 先

道路ニ関スル條例改正ノ件 通牒

貴縣 中鹿郡 添田町 當請標記ノ件 秋收

第一〇〇

茲乙第五六九八号 御回答ニ依リ、條例第
 一條中、其、他、之、ト、ハ、十三線路外、局部
 的、交通、關係、ノ、線路、ヲ、其、ノ、關係、者、又、其、事
 用、者、ニ、修繕、セ、シ、ル、ト、シ、規定、シ、タル、趣、ニ、依
 リ、所、村、ニ、屬、ス、ル、事務、ヲ、條例、ヲ、以、テ、一部、住民
 ニ、對、シ、其、ノ、負擔、ヲ、當、セ、シ、メ、ケ、ル、カ、如、キ、違
 背、ト、被、存、在、ス、ル、カ、所、カ、修繕、ノ、義務、ヲ、負、ヒ、
 其、ノ、費用、ヲ、町、カ、地、課、ニ、課、シ、郡、長、ノ、許
 可、ヲ、得、テ、一、部、又、ハ、不均、一、地、課、ヲ、為、ス、何、等
 妨、テ、キ、キ、裁、ニ、候、得、者、經、テ、之、等、ノ、事項、ヲ、條
 例、中、ニ、規定、セ、リ、ト、ス、ル、取、テ、シ、テ、又、各、々、之、左、ノ、
 議、決、ニ、テ、是、ル、ハ、キ、事、柄、ヲ、ハ、修、定、條、例、ト、シ、テ、規定
 ス、ル、ノ、必要、之、會、ニ、ト、被、存、在、ス、ル、由、カ、セ、レ、メ、ス、
 (當、請、書、一、先、返、付)

增乙第一三六號

道路ニ關スル條例改正ノ件許可申請

增田町道路ニ關スル條例改正ノ件別紙ニ通リ
大正七年二月二十四日本町會議決シ經候條御
許可相成度町村制第百四十五條ニ依リ矢段
申請候也

大正七年三月十一日

秋田縣平鹿郡增田町長林松之輔

内務大臣男爵後藤新平殿

増田町道路ニ關スル條例

第一條

左ノ里道ノ修繕ニ總テ本町ノ負担トシ其
他ノ專用者及關係者ノ負担タルベシ

一 増田區合川原橋ヲ龜田區半助村。龜田

ヲ經テ隣村醍醐村堰合ニ通スル線路

二 龜田區下ノ町ヲ同區在城ヲ經テ隣村十文字

村腕越ニ通スル線路

三 龜田區半助村ヲ隣村十文字村腕越ニ通スル

線路

四 龜田區龜田ヲ澤口ニ通スル線路

五 龜田區半助村ヲ榎場ヲ經テ平鹿ニ通スル線路

六 龜田區半助村ヲ澤口ヲ經テ真人ニ通スル線路

七 龜田區半橋ヲ榎場ヲ經テ真人公園ニ通スル線路

八 平鹿ヲ真人公園ニ通スル線路

九 増田區中町縣道ヲ分岐シ田町福嶋ヲ經テ隣村

醍醐村野中ニ通スル線路

十 増田區中町縣道ヲ分岐シ新町。平鹿ヲ經テ田子

内街道ニ接続スル線路

十一 増田區七日町ヲ八木區ニ通スル線路

十二 八木區ヲ十文字村仁井田ニ通スル線路

十三 逢殿縣道ヲ分岐シ上村ニ通スル線路

第二條 前條ノ列記スル道路ニ架スル橋梁ハ總テ道

道路幅ノ三分之二以上タルベシ

第三條 本條例ノ許可ヲ受ケ發布ノ日ヨリ之ヲ施

行ス

第四條 明治三十二年十一月十五日內務省許可第一第

七六號許可増田町條例第四號、本條例施行、日ヨリ之レヲ廢止ス

理由書

道路ニ關スル條例ニ去ル明治三十二年中、制定ニ係リ爾來三十有餘年ヲ經過セル今日ニ至リテ、各區ノ事情上多少ノ變遷アリ隨テ里道ノ改修修繕費等各區其ノ負擔ヲ區別スルニ要ナク亦自治ノ本旨ニアラザルベシ且増田區四ッ谷ヲ雄勝郡西成瀬村へ通スル道路ニ昨年ニ於テ郡員担ニ編入セラレタラシキ以テ尙々其ノ改正ニ必要ヲ認メタリ

乙

山地 一三三

七十三

府縣課長 潮

但九

地方

市町村課長 田

事務

案

年月日

山口縣知事 宛

地方局長

戰時利得税附加税 閣下件通牒

十月十日地第六〇一。号より次々標記、件添申
次第七有之候得共 戰時利得税 付之申

附加税并特別税共賦課セラルト、没定相
成居矣奈右、御了知相成度

第一〇一

地第六一〇號

大正七年十月十日

山口縣知事 中川 望

内務大臣 末次竹二郎殿
大藏大臣 野村高橋是清殿

戰時利得税ニ地方税ヲ賦課スルノ件

上申

國運ノ發展ニ伴ヒ地方費ノ増高ニシテ
止ムル得サル所ニ屬シ殊ニ近時物價勞銀ノ
昂騰ニ諸給與並需用費ニ極多トシテ
支出ノ要シ膨張ノ度甚シカラントモ
有之候也地方税ニ付テハ法律上ノ制限有

之候為甚ニ財源ノ空乏ニシテ著シク
此ノ際地方團體ノシテ適當ナル財源ヲ得セシ
ムルハ刻ニ喫緊ノ要務ト存候最ニ政府ハ
戰時利得税ヲ起シ國費增加ノ急需ニ應ジ
ルノ方多ク採ラレタリモ本税ニ未ダ府縣制
市制及町村制ニ於ケル直接國税トシテ指定
セラレサル為凡ノ附加税ヲ徵收スルノ途無
之ニ非ルニ本税ノ如キ其ノ税質上ヨリ親ルモ
リ國税トシテ目上ノ急要ニ應スヘキ地方費
ノ財源トシテ恰好ノモノト存候存速ニ直
接國税トシテ指定相成凡ノ附加税ヲ徵
收シ得ルノ途ヲ啓キ以テ地方財政ノ調節節
資セシメラレ候様御詔諭ヲ遂ケラレ度此段上
申候也

件 府縣之特別稅戰時利得稅新設ノ
大藏省意見

別紙

大正五年七月三十日 大藏省
内務省御中

戰時利得稅法ノ三條中三ノ一ノ形取又ハ儲蓄
業者ノ砂金業ニ關スル權利者設備ノ
責却ニ因ル他人ノ利得ニ對シテハ特別稅ノ賦
課ヲ為サレシメ地方稅別法中三ノ一ニ
根據スルノ理由ヲ以テ府縣ニ對シテ特別稅戰
時利得稅ノ新設ニ關スル地方稅法中
ニ相成テ其戰時利得稅ニ對シテハ地方稅附

加稅ノ賦課セラルル立法ノ精神ニ本法制定
當時衆議院委員會ニ對シテ政府委員各
弁ニ對シテ明カニ對シテ其賦課稅ニ對シ
ニ特別稅ノ新設ニ在リテ其課稅標準ノ目的
トシテ地方稅ノ賦課スルカ如キハ立法ノ趣旨
ニ及ズルヲ以テ同意致謝ノ候爲御用考相
成度此亦及協議矣也

乙

陸地 七十九
地方 八

花押

市町村課長 出
府務課長 謝

小橋

通牒 案
年月日

局長

北海道廳長官 府務課長 謝

鐵道乘車證明書ニ關スル件一通牒

本年五月八日陸軍省告示第十一号ニ依リ陸軍
々人軍属鐵道乘車手續改正相成舊鉄

第一日二

道乘車證明書ハ六月三十日迄使用スルニトシ得ル
義ト被定候處最近ニ於ケル召集ニ際シ市區所
村役場ニ於テ尚舊様式ノモノヲ交付セル向有之
候為驛ニ於テハ之ヲ無効トシテ交付ケサルコト
應召員中ニ最寄役場ニ致リ新式ノモノト引
換リ請求シスニ証明書ヲ使用セ不全額賃
金ヲ夫ハヒラ出費スルノ已リ得サルニ至レルモ
アル等各種ノ混雜ヲ招キ候類ク大ニ注意
方陸軍省有リ通牒有之候ニ付此際市區所
村長等ニ御注意方請取計相成度

地方官官合
第百六十一号

乙

神理
七
十
十四

十
共
地理課長
會計課長
山縣

中務
地方官長
市所村課長

救護課長
山

内務省神理第九號

神奈川縣知事
地理課長

第一三三號

官有地無代下附ノ件依余通牒
九月二十六日第...
處該地域ノ畜省用地ヲ廢止候条相當地
目ニ組換ヘ無代下附ヲ為リ官有地特別處
分規則第一條第一號並官有財産代其規
程ニ依リ無料ニテ貸付セラレ可然矣

理由

本件ハ横浜市ニ於テ市設食品市場
ノ敷地ニ供スル為官有地ノ無代下附ヲ申請
スルモノニシテ市場トシテハ位置最適當ト認
メラレ候ヘ共同市ニ於テハ最初ノ所謂試
ニ屬シ且ツ附近ノ状況變遷如何ニ依リ得

夫永ク市場トシテ供用ニルヤ否豫則レ難ク
ヲ以テ讓與ヲ為ス莫ク有他、俟存置レ各
料貸附ニル方可然ト認ム

裏面白紙

乙

福地 七
九二
十三
廿三

地方 添田

市町村課長 出
府縣課長 堀

四野

小格

國ノ事業(逓信省ノ電信電話管轄)ニ
對スル地方公共團體ノ寄附ニ關スル件

寄附金一千三百圓

福島縣 耶麻郡 塩村

寄附金二千五百圓

縣令 郡 奥川村

本件ニ付ニ、逓信省ノ協議アリタルトキ、同
意スルモノトス

第一〇四

概カ

本件ノ如キ少額ノモノ、市町村ニ在ラハ寄附金額
五ノ百未満ニシテ、一ノ千五百圓以内ノモノ、且テ地方
局長ニ於テ処理スルニトシ、致度、府縣部ノ輕易
ナルモノニ付テモ、亦令條々處理致カ

地券五七〇六號

大正七年十月二十日

中川山口縣知事
依田山務省地方局長殿

未定
此後許可

水利組合創設の課後ノ件

九月二十五日山地第一二二号ヲ以テ厚狹郡
清野青善通水利組合創設ノ旨ヲ示シ
中評議員會費ニ関シ清野會相成
候知在ハ組合事業知亦ニ関シ概
シテ評議員ノ設置シト要スル費用ノ
計上シラレシノ有之候然レトモ事務ノ性
質上組合理事者又ハ組合會費ノ權

一〇五

限ニ属スルモノニシテ且組合規約中ニ之
ヲ認メタルモノ有之候存機ヲ見テ相
應止ムルニ考ヘ有之候間速ニ御許可相
成候様致度此後及由答候也

丙

山形
七一九
林

地方
市町村課長

日比野
九
野

照會案

年月日

山口縣知事宛
地方局長

貴縣原決別御控育通以利益合
標記票請書進達相成矣知本年友
水利組合別課稅件照會

貴縣原決別御控育通以利益合
標記票請書進達相成矣知本年友
水利組合別課稅件照會

乙

憲 一五二
七 八二

地方 審田

二二
府縣課長 齋
市町村課長 田

尺藏大臣 稿

次官 中野 主税局長 藤

從來未機之関ニ付ニ地方税ノ件
由發動機力ヲ利用スレ工業ニ付ニ動力
又ニ器具機械等ヲ標準トシテ賦課スル道

第一〇六

府縣市區町村ノ特別税ハ工業ノ發達ニ
影響アリ免レストノ理由ヲ以テ許可セサル例
ニ有之候知近キ是等工業者多ク發達シ
之ヲ生ズル收益モ亦少カラズ縱令之ニ若干
ノ課税ヲ爲スト莫ク是ニ影響アリ感セサル
ノニテラス現今ノ地方經濟著ク膨張シ
為ニ各地方共アリタル財源ヲ盡セルノ状況
ナルニ拘ラズ此等器械機関等ニ付ニテハ
課税ヲ禁ズルノ理由ニテハ勿論他ノ諸税ト
ノ間權衡ヲ得サル義ト被存候各右等
器械機関等ト是ニ時局中相當ノ利益
ヲ收メツアルモノニ付テハ工業ノ發達ヲ阻害
カサル限リ地方財政ノ状況ニ照シ適當ノ程

然度ニ於テハ課税ノ許可スルニトシテ決定相成可
然哉

案

地方主税両局長

器械機関等ニ對シテ課税ノ件依余通牒

又蒸気電氣等ノ力若クハ電力ヲ標準トシ

用スル工業等ニ對シテ機関等ノ物件ヲ標準ト

為シ課税スル通存縣市區町村ハ特別税ニ

付スル兼テ通牒相成居候知右ハ時局中之

等課税ト虽モ其ノ事業ニ相當ハ在リ且

地方財政ノ状況ニ照シテ不得止ト認レル由キ工

業ノ發達上支障ナキ程度ニ於テ論議可

相成宜条沛心得相成度

追テ新ニ事業ヲ開致スル者ニ對シテハ相

當ノ事由アル場合ヲ除クハ外一生ノ期間

課税セサルニトシ致度

香地 一〇三
 媛地 一一九
 高地 一四四
 五

丙

七
 十世
 地方
 添田
 府縣課長 朝
 市町村課長 苗

案

香川愛媛、高知各府縣知事宛
 局長

府縣貴分賦二箇之勅令省令改正
 申請、件通課

貴縣 香川郡香西町町長、温泉郡道後湯
 之町長及西宇和郡川之石町長 幡多郡

第一〇七號

宿毛町長及高岡郡上、加江町長了標記
 申請書提出有之候案、有者在所轄郡
 役所、且未經由二件將來此、種ノ申請書
 意見書等、監督官廳經由進達候様
 請傳達相成度

新刊

新刊 有略
大正七年六月廿五日 地外一二三号

大正七年六月十日

福岡縣知事 谷口留五郎

内務省地方局長 添田 敬一郎 殿

制限外課税ノ件ニ付回答

本縣三井郡山川村ニ係ル標記ノ件ニ付五月二十四日付丘地第一一三号ヲ以テ御照會ノ趣了承致候然ルニ從前御許可ノ例ニ有之ノミナラス右基本財産ノ造成ハ該村條例規定ニ依ルモノニシテ特別税致別割ハ田畑ニ關係アル水利費ノ為メニ土地所有者ニ負担セシムルモノニ有之經常的費用ナレバ若シ基本財産造成費ノ財源ヲ國稅徵收交付金ニ求ムル事ヲ得ズトモ事實上該財源ニヨリ造成ハ不可能ニ歸スベク尚該村稅ハ全郡ノ狀況ヨリ見テ苛重トハ認メ難ク候條此儘御詮議相成候様致度稟請書及再出候

丙

立地 一三
七五三

地方 橋田
市町村課長 次田

五五
大達

照會案
年月日
福岡縣知事 先
地方局長

制限の課税、件、件、照會
貴縣三井郡山川村標記、件、進達、相成
実を制限の課税、為之、方、基、本、財
産造成費、財源、國稅徵收、交付、金、至、

求、ル、ハ、不、可、然、義、之、事、亦、右、類、之、相、當、ス、レ、積
立、テ、停、止、シ、段、別、割、課、率、ソ、相、當、減、也
（別紙、相、件、一）

地 三七四
七 十一七
地方 七
添田
市 土九
町 村 課 長 當

大藏大臣

次官

主税局長 集

主税課長 勝

許可書

年月日 両局長

北海道廳長官 先

一九一九

特別税及別割條例ノ件 依余通牒
 貴管下室蘭区標記ノ件 許可相成候也
 左ノ通施行スルニト認メ 許可相成タル我ニ
 有之又條外中倉室蘭町ノ区域ト回輪西
 外ニ村ノ区域ト同ニ賦課ノ方去リ異ニ
 スル莫ニ付テハ 御前中ノ次第モ有之本年
 限リ特ニ詮議相成莫我ニ付來年度以降ニ
 在テハ慎重調査ヲ遂ケ課税ノ均等ヲ得シ
 ムル様致度又本年般別割ノ格別ノ事由
 ナキ限リ 無租地ニ對シ之リ賦課シ有租地ニ對
 シテハ附加税ヲ賦課セシムルニトシ 措置セシメラ
 レ度

(左記思)

大正七年十一月七日
地方 田
市町村課長 田

大藏大臣

次官 田

主税局長 田

主税課長 田

年月日

北海道廳長官 田

特別税建初條例 件 奉命通牒

貴官下室蘭区標記 件 許可相成候也
左ノ通 施行之ルニ付 認ノ許可相成タル義ニ
有之又條例中 倉室蘭所ノ区域ト倉輪西
村外ニ付 区域下ノ間ニ賦課ノ方法ヲ異
ニセラル莫ニ付テハ 御副申ノ次第モ有之特ニ
詮義相成候義ニ付 來年 度以降ハ慎重
調査ヲ遂ケ 同一賦課方法ノ下ニ 規定セシム
ル 標 措 置 セシムル 度

左記 田

乙

七

十一 十五

三二

地方

務

市町村課長 岡
府務課長 朝

少務

低利資金支出ニ関スル全國農工銀行
同盟會決議事項陳情要領供覽

東武府農工銀行頭取 齋藤重高
土佐農工銀行頭取 山本忠秀

宇佐美敬三郎

陳情要旨

低利資金支出ニ際シニ重機関ヲ通過シ其ノ

第一一

間接ニ金利ノ昂進ヲ招クハ低利資金供給ノ
精神ニ及スルヲ以テ日本勸業銀行ノ取扱ニ
関スル分ニテ日本勸業銀行ニ農工銀行ノ
取扱ニ関スル分ニテ直接農工銀行ニ交付セラ
ル様途ヲ開カレタシ

右同盟會ノ決議ニ基キ次官ニ陳情シタル
モノナリ

本件ハ左記ノ理由ニ依リ内務省トシテハ別ニ異
議ナキモ大藏省ノ主務官事項ナルヲ以テ同省
ノ決議ニ基キ決定スルハキ問題ナレハ此儘御
高覽ニ供ス

理由

低利資金ノ融資ハ勸業債券ノ引受ニ依ルカ

故ニ勸業銀行ヲ經由スルニトナルモ大蔵省
須金部カ農工債券ヲ引受クルトキハ直接農
工銀行ニ融通スルヲ得ハレ
但シ大蔵省カ少額ノ農工銀行債券ノ發行
ヲ認メ之ヲ引受クルカハ問題ナリ

一 勸業銀行ノ引受利率ハ年四分八厘ニシテ農
工銀行代理貸ハ三万円以上ハ年五分六厘三万円
以下ハ年六分一厘ナレハ三万円以上ハ八厘三万円以下
ハ一分三厘ノ利益ナリ而シテ勸業銀行ト農工
銀行トノ年敷料割合ハ勸業銀行三分農
工銀行七分ナリ 故ニ左ノ割合トス
勸業銀行 農工銀行
三厘以下 三厘九毛 九厘一毛

三万円以上 二厘四毛 五厘六毛
一 直接ニ農工銀行ニ融通スル場合ニ勸業銀
行ノ貸付利率 五分六厘ト同率トセハ市町村ハ
利子五厘ヲ減スルノ益アリテ別ニ不都合ノ莫
クナシ

ル

地方 七十三

潘

市町村課長 田

文書課長 齋藤

電報回答案

佐賀縣知事宛 地方局長

聯合國ニ對シ直接祝賀文ヲ發送スルノ件
妨ナシト存ス

理由

外務省政務局ヨリ電話ノ回答ニ依リ「従来團
体ヲ本省並各國大使ノニキリ經テ祝賀文ヲ
發送ヒレモアルモ直接發送セルモ多ク且ツ別ニ
差支ナシト存ストノニ致シテ本案相伺矣

第一二二

文書課長

佐賀縣知事

十二月二日表
市より直接聯合國に對し祝賀文ヲ
發送し差支ナキヤ

323

裏面白紙

乙

三十一
七
地一五四
十九

地方 添田

市町村課長 出

事務官 山縣 長壽 齋藤

一、三重縣令印鑑規則、件

本縣令、其、第二條、市役所、町村役場、二印
鑑簿、リ、備、ス、キ、ト、シ、命、ス、ル、ノ、條、項、ハ、右、ノ
市制第九十三條、町村制第七十七條、依、リ、團
體、ノ、機、關、タル、市、町、村、長、ニ、對、シ、事、務、ヲ、命、ス、ル、ノ、ニ、對、シ、認
ニ、シ、テ、團、體、ニ、對、シ、事、務、ヲ、命、ス、ル、ノ、ニ、對、シ、認

ト、シ、レ、其、他、別、ニ、不、都、合、無、之、存、此、條、供、高、覽

三重縣令 印鑑規則 (抄)
第一條 市役所 町村役場 二印 鑑 呈 帳 備

第一一三號

ハシ
印鑑ノ届出ヲ為シタル者死亡シテハ失踪ノ宣告
ヲ受ケタルトキハ其ノ死亡スルハ失踪届出ニ義務者
ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ其ノ旨ヲ
届出ツヘシ

印鑑ノ届出ヲ為シタル者其ノ氏名住所又ハ本
籍地ヲ変更シタルトキハ三十日以内ニ其ノ旨ヲ
届出ツヘシ

第七條 前條第一項第二項ノ届出アリタルトキハ之
ヲ印鑑臺帳ヨリ除キ別帳簿ニ貼付シ保存
スヘシ

印鑑臺帳ハ届出人住所地ノ大字毎ニ口座ヲ設
ケ調製スヘシ但土地ノ状況ニ依リ届出人氏名

ノ頭字ヲ添テハ別ニ口座ヲ設クルトシ得
印鑑臺帳ニハ各口座毎ニ進行番號ヲ附スヘシ

第八條 印鑑ノ證明ヲ受ケタルトキハ本人ハ市役
所又ハ町村役場ニ出頭シ所定ノ印鑑用紙ハ
交付ヲ受ケテ之ニ印章ヲ押捺シ請求スヘシ

前項ノ場合ニ於テ本人出頭スルニト能ハサルトキ
ハ書面ニ其ノ旨ヲ記載シ請求スルコトヲ得
附則

第九條 本令ハ大正五年十一月一日ヨリ施行ス
第十條 明治三十八年大正九号印鑑取締規程
ハ之ヲ廢止ス

天第九拾九号

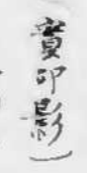
明治七年縣第四拾四號 同第五拾參号
印形刻印鑑簿編製ノ義布達ニ及置矣
右ハ詮議ノ次第有之取消更ニ左ノ通印鑑
取締規則相定矣條此旨布達
明治八年十月十日

三重縣權令 岩村定高

印鑑取締規則

- 一 各小区扱所ニ於テ区内町村毎ニ各印鑑簿ヲ作り實印照查ノ用ニ備フヘキ事
- 一 印鑑簿ニ用紙美濃紙堅ニ兩折トナシ一枚ニ十二名ヲ列記スヘキ様ニ製スヘシ

一 記名捺印ノ式ハ左ノ通



印影 姓名

- 一 印鑑簿ニ先ツ店主ヲ列記シ次ニ非店主ノ部ヲ設ケ子弟婦女傭人等ニ實印所持ノ向ヲ列記シ入次ニ寄留人ノ部ヲ設ケ他管ヲ寄留ノ者ヲ列記スヘシ
- 但本人當今他所ニ寄寓シ押印差支ノ向ハ次款手續ヲ以テ短冊ヲ差出スヘシ
- 一 今後實印ヲ改正或ハ新造スル者ハ短冊ニ記名押印シ印影ノ上ニ何ニ作改正或ハ新造年月日ヲ所用ノ者ヲ記シ扱所ニ差出ス扱所ニ於テハ之ヲ簿冊ノ其部ニ貼付スヘシ
- 但短冊押印記名ノ式ハ第三款ニ同シ用紙ハ

美濃紙ヲ堅ニ十四切ニセシモノヲ用フ
 一 改印届ハ官負教道中職区戸長諸取締役選
 卒用掛士族爲替方等縣廳ニ於テ印鑑用
 ノ向ハ縣廳ト扱所トニ差出スヘシ尤縣廳ヘノ
 届書式ハ是迄ノ通リタルヘシ
 一 改正新造ニシテ印形ハ曲尺三分ヨリ六分ニシテ度トス
 印字ハ本人ノ姓名差クハ名ニ限ル印材字体ハ隨
 意タルヘシ唯西洋字ハ當分用フヘカラス
 右印鑑簿編製ハ本月中旬ヨリ着手シ十月三十
 日迄ニ整齊スヘシ

立地 二三三
七 十二七
地方

十二九
市町村課長 出

大藏大臣
次官

主税局長 松本
國税課長 勝

通牒案

年月日 地方局長

福岡縣知事 宛

及別割條例等件付通牒
貴縣浮羽郡柴刈村標記ノ件本日許才
成知同村會ニ反別割條例案ノ外別ニ其
賦課率及賦課率ノ反別割條例案ノ外別ニ其
共本件如ク一年年限リ賦課率ニシテ其賦課
年及賦課率ノ條例規定ニ於テ確定トシ
合ニ更ニ議決ヲ要セザルニ義我ニ付此旨ヲ示達
來注意セシメラレ云

丙

第七五六〇

地方

市町課長 出

小島 属

通牒 案

年月日

地方局長

佐賀縣知事 宛

市町事務、件ニ付通牒

曩ニ貴省負ノ取シ貴縣下市町事務ノ
視察トシテ之ノ際整理改善ヲ要ストル
ノ注意ヲ興メ置キタル事項左記ノ通ニ付御
参考迄及通知候

第一五

佐賀市

- 一、過年度ニ属スル市税ニシテ整理未了ノ分
別カラス連ニ整理ノ方途ヲ請フニ付
- 二、収入税ノ決算書提出遅延ノ傾アリ左ニ
見ス法定ノ期間内ニ提出スルニ付
- 三、市費支辨ニ属スル護岸敷、道路敷使
用料、ノ年度末ニ至リ一括徴收スルノ取
扱ニ妥当ナラズルニ付之ヲ更ケルニ付
- 四、市金庫事務取扱銀行ヲ以テ担保品
ノ高該銀行ニ保護願トモハ適出ナラズ

廿ルニ依リ他ニ保集在ノ方情ヲ講ニル
 五洲報云丁卯年三月二十八日市會ノ議決ヲ經テ
 賣却スル市有土地是建物ハ合名義上
 市所至ニシテ之ニ對シテ課税ノ買受者
 負担シテ存リ且ノ權利ノ計屬明確ヲ缺ク
 ヲ以テ其ノ間條ヲ明ニルノ方情ヲ操ルニ下
 東和浦郡唐津町
 一 基本財産ハ收入後ニ其管理日ヲカニシ右ハ
 成起通リ町長ノ管理ニ移スニト

内務省

信第百五十一號 回答 大正七年十二月二十八日

通信次官
内務次官 殿

國、事業ニ計シ寄附金ニ付

抄 内務省考地分一八号 七年九月三十一日附
中務省考地分一五号 七年十月二十六日 照會

右御来照、本年七年度分ニ付テハ該協議方
ニ對シテ閣議已ニ豫算編成後ニ在リタルヲ
以テ御了知相成度

進テ本省豫算編成ノ際ニ寄附金ノ資
格ヲ豫想ヒサルニ付豫算編成前ニ於テ本
件ニ對シテ豫ノ御協議ニ及ラズト全ク不可

能ノ義ニ非有之候ニ付ハ本年度ノ事業ニ付
シテハ豫算通りニ進レ可ク團體ノ寄
附申出アル場合ニ其ノ都度御協議ニ
及ラヘク候

二六

山

卷一八六
七九六
地方

添田

九十五
市町村議長
府縣議長
湖

照會案
年月日
通信官宛
次官

國ノ事業ニ對シテ寄附ノ件照會
貴省ニ在リ左記事業ニ在リ左記ノ團體
ノ寄附ノ申請書ニ有之候處右ニ
片付ニ未タ然年十月閣議決定ニ基ク御

協議會之様波認食ニ付御取調相成度

左記畧

乙

石地七
一二七

七
十二
廿三

地方

信田

市町村課長
府縣課長
潮

三十八

少務

通牒案

年月日

石川縣知事宛

地方局長

不動産取得税ノ件 通牒

中興縣標記ノ件ニ關シ本月二十日發給第ニ七
八号ノ以テ御回答ノ次第有之云云知本件ハ

市制第百六十一号第ニ項又ハ第百六十三号第
ニ項第九十号第ニ項第百六十五号第ニ項ヲ適用セシメテ
満十ニ解決シ得候様持ニ御配慮相成度

第一二七

丙

七十二

地方

添田

府縣課長
市町村課長
七五〇

電報案

地方局長

不動産取得後
建物権利移轉
止リナシ
見込
十
高
念
業
知
二
三
七
五
〇

巨川縣知事宛

可ノ上ニ
市
地

課税

丙

新地 七四五

地方 五

市町村課長 留

尾戸 属 三六

通牒 安未

年月日

新潟縣知事 地方局長 先

村會議員定数増加條列件通牒

貴縣中 新潟縣 兩川村 現任人口五千
成候 現任人口五千

第二八

人以上之人口を有する町村は四十一年末及大正二年
未人口報告の際 誤謬ありしを内閣統
計局告示ノ人ノ何レ之五千人を滿たり現任
ノ村會議員ノ定数ハ右ニ依ラサルヘカサルニ其
時之ニ心付カス議員定数十八人ノ遺出ニ趣
斯ノ如ク法定教員ノ超過ノ議員ヲ選
舉シテ之ニ當リテ遺出タルノ其ノ關係ニ
処頭ニ重大ニシテ容易ナラサル失態ニ有之由
出當時 誤謬ノ報告ヲ敢テ且之ニ心付カ
レ村長ノ不都合ハ勿論ニ候得共如此違
ニ付シ監督上何等ノ措置ヲ為サス人日迄
持續シメタルニ畢竟第一次監督官廳
郡長ニ於テ監督不行届ノ結果ト被認甚

夕遺憾ニ不堪矣殊ニ大正三年十二月廿五日該村
長ヲ諮詢訂正方申出ケル趣ナルニ其時ノ
郡長ニ於テ直ニ其ノ手續ヲ為サス其ノ先遣職
死亡シ假令後任郡長ニ事務ノ引継ナカリ
ニモヨ現任郡長ニ於テ今日迄之ヲ發見スルモト
能ハサリシカ如キハ監督上甚ク不都合ノ次第
ニ有之實條嚴シク將來ノ注意ヲ與ス置カレ
度為村耆長者ニ討シテ相者戒飾ヲ為シ
其ノ結果請報告相度

達ヲ本件人口諮詢訂正官報第一六七四号ニテ
正誤相成其ノ結果改選期ニ在リテ該村ノ人
口ニ依ルノ修治政定ノ必要無之矣
原封方請示達別紙返附相度

内務省

要再回

七
十月廿一

今野 属

地方

市町村
照会物

山田

近藤

年月日

地方官長

北海道知事(岡山縣知事) 各府知事

至急 取戻

二九

町村吏員報酬給料額、件照会
町村吏員優遇、為其、報酬給料

類、標準等、ヲ、示セラレタリ、ト有之候ハ、
其、号、至、急、申、出、送、相、成、交、為、其、実、
行、方、法、之、関、シ、措、置、セラレタリ、ト有之候ハ、
兼、知、政、及、又、示、効、果、ニ、付、申、出、調、
査、相、成、居、候、ハ、保、テ、申、出、報、相、成、及、

六

介地才二九
七十三三

地方 添田

三五
市町村長
長

并

直標案

年月日 局長

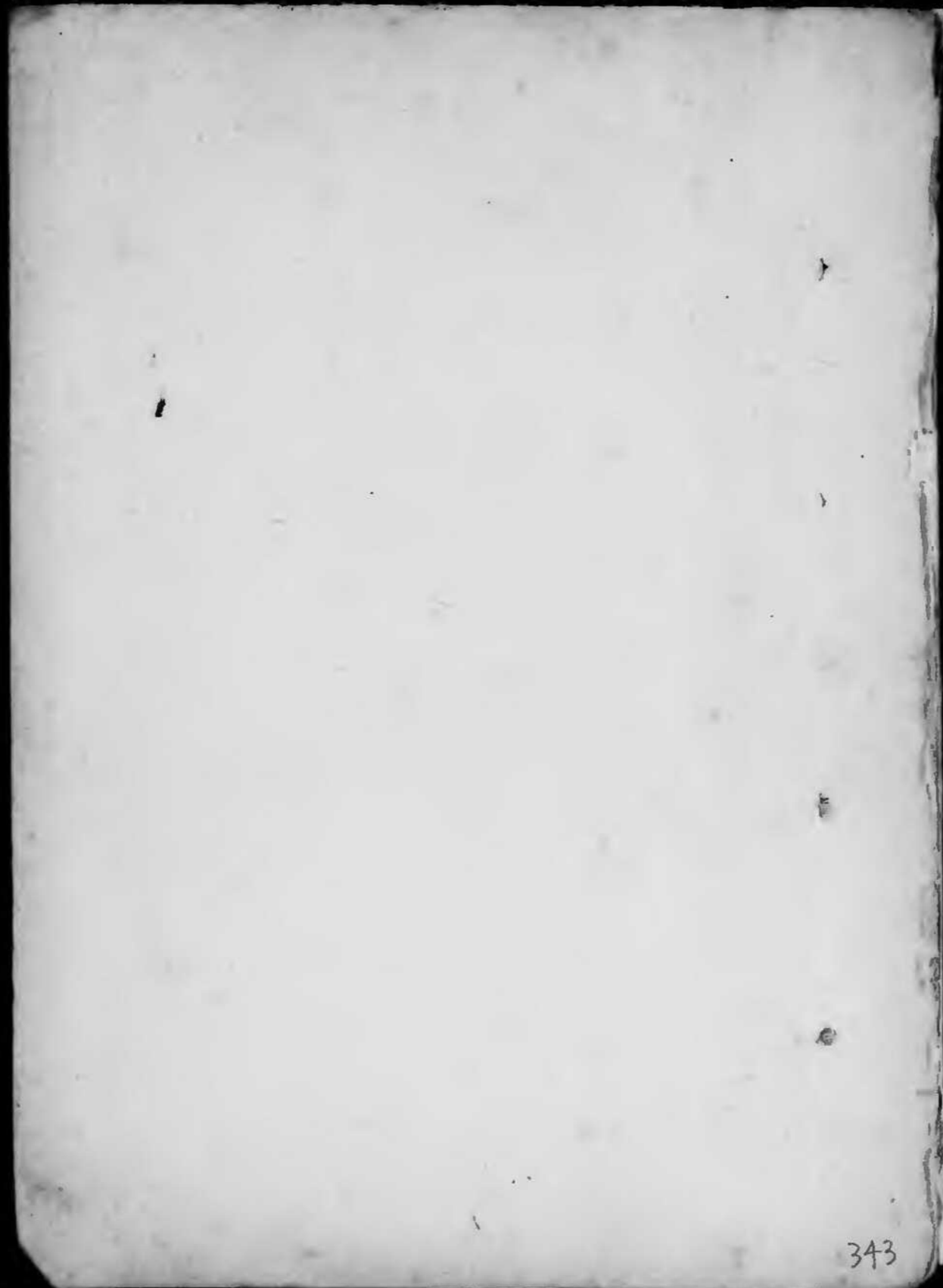
大分縣知事宛

日用品市場使用料及多教材料修費
ノ件依命直標

貴縣大分市標記ノ件本月十日地才四七
二一號ノ二リ次々回答相成 貴知 該記別中

二一〇

ニ要極品ノ老産負担ニ関シテハ 何等ノ定
メ量之ヲ相有知生トシテ可



343

